

Musashigaoka College  
Department of Health Science  
Nutrition /Sports Science /Management

# SYLLABUS

2024



授業計画

武蔵丘短期大学

健康生活学科

健康栄養専攻／健康スポーツ専攻／健康マネジメント専攻

# 建学の精神

## 建学の精神

優れたプロは、優れた人格を有する。

身体で覚えた技術は、一生を貫く。

本学の建学の精神は、『優れたプロは、優れた人格を有する。身体で覚えた技術は、一生を貫く。』です。

本学園は、戦後まもない昭和 22 年に市民の「衣」を充足すべく「武蔵野ドレスメーカー女子学院」を立ち上げ、その後「食」を教育する「武蔵野クッキングスクール」を設立しました。時代の変化に合わせて、美から生活を豊かにするファッション教育、調理により食の文化を極める教育機関として社会へ貢献し、さらに、食から健康生活を指導できる栄養士養成機関を設立しました。これに運動・休養の要素を加え、人類普遍のテーマである「健康」を実践的に指導できる人材育成をめざし本学を開学しました。

「衣食足りて礼節を知る」と言います。学園の教育理念は優れた人格を育てることに重きをおいています。本学園創立者後藤守正は、『本学の役割は社会に貢献できる人材の育成である』『学ぶ者一人ひとりに、感謝の気持ちを大切に作る心を育てる』『人々の幸せと健康づくりに役立つための実践的に分かりやすい体得できる授業を行う』と述べています。

学園の教育理念には二つの柱があります。一つは「優れた人格を育てること」、一つは「実践的なわかりやすい教育を行うこと」です。『体感、体験、体得』をモットーとした教育を行っています。

建学の精神により、寄附行為第 3 条に『実践的かつ優れた人格を育てる教育に従い、社会の発展を担う人材を輩出する』と建学の理念を謳っています。本学の学則第 3 条には、栄養科学、運動スポーツ科学の融合の基、実践的指導者を養成することを目的として、自ら学ぶ積極性、探求心を涵養し、豊かな人間性の涵養を図り、地域社会の発展に寄与することを目標としています。

## 武蔵丘短期大学教育目標

### 武蔵丘短期大学 教育目標

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成

二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成

三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成

四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

### 【校章】



緑豊かな環境に恵まれた武蔵丘短期大学。このマークは自然（グリーン）と本学（M）の調和を表し、そこで学ぶ若者たちへのメッセージとして、創造、勇気、慈愛という言葉をもつ3つのリングに託しているのです。本学はどんな時にでも健康生活のリーダーとして次世代を担う若者たちへ熱きエールを贈り続けているのです。

## 専攻別の教育目的・教育目標

本学 健康生活学科は、健康栄養専攻と健康スポーツ専攻の2専攻から構成される。次に専攻別の教育目的・教育目標をあげる。

### (1) 健康栄養専攻の教育目的・教育目標

#### ① 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実を図り、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

#### ② 教育目標

- 健康な体と心を食から支える力を養う
- 実験・実習で実践力・行動力を養う
- 栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康についても学ぶ

### (2) 健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

#### ① 教育目的

スポーツをする・みる・知る・ささえるという観点からスポーツの正しい知識と技能を修得させ、健康生活を総合的にささえることのできる人材を育成する。

#### ② 教育目標

- スポーツで心身を鍛え、社会に貢献できる能力を養う
- 健康づくりの実践的指導者となる能力を養う
- 運動およびスポーツを安全に効果的に、楽しく継続するための手法を身につける
- スポーツを通じて社会をささえる支援者として、地域・産業界に貢献する能力を養う

# 武蔵丘短期大学 3つの方針（ポリシー）

## ◆ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

### 健康生活学科

本学は建学の精神、教育理念に基づき、学位授与の方針を定めている。学則に明記された卒業要件を満たした以下の者に学位を授与する。

礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を有した慈愛あふれる社会人となる資質を備えている者。

自ら学ぶ積極性と探究心を育みつつ、広い視野と深い思考力を身につけ、栄養科学と運動スポーツ科学の理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、社会に貢献できる実践力を身につけた者。

### 健康栄養専攻

様々な現場に対応できる栄養の専門知識・技術を身につけ、さらにスポーツに関する基礎知識を加えた総合的な健康管理の指導技術を修得している。

### 健康スポーツ専攻

運動スポーツ科学・栄養科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための幅広い知識と技能を修得し、健康づくりの実践的指導者となる能力を有している。

## ◆ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 健康生活学科

本学は、自ら学ぶ積極性と探究心を持ち、豊かな人間性と社会性、充実したコミュニケーションスキルを有した、社会に貢献できる健康生活の実践的指導者を育成する。この目的のために、基礎教育科目等、共通専門教育科目及び専門教育科目を設置し、講義、演習、実験、実習、実技の授業形態を体系的に配置している。

基礎教育科目等を中心として、礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を育み、現代に必要なコミュニケーションスキルを持ち、社会に貢献できる資質を培う。

共通専門科目で、栄養と運動・スポーツに関する理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、健康生活を科学する実践力を養う。

### 健康栄養専攻

専門科目を通して、高度で多彩な要求に対応できる栄養に関する専門知識・技術を育む。

### 健康スポーツ専攻

専門科目を通して、運動スポーツ科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための知識と技能を育む。

## ◆ アドミッションポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

### 健康生活学科

本学の求める学生像とは、これらの教育目標に向けて、何事にも全力投球できる人、目的意識の明確な人、そして何よりも本学において学びたいと強く希望している人です。

### 健康栄養専攻

栄養士資格を主として栄養の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

### 健康スポーツ専攻

運動・スポーツの実践的指導の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

## 武蔵丘短期大学 学習成果

## ◆ 学習成果（Student Learning Outcomes）

本学の学習成果は、建学の精神である人格の育成を通して、自ら学ぶ積極性と探究心の涵養、学習意欲の向上、豊かな人間性の涵養を図り、各専攻での専門性を身につけ、実践的な指導者としての能力を身につけることである。

各専攻の学習成果は建学の精神にある人格教育に基づき定めた教育目的を達成できたかどうかである。以下に各専攻の学習成果を示す。

### 健康栄養専攻

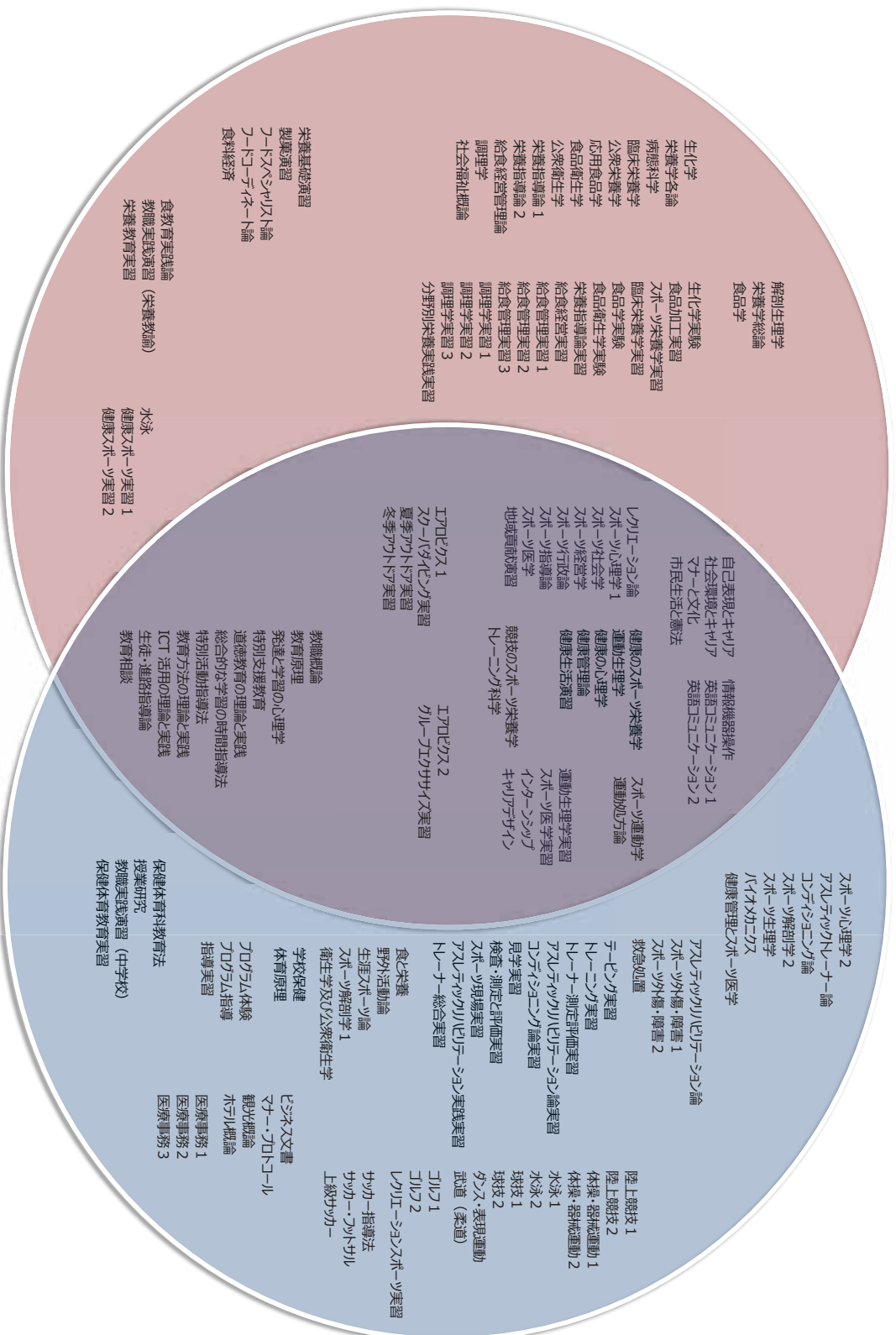
食生活を中心として、健康生活を運動・スポーツを含めて総合的に支援する実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

### 健康スポーツ専攻

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

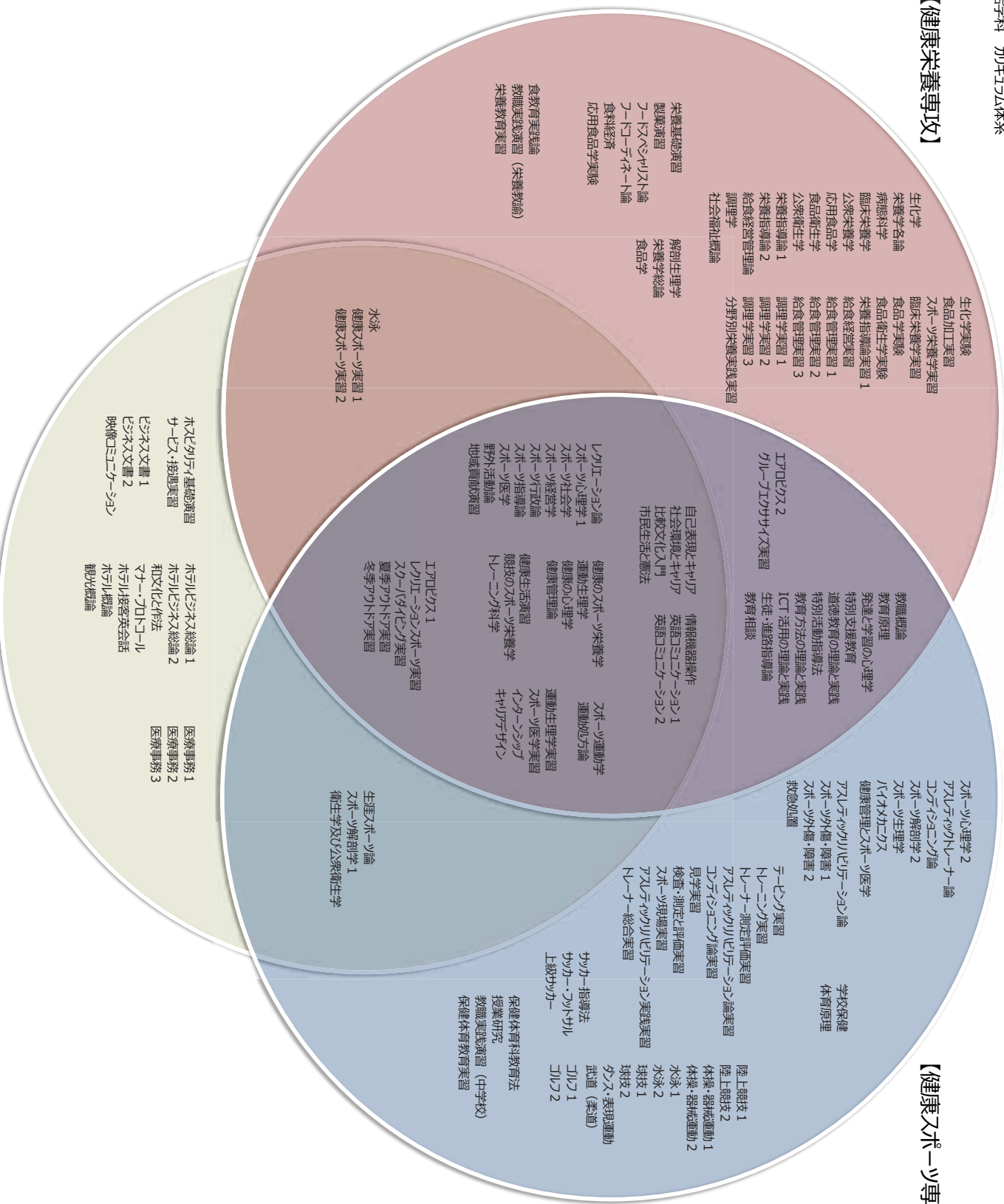
【健康栄養専攻】

【健康スポーツ専攻】



【健康栄養専攻】

【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】



# シラバスについて

本学は、教育理念である「人格教育」→「専門知識の習得」→「社会への貢献」に基づき人材養成の目標を学則上に定めております。また、学生へのメッセージとして「創造」「勇気」「慈愛」の想いを込めた校章を公表しております。

こうした本学の基本方針及びカリキュラムポリシーを具現化していくために、各授業科目の内容を記したものがシラバス（授業計画）になります。学生は、各授業を履修するにあたり、ご活用ください。

## ◆アクティブ・ラーニングの要素を含む授業について

下記のアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行っている場合は、「授業形態」欄に「アクティブ・ラーニング」と記載されています。

- ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- イ ディスカッション、ディベート
- ウ グループワーク
- エ プレゼンテーション
- オ 実習、フィールドワーク

## ◆実務家教員による授業科目

「担当教員名」の右端の欄に「**実**」と記載のある科目は、実務家教員による授業科目を表します。

## ◆科目ナンバーについて

科目ナンバーは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものと なります。ただし、授業科目の大きな再編等があった場合は、再付番することがあります。

科目ナンバー（例） **NSM** - **B 1 023**  
① ② ③ ④

①…「開講されている専攻」を表します。

N：健康栄養専攻 S：健康スポーツ専攻 M：健康マネジメント専攻

②…「科目の種別」を表します。

B：基礎教育科目 S：専門教育科目 T：教職に関する専門教育科目

③…「科目のレベル・性格」を表します。

No.	レベル・性格	No.	レベル・性格
1	全学教育科目（英語2を除く）	5	発展的な演習・実習・実験・実技
2	基礎的な内容の科目、英語2	6	健康生活演習
3	発展的な内容の科目	9	レベル分けが困難な科目 (インターンシップ、教育実習 等)
4	基礎的な演習・実習・実験・実技		

④…「分類番号（数字3桁）」通し番号を表します。

# 授業科目及び開講年次配当表

1. 基礎教育科目等（健康栄養専攻）

令和6年度・2024年生

区分	授業科目の名称		単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭免許状	掲載ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め10単位以上	半期	2					24	
		マナーと文化		2		半期		2					25
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2					26
		市民生活と憲法		2		半期	2					○	27
	自然	情報機器操作		2		半期	2					○	28
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2					○	29
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2			30
合計			4	10									

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上

2. 専門教育科目 (健康栄養専攻)

令和6年度・2024年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フーズスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブリマントアドバイザー	スポーツ栄養士共通Ⅲ	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期											
						前学期	後学期	前学期	後学期											
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学	2		5科目必修	半期		2			○	○		○					○	32	
	運動生理学	2			半期		2			○	○		○				○	○	33	
	健康の心理学	2			半期	2						○				○				34
	健康管理論	2			半期	2					○		○			○				35
	健康生活演習	2			通年				2											36-49
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2											50
	スポーツ運動学	2			半期			2			○		○							51
	運動処方論	2			半期		2				○		○			○				52
	レクリエーション論	2			半期			2				○							○	53
	スポーツ心理学1	2			半期			2			○	○	○						○	54
	スポーツ社会学	2			半期			2											○	55
	スポーツ経営学	2			半期			2											○	56
	スポーツ行政論	2			半期			2											○	57
	スポーツ指導論	2			半期			2											○	58
	スポーツ医学	2			半期			2				○		○		○			○	59
	地域貢献演習	1			集中			1												60
	解剖生理学	*2			半期	2					○	○		○						61
	栄養学総論	*2			半期	2					○			○		○				62
	食品学	*2			半期	2					○			○		○				63
	生化学	*2			半期		2				○									64
	栄養学各論	*2			半期		2				○			○		○				65
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2			半期		2				○			○		○				66
	臨床栄養学	*2			半期			2			○			○		○				67
	公衆栄養学	*2			半期				2		○									68
	応用食品学(加工学含)	*2			半期			2			○			○		○				69
	食品衛生学	*2			半期	2					○			○		○				70
	公衆衛生学	*2			半期			2			○				○	○				71
	栄養指導論	1	*2		半期		2				○									72
	給食経営管理論	*2			半期	2					○									73
	調理理学	*2			半期		2				○			○						74
	生化学実験	1			半期				1		○									75
	食品加工実習	1			半期				1		○			○						76
	運動生理学実習	2			半期			2				○							○	97
	スポーツ栄養学実習	1			半期			1			○									77
	臨床栄養学実習	1			半期				1		○									78
	食品学実験	1			半期	1					○			○						79
	食品衛生学実験	1			半期		1				○			○						80
	社会福祉概論	2			半期				2		○									81
	栄養指導論	2			半期				2		○									82
	栄養指導論実習	1			半期			1			○									83
	給食経営実習	1			半期		1				○									84
	給食管理実習1	1	1		半期			1			○									85
	給食管理実習2	1			半期				1		○									86
	給食管理実習3(校外実習)	1			集中				1		○									87
	調理学実習1	1	1		半期	1					○			○						88
調理学実習2	1	1		半期		1				○			○						89	
調理学実習3	1	1		半期		1				○			○						90	
分野別栄養実践実習	1			半期				1											91	
フーズスペシャリスト論	2			半期			2						○						92	
食料経済	2			半期				2					○						93	
フードコーディネーター論	2			半期				2					○						94	
栄養基礎演習	1			半期	1														95	
製菓演習	1			集中				1											96	
インターンシップ	2			集中			2												164	
トレーニング科学	2			半期			2											○	116	
スポーツ医学実習	1			集中			1				○							○	98	
水泳	1			半期	1						○								102	
エアロビクス1	1			半期	1						○								148	
エアロビクス2	1			半期			1						◇						149	
グループエクササイズ実習	1			半期			1						○						147	
健康スポーツ実習1	1	1		半期	1						○								100	
健康スポーツ実習2	1	1		半期		1					○								101	
スクーバダイビング実習	1			集中				1											168	
夏季アウトドア実習	1			集中	1														166	
冬季アウトドア実習	1			集中		1													167	
キャリアデザイン	2			半期				2											169	
計		11	93	52	において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修															

1. 基礎教育科目等（健康栄養専攻）

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称		単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭免許状	掲載ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め10単位以上	半期	2					24
		比較文化入門		2		半期	2					-
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2				26
		市民生活と憲法		2		半期	2				○	27
	自然	情報機器操作		2		半期		2			○	28
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2				○	29
		英語コミュニケーション 2		2		半期			2			30
合計			4	10								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フーズベジタリアスト	健康管理士一般指導員	NR・サブリマントアドバイザー	スポーツ栄養士共通Ⅲ	掲載ページ			
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期												
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2			○	○		○					○	32		
	運動生理学		2		半期			2			○	○		○			○		○	33	
	健康の心理学		2		半期	2							○			○				34	
	健康心理学論		2	半期			2				○		○						35		
	健康生活演習	2			通年			2												36-49	
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2											50	
	スポーツ運動学		2		半期			2				○		○						51	
	運動処方論		2		半期		2					○		○		○			○	52	
	レクリエーション論		2		半期			2					○							53	
	スポーツ心理学1		2		半期			2				○	○	○						54	
	スポーツ社会学		2		半期			2												55	
	スポーツ経営学		2		半期				2											56	
	スポーツ行政論		2		半期				2											57	
	スポーツ指導論		2		半期				2											58	
	スポーツ医学		2		半期			2				○		○					○	59	
	地域貢献演習		1		集中			1												60	
	解剖生理学	* 2			*印の科目から11科目22単位以上必修	半期	2				○	○		○						61	
	栄養学総論	* 2		半期		2					○				○	○	○			62	
	食品学	* 2				半期	2				○				○		○			63	
	生化学	* 2				半期		2			○									64	
	栄養学各論	* 2				半期		2			○				○	○				65	
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	* 2				半期		2			○				○					66	
	臨床栄養学	* 2				半期			2		○				○	○				67	
	公衆栄養学	* 2				半期				2	○									68	
	応用食品学(加工学含)	* 2				半期			2		○				○	○				69	
	食品衛生学	* 2				半期	2				○				○	○				70	
	公衆衛生学	* 2				半期			2		○				○	○	○			71	
	栄養指導論1	* 2				半期		2			○									72	
	給食経営管理論	* 2				半期	2				○									73	
	調理学	* 2				半期		2			○				○					74	
	生化学実験	1				半期				1	○									75	
	食品加工実習	1				半期				1	○				○					76	
	運動生理学実習	2				半期			2			○								○	97
	スポーツ栄養学実習	1				半期			1		○									77	
	臨床栄養学実習	1				半期				1	○									78	
	食品学実験	1				半期	1				○				○					79	
	食品衛生学実験	1				半期		1			○				○					80	
	社会福祉概論	2				半期				2	○									81	
	栄養指導論2	2			半期				2	○									82		
	栄養指導論実習	1			半期			1		○									83		
	給食経営実習	1			半期		1			○									84		
	給食管理実習1	1			半期			1		○									85		
	給食管理実習2	1			半期			1		○									86		
	給食管理実習3(校外実習)	1			集中				1	○									87		
	調理学実習1	1			半期	1				○				○					88		
調理学実習2	1			半期		1			○				○					89			
調理学実習3	1			半期		1			○				○					90			
分野別栄養実践実習	1			半期				1	○									91			
フーズベジタリアスト論	2			半期		2							○					92			
食料経済	2			半期				2					○					93			
フードコーディネーター論	2			半期				2					○					94			
栄養基礎演習	1			半期	1													95			
製菓演習	1			集中				1										96			
インターンシップ	2			集中			2											164			
トレーニング科学	2			半期		2												○	116		
スポーツ医学実習	1			集中		2				○				○				○	98		
水泳	1			半期	1					○									102		
エアロビクス1	1			半期	1					○			◇						148		
エアロビクス2	1			半期				1					◇						149		
グループエクササイズ実習	1			半期		1							○						147		
健康スポーツ実習1	1	1		半期	1					○									100		
健康スポーツ実習2	1	1		半期		1				○									101		
スクーバダイビング実習	1			集中	1			1											168		
夏季アウトドア実習	1			集中				1											166		
冬季アウトドア実習	1			集中		1													167		
キャリアデザイン	2			半期				2											169		
計	3	101	52																		

○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修

1. 基礎教育科目等（健康スポーツ専攻）

令和6年度・2024年生

区分	授業科目の名称		単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	掲載ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め10単位以上	半期	2					24	
		マナーと文化		2		半期		2					25
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2					26
		市民生活と憲法		2		半期	2					○	27
	自然	情報機器操作		2		半期	2					○	28
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2					○	29
		英語コミュニケーション 2		2		半期			2				30
合計			4	10									

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上





1. 基礎教育科目等（健康スポーツ専攻）

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称		単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	掲載ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め10単位以上	半期	2					24	
		比較文化入門		2		半期	2						-
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2					26
		市民生活と憲法		2		半期	2				○		27
	自然	情報機器操作		2		半期	2				○		28
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2				○		29
		英語コミュニケーション 2		2		半期			2				30
合計			4	10									

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目 (健康スポーツ専攻)

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	初級ハラスポーツ指導者	コーチングアシスタント	アシスタントメンジャー	アスレティックトレーナー	トレーニング指導者	レクレーションインストラクター	キャンプインストラクター	サッカー公認C級コーチ	スポーツインストラクター	子ども身体運動発達指導士	中高老年期運動指導士	掲載ページ			
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																			
		3科目以上必修																										
健康のスポーツ栄養学		2			半期		2			○	○			○	○									○		32		
運動生理学		2			半期	2				○	○			○	○										○		33	
健康の心理学		2			半期	2						○															34	
健康管理論		2			半期			2		○	○			○					○								35	
健康生活演習	2				通年			2																			36-49	
競技のスポーツ栄養学		2			半期			2										○									50	
スポーツ運動学		2			半期		2			○	○			○				○					○				51	
運動処方論		2			半期		2			△	○			○				○									52	
レクリエーション論		2			半期		2					○		○	○	○		○						○			53	
スポーツ心理学1		2			半期		2			△	○	○		○	○	○		○							○		54	
スポーツ社会学		2			半期		2			△	○			○	○	○											55	
スポーツ経営学		2			半期			2		△	○			○	○	○							○				56	
スポーツ行政論		2			半期			2						○	○	○	○										57	
スポーツ指導論		2			半期		2							○	○	○	○							○			58	
スポーツ医学		2			半期		2			○	○			○	○	○	○							○		○	59	
地域貢献演習	1				集中			1																			60	
スポーツ心理学2		2			半期				2									○									104	
野外活動論		2			半期		2													○							105	
生涯スポーツ論		2			半期			2						○									○	○	○		106	
運動生理学実習		2			半期	2				○	○			○				○									97	
スポーツ解剖学1		2			半期	2					○			○				○									107	
スポーツ解剖学2		2			半期		2											○									108	
トレーナー測定評価実習		2			半期		2											○									109	
アスレティックリハビリテーション論		2			半期			2										○									110	
アスレティックリハビリテーション論実習		2			半期			2										○									111	
スポーツ医学実習		2			半期		2				○			○	○	○	○						○	○	○		99	
衛生学及び公衆衛生学		2			半期			2		○	○																112	
学校保健		2			半期		2			○	○																113	
インターンシップ		2			集中			2																			163	
体育原理		2			半期	2				○	○								△								114	
バイオメカニクス		2			半期			2									○										115	
トレーニング科学		2			半期		2								○			○									116	
トレーニング実習		2			半期		2											○							○		117	
テーピング・マッサージ実習		2			半期			2																			118	
アスレティックトレーナー論		2			半期		2											○									119	
スポーツ生理学		2			半期			2										○									120	
スポーツ外傷・障害1		2			半期			2										○									122	
スポーツ外傷・障害2		2			集中			2										○									123	
健康管理とスポーツ医学		2			集中			2										○									121	
コンディショニング論		2			半期	2												○									124	
コンディショニング論実習		2			半期			2										○									125	
救急処置		2			半期				2									○									126	
見学実習		1			集中			1										○									127	
検査・測定と評価実習		1			半期			1										○									128	
スポーツ現場実習		1			集中			1										○									129	
アスレティックリハビリテーション実践実習		1			半期				1									○									130	
トレーナー総合実習		2			通年			2										○									131	
陸上競技1	*1				半期	1				○	○																132	
陸上競技2	*1				半期			1																			133	
体操・器械運動1	*1				半期	1				○	○												○				134	
体操・器械運動2	*1				半期			1																			135	
水泳1	*1				半期	1				○	○																136	
水泳2	*1				半期			1																			137	
球技1	*1				半期	1	1			○	○											サッカー					138-	
球技2	*1				半期			1	1																		144	
武道(柔道)	*1				集中			1		○	○													○			145	
ダンス・表現運動	*1				半期	1				○	○																146	
エアロビクス1	*1				半期	1					○		◇										○				148	
エアロビクス2	*1				半期			1					◇														149	
ゴルフ1	*1				半期			1																			150	
ゴルフ2	*1				半期				1																		151	
レクリエーションスポーツ実習	*1				半期			1						○					○					○			165	
スクーバダイビング実習	*1				集中	1													1単位以上								168	
夏季アウトドア実習	*1				集中			1																			166	
冬季アウトドア実習	*1				集中			1																			167	
グループエクササイズ実習		1			半期			1						○													147	
サッカー・フットサル		1			半期			1															○				152	
上級サッカー		1			半期			1																	○		-	
サッカー指導法		2			半期			2																			-	
キャリアデザイン		2			半期			2																			169	
計		2	112	52																								

各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修

1. 基礎教育科目等（健康マネジメント専攻）

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称		単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		社会福祉主事 (任用資格)	掲載ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め10単位以上	半期	2					24	
		比較文化入門		2		半期	2						-
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2					26
		市民生活と憲法		2		半期	2				○		27
	自然	情報機器操作		2		半期	2						28
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2						29
		英語コミュニケーション 2		2		半期			2				30
	合計			4		10							

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	健康実践指導者	ピアヘルパー	初級ハラスメント指導者	コーチングアシスタント	レクリエーション・インストラクター	キャンピングインストラクター	中高年期運動指導士	社会福祉士	MOS	マナー・プロトコル検定	ホテルビジネス実務検定	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2					○			○								32		
	運動生理学		2		半期	2							○			○									33
	健康の心理学		2		半期	2								○						○					34
	健康管理論		2		半期			2					○												35
	健康生活演習	2			通年				2																36-49
	競技のスポーツ栄養学		2		半期					2															50
	スポーツ運動学		2		半期			2					○												51
	運動処方論		2		半期		2						○			○									52
	レクリエーション論		2		半期			2						○	○	○	○								53
	スポーツ心理学1		2		半期			2					○	○		○				○					54
	スポーツ社会学		2		半期			2								○									55
	スポーツ経営学		2		半期				2							○									56
	スポーツ行政論		2		半期				2							○									57
	スポーツ指導論		2		半期				2							○	○								58
	スポーツ医学		2		半期			2					○			○				○					59
	地域貢献演習	1			集中				1																60
	医療事務1	2			半期	2						○													160
	医療事務2	2			半期	2						○													160
	医療事務3	2			半期		2					○													161
	ビジネス文書1	2			半期		2															☆			-
	ビジネス文書2	2			半期			2														☆			157
	映像コミュニケーション	2			半期				2																162
	観光概論	2			半期	2																			-
	ホテルビジネス総論1	2			半期	2																		○	-
	ホテルビジネス総論2	2			半期		2																	○	-
	和文化和作法	2			半期			2															☆	☆	158
	マナー・プロトコル	2			半期		2																○	☆	159
	ホテル接客英会話	2			半期		2																	☆	-
	ホテル概論	2			半期		2																	☆	-
	ホスピタリティ基礎演習	2			半期	2																	☆	☆	-
	サービス・接遇実習	2			半期		2																☆	☆	-
	野外活動論	2			半期			2										○							105
	生涯スポーツ論	2			半期				2							○				○					106
	トレーニング科学	2			半期		2										○								116
	運動生理学実習	2			半期	2							○			○									97
	スポーツ医学実習	1			集中		2						○			○				○					98
	スポーツ解剖学1	2			半期	2							○												107
	衛生学及び公衆衛生学	2			半期			2													○				112
	インターンシップ	2			集中		2											○							164
	レクリエーションスポーツ実習	1			半期			1							○	○									165
健康スポーツ実習1	1		半期	1							○							○					100		
健康スポーツ実習2	1		半期		1						○												101		
水泳	1		半期	1							○												102		
エアロビクス1	1		半期	1							○												148		
スクーバダイビング実習	1		集中	1																			168		
夏季アウトドア実習	1		集中			1										1単位以上							166		
冬季アウトドア実習	1		集中				1																167		
キャリアデザイン	2		半期				2																169		
計		2	84	52																					

各資格において ○=必修 ☆=推奨する科目

### 3. 教職に関する専門教育科目

健康スポーツ専攻

令和6年度・2024年生

区分	授業科目の名称	単位数 教職必修	開講期	1年		2年		教育職員免許状	レクリエーション・インストラクター	掲載ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		172
	教 育 原 理	2	半期	2				○		173
	発達と学習の心理学	2	半期		2			○		174
	特別支援教育	1	半期				1	○		175
	道德教育の理論と実践	1	半期		1			○		176
	特別活動指導法	1	半期		1			○		178
	総合的な学習の時間指導法	1	半期			1		○		177
	教育方法の理論と実践	1	半期				1	○		179
	ICT活用の理論と実践	1	半期				1	○		180
	生徒・進路指導論	1	半期			1		○		181
	教育相談	1	半期				1	○		184
	保健体育科教育法	2	半期		2			○		182
	授業研究	2	半期		2			○		183
	教職実践演習(中学校)	2	半期				2	○		186
保健体育教育実習	5	半期			5		○	△	187	
計	25	各資格における ○=必修 △=選択								

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称	単位数 教職必修	開講期	1年		2年		教育職員免許状	レクリエーション・インストラクター	掲載ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		172
	教 育 原 理	2	半期	2				○		173
	発達と学習の心理学	2	半期			2		○		174
	特別支援教育	1	半期				1	○		175
	道德教育の理論と実践	1	半期		1			○		176
	特別活動指導法	1	半期		1			○		178
	総合的な学習の時間指導法	1	半期			1		○		177
	教育方法の理論と実践	1	半期				1	○		179
	ICT活用の理論と実践	1	半期				1	○		180
	生徒・進路指導論	1	半期			1		○		181
	教育相談	1	半期				1	○		184
	保健体育科教育法	2	半期		2			○		182
	授業研究	2	半期		2			○		183
	教職実践演習(中学校)	2	半期				2	○		186
保健体育教育実習	5	半期			5		○	△	187	
計	25	各資格における ○=必修 △=選択								

注 中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、「介護等体験」が義務付けられている。

### 3. 教職に関する専門教育科目

#### 健康栄養専攻

令和6年度・2024年生

区分	授業科目の名称	単位数 教職 必修	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	172
	教 育 原 理	2	半期	2				○	173
	発達と学習の心理学	2	半期			2		○	174
	特別支援教育	1	半期				1	○	175
	道德教育の理論と実践	1	半期		1			○	176
	特別活動指導法	1	半期		1			○	178
	総合的な学習の時間指導法	1	半期			1		○	177
	教育方法の理論と実践	1	半期				1	○	179
	ICT活用の理論と実践	1	半期				1	○	180
	生徒・進路指導論	1	半期			1		○	181
	教 育 相 談	1	半期				1	○	184
	食教育実践論	2	半期		2			○	185
	教職実践演習(栄養教諭)	2	半期				2	○	188
	栄養教育実習	2	半期			2		○	189
計		20	各資格における ○=必修						

令和5年度・2023年生

区分	授業科目の名称	単位数 教職 必修	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	172
	教 育 原 理	2	半期	2				○	173
	発達と学習の心理学	2	半期			2		○	174
	特別支援教育	1	半期				1	○	175
	道德教育の理論と実践	1	半期		1			○	176
	特別活動指導法	1	半期		1			○	178
	総合的な学習の時間指導法	1	半期			1		○	177
	教育方法の理論と実践	1	半期				1	○	179
	ICT活用の理論と実践	1	半期				1	○	180
	生徒・進路指導論	1	半期			1		○	181
	教 育 相 談	1	半期				1	○	184
	食教育実践論	2	半期		2			○	185
	教職実践演習(栄養教諭)	2	半期				2	○	188
	栄養教育実習	2	半期			2		○	189
計		20	各資格における ○=必修						



# 基礎教育科目



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
基礎教育 人文	自己表現とキャリア [Self-Expression and Career] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久・八板 将明			NS-B1001	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
目標達成シート・自己紹介・レポートの書き方・情報リテラシー・自己表現・地域活性					
授業の目的と概要					
<p>本学を卒業し、社会で活躍するための基礎力として、目標設定、挨拶・マナー、文章表現、映像表現のスキルを学び、自己の表現力（アウトプット）を養う。また、学習内容を自身の就職活動、キャリアステップに関連付け、後期授業「社会環境とキャリア」の学習の予備学習とすることを目的とする。</p>					
学習の到達目標					
<p>一般教養、挨拶マナー、様々な社会活動を学習し、自身のキャリアを創造する思考力、表現力を身につけることで学習内容をアウトプットできることを目標とする。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	目標、スケジュール、授業方法の共有			○
2	目標達成シート・図書館利用 / 村井	目標達成シート（マンガラート達成法）の作成、図書館見学、利用方法説明			○
3	自己紹介・マナー /	挨拶、マナー、自己紹介のグループワーク演習			○
4	レジュメ・レポートの書き方 / 村井	レポートの書き方、研究倫理教育			
5	情報リテラシー / 八板	SNS、インターネットリテラシー、個人情報取扱、確認テストの実施			
6	レポート作成 / 村井	（オンデマンド授業課題）			○
7	レポート作成 / 村井	（オンデマンド授業課題）			○
8	ビジネスマナー /	辞儀作法、立居振舞、挙手返答			○
9	文章による自己表現 / 村井	「分かりやすい文章」を書くためのスキル			
10	SDGsとSociety5.0 / 八板	用語の理解、自身の関連業界の最新情報、SDGs 達成への自身の取り組み			
11	地域学習 / 太田・八板・村井	川島町生涯学習課 zoom 講演「川島町の魅力と課題・川島町役場の仕事・役割」			
12	地元の魅力 / 太田・八板・村井	自身の地元の魅力、目指す業界の現状と課題、課題解決に向けた活動とは？			○
13	動画による自己表現 / 八板・村井	Zoom に映る自分チェック。スマホを活用した自己 PR 動画の作成方法			○
14	動画作成 / 八板・村井	（オンデマンド授業課題）自己 PR 動画撮影			○
15	まとめ	授業の振り返り、最終レポート作成			
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：『ステップアップ日本語講座』（中級）東京書籍、『就職活動テキスト』（「社会環境とキャリア」で使用する） その他、必要に応じて、適宜教材・資料を配付・指示する</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週 2.0 時間）：書籍やインターネット・新聞やニュース・雑誌等を通して、次回の授業内容にかかわる情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容を復習するとともに、一般教養を培い、マナーの向上に努めること。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業・Googleclassroom・オフィスアワーにて指導・対応。					
成績評価の方法・基準					
課題のレポート・提出物・リアクションペーパー 100%					
関連科目					
社会環境とキャリア・キャリアデザイン					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
基礎教育科目	マナーと文化 [Manners and Japanese culture]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	蔦 洋子		国	NS-B1002	
この授業に関する資格					
マナー・プロトコル検定					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
マナー・作法・国際化する社会人に必要な技能・和文化・和食					
授業の目的と概要					
就職活動と実社会で有用な基本的マナーを身につける。また社会の国際化に伴い、他国の文化やその差異をも理解し、経済の資源として活用もでき、かつ活動に生かせるようにする。さらに、豊かな人間性を培い、社会に貢献できる実践力を身につけ、就職への実技訓練とともに知識と技術を精錬					
学習の到達目標					
社会人・国際人として必要である基本的な知識が修得でき、なおかつ自ら率先して修得した知識をもとに実践することができる。ビジネスマナー、コミュニケーションスキルなど社会人としての基本的な知識や技術を身につけることで、就職活動、社会活動、さらには自らの生活に生かすことができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など			○
2	国際化する日本	自国の文化を知ることについて、観光資源としての文化			○
3	和の文化について	和の文化とは、他国との違い、宗教の違い			○
4	基本的なマナーⅠ	マナーや礼儀・作法について、相手に好印象を与えるコミュニケーション			○
5	基本的なマナーⅡ	立ち居振る舞い、敬語、つきあい（手紙、贈答）			○
6	基本的なビジネスマナー	プロ意識、基本的なビジネスマナー（電話、メール、名刺、トラブル対応、来客対応）			○
7	コミュニケーションスキルⅠ	傾聴について、報告、連絡、相談、依頼			○
8	コミュニケーションスキルⅡ	自分の意見を伝える文化、海外交流のマナー			○
9	和室における作法	和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方等、実践と意味の確認			○
10	和食についてⅠ	日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類			
11	和食についてⅡ	日本の食文化、世界の食文化との違い			
12	道の世界	茶道、華道、書道、香道、武道とは			
13	日本の季節と節句、衣服	季節の感じ方、節句と二十四節季、日本の衣服			
14	日本の行事について	通過儀礼、日本独特の行事、祭事、お茶の種類と楽しみ方、もてなしについて			○
15	総復習	総復習、補足			○
教科書及び参考図書					
教科書：授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。 参考図書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会）」					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：事前に該当テーマについて調べ、予習しておく。生活の中で関連する項目を認知し考察する。 事後学習（週2時間）：課題で復習、授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実践してみる。疑問点等調べ、確認しながら生活する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テスト等実施、確認・解説する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70%、課題発表 15%、課題提出 15%などを総合的に評価する。					
関連科目					
マナー・プロトコル					
受講上の注意					
身だしなみを整えたうえで臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
基礎教育科目	社会環境とキャリア [Social Environment and Career] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子・三ツ目 彩菜・川井 明・田本 育代・八板 将明			NS-B1003	
この授業に関する資格					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
就職活動、就職試験、就業意識					
授業の目的と概要					
自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業 (進路先) を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法 (ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方)、就職 (編入学) 活動に必要な書類の作成、面接試験対策 (模擬個人・グループ面接) などの準備を行い、就職活動等を含め、キャリアデザイン設計ができるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
社会人として自立できるように仕事に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識を身につけ、適切に行動することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	礼儀作法			○
2	就職・社会人のルール	ハローワークの支援・労働法			
3	ナビへの登録・企業情報収集・情報ツールの使い方	マイナビ登録・企業の検索・企業情報			○
4	会社を知る・求人票の見方	求人票の見方・生涯賃金・基本給料について			○
5	分野別企業研究セミナー	企業・人事担当			○
6	コミュニケーションの重要性を知る	質問力・聞く態度			
7	自己分析①自己の振り返り	自己 PR・高校までのエピソード・自信			○
8	自己分析②自己 PR 作成	自己 PR・短大生活の振り返り			○
9	履歴書作成①	履歴書の書き方のルール・各項目のポイント			○
10	履歴書作成②	学歴・自己紹介文			○
11	身だしなみセミナー	メイクアップ・服装・持ち物			○
12	面接対策①面接の目的	面接方法・マナー・評価方法			○
13	面接対策②Web 面接	模擬面接・Web			○
14	面接対策③集団面接	集団模擬面接			○
15	内定者フォーラム	内定者・就職活動・体験談			○
教科書及び参考図書					
教科書：就職活動テキスト (授業で配布する)					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間)：授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。関連の情報収集をする。 事後学習 (週 2 時間)：授業で行った内容について積極的に復習に取り組む。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
提出した課題にコメントを入れて返却する。Google Classroom にて対応する。					
成績評価の方法・基準					
提出物 (ノート・履歴書・感想文など) 100%					
関連科目					
自己表現とキャリア, キャリアデザイン					
受講上の注意					
スーツを着用することがある。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
基礎教育 社会	市民生活と憲法 [Civil Life and Constitution]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	望月 穂貴			NS-B1004	
この授業に関係する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種）、社会福祉主事					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
憲法・立憲主義・権力分立・人権					
授業の目的と概要					
憲法には公権力を限定し、個人の自由と権利を保障する役割があり、市民の行動を規制するような様々なルールと決定的に異なった性格を持っている。本講義では、このような立憲主義の理念と、憲法の条文や実際の判例について学び、憲法が保障する基本的人権の尊さと、ひいては私たちが憲法と立憲主義の観念を抱く意味について考える。					
学習の到達目標					
憲法が保障する基本的人権や立憲主義の基本的観念について理解し、その意義を論証できる。 社会問題について、憲法の基本的知識を用いて自己の見解を説得的に展開できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、内容の概略、評価方法の説明。法律の学習方法の説明。（遠隔授業）			
2	憲法と国家	憲法と立憲主義の概念について学ぶ。（遠隔授業）			
3	日本憲法史	日本国憲法が制定された経緯を知る。（遠隔授業）			
4	基本的人権の観念	人権とは何か、人権が制限される場合はどのようなものかについて理解する。（遠隔授業）			
5	包括的基本権・法の下での平等	いわゆる幸福追求権および平等について様々な事例を検討する。（遠隔授業）			
6	思想・良心の自由	思想・良心の自由について、主に学校関係の事例を中心に検討する。（遠隔授業）			
7	信教の自由・政教分離	信教の自由や国家と宗教の関係について学ぶ。（遠隔授業）			
8	表現の自由（1）	言論・出版の自由の基本的知識と伝統的な問題類型について学ぶ。（遠隔授業）			
9	表現の自由（2）	知る権利等の新たな表現の自由関係の問題についてアプローチする。（遠隔授業）			
10	生存権	社会権の基本的知識および生存権について学ぶ。（遠隔授業）			
11	教育を受ける権利・労働基本権	教育権と労働者の権利について学ぶ。（遠隔授業）			
12	選挙と議院内閣制	民主主義、選挙、議会政の基本を学ぶ。（遠隔授業）			
13	司法権	裁判によって権利を保障する仕組みについて学ぶ。（遠隔授業）			
14	平和主義	法による軍事統制の歴史と憲法9条の意義を学ぶ。（遠隔授業）			
15	講義のまとめ	憲法の意義について改めて振り返って考える。（遠隔授業）			
教科書及び参考図書					
基本的に齋藤一久・城野一憲『教職のための憲法』（ミネルヴァ書房、2020年）を使用して進行する。その他は授業内で紹介する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：新聞報道をよく読み、現在進行中の法律問題について関心を持つこと。 事後学習（週2時間）：前回の復習、教科書・参考文献・配布物の確認。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
Google Classroom等オンライン上でコメントを受け付け、随時返信します。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験で評価（原則100%）。ただし、授業への積極的参加（任意課題、任意コメント等）も加点要素とします。					
関連科目					
なし					
受講上の注意					
大学での学習は高校までのそれと大きく異なります。大学で学ぶ問題は、多かれ少なかれ、ハッキリとした「正解」が見出せないものが多々あります。そのような難題に挑むためには、主体的に考える姿勢が必要です。憲法が提起する様々な問題に取り組む面白さを少しでも皆さんに伝えられれば幸いです。なお、本講義はオンライン授業となる予定です。オンライン授業は時間割の柔軟さが利点ですが、気を付けていないと未視聴回が増えて試験前に大変な思いをすることになります。毎週継続的に受講してください。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
基礎教育 自然	情報機器操作 [Computer Literacy]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	八板 将明			NS-B1007	
この授業に関する資格					
教員免許（中学校 2 種・保険体育、栄養教諭 2 種）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
メールの送受信方法・タッチタイピング・Googleclassroom の活用・マイクロソフト Office・文書作成					
授業の目的と概要					
パソコン、インターネットの基本的な操作方法、また Microsoft office（word, Excel, Powerpoint）の基本的な操作方法を学び、インターネットによる情報収集、メールの送受信、文書の作成スキルの向上を目的とする。					
学習の到達目標					
パソコン・インターネットなどの情報機器環境に関する基本用語について説明できる。タッチタイピングの習慣を身につける。パソコン操作演習を通じて、メールの送受信、インターネットの活用、簡単な文書、表計算、プレゼンテーションソフトを活用したビジネス文書作成ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	目標、スケジュール、授業方法の共有			○
2	Google クラウドの使用法	ログイン・ログアウト、クラスへのアクセス、課題の提出方法			○
3	メールの送受信	ビジネスメールのルール・マナーの学習、送受信			○
4	Word① 文字の入力	文字サイズ・フォント・色・文書の保存。			○
5	Word② 文章の作成	文章入力、ファイル管理。			○
6	Word③ イラスト・写真・表の挿入	擬似ポスター・チラシの作成。			○
7	Word④ 課題作成	これまでの学習の定着確認。			○
8	Excel① 用語説明・入力方法	セル、行、列の指定。文字、数字の入力。セルの装飾、塗りつぶし。			○
9	Excel② 表計算・関数	計算式の入力、計算指示、関数の活用。			○
10	Excel③ グラフ	折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフの作成。			○
11	Excel④ 課題作成	これまでの学習の定着確認。			○
12	PowerPoint① ページ構成	ページレイアウト、プレゼンテーションの組み立て方、スライドショー作成。			○
13	パワーポイント② 各種挿入・配色	各種挿入、アニメーションの設定、配色の工夫			○
14	PowerPoint③ 課題作成	これまでの学習の定着確認。			
15	まとめ				
教科書及び参考図書					
参考図書：よくわかるマスター MOS Word/Excel/Powerpoint 365&2019					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：タイピング練習&次週のテーマについての内容確認・調べ学習 事後学習（週 2 時間）：授業内容の反復学習					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業・Googleclassroom・オフィスアワーにて指導・対応。					
成績評価の方法・基準					
授業課題 90%、レポート 10%（未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）					
関連科目					
受講上の注意					
個別に準備するもの：USB メモリー（8GB 以上推奨）					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
基礎教育 外国語	英語コミュニケーション 1 [English Communication 1]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	Martin Woodall			NS-B1008	
この授業に関する資格					
教員免許 (保健体育、栄養教諭)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
コミュニケーション Communication ・ 思考力 Critical-thinking ・ グローバル時代の対応 Respond to the global era					
授業の目的と概要					
この授業によって、自分のことを英語で表現出来るようになることを目的とする。 Students who have completed this course should be able to express themselves by English.					
学習の到達目標					
栄養学・スポーツ科学に関する基礎的な知識を取り入れることで、専門知識を英語でも理解できる力を養うことにより、グローバルな時代に対応が出来るようになる。 By incorporating basic knowledge of nutrition and sports science, students will be able to respond to the global era by developing the ability to understand specialist knowledge in English as well.					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション / Orientation	お互いの事を知る、体の部位 / Getting to know your partner. Body Parts.			○
2	内臓について / Organs.	お互いの事を知る、体の部位復習 / Getting to know a new partner. Review Body Parts.			○
3	栄養について / Nutrition.	食事・メニュー / Food. Menus.			○
4	スポーツについて / Sports	Fitness and Exercise.			○
5	骨格系、スポーツ傷害について / Skeletal System. Sports Injuries.	いつ、どのように? / When and How?			○
6	習慣について / Habits.	どれくらいの頻度で...? 頻度を表す副詞 How often do you...? Adverbs of Frequency.			○
7	比較級と最上級 / Comparatives and Superlatives	どちらが大きい? 一番大きいか? Which is bigger/ the biggest?			○
8	前置詞 / Prepositions of Place.	in, on, under			○
9	旅行、買い物、お金 / Travel. Shopping. Money.	何処、場所、いくら / Where, How much			○
10	道案内 / Directions.	街中での会話 / Around Town			○
11	過去形 / The Past.	何をしたの? / What did you do...?			○
12	未来形・計画 / The Future. Plans.	何をしますつもりですか? / What will you do...?			○
13	容姿、見た目 / Appearance.	人のことを描写する / Describing People.			○
14	DVD 視聴 / DVD.	観て質問に答える / Watch and Answer Questions.			○
15	まとめ / Review.	テスト準備 Prepare for test.			○
教科書及び参考図書					
教科書: 必要に応じて、教材プリントを配布する / Distribute printed materials as necessary.					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : シラバスを読んで予習をする。 / Read the syllabus and prepare. 事後学習 (週 2 時間) : 授業の内容を復習する。 / Review the lessons.					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業後に対応する。 / After class.					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 / Test 100%					
関連科目					
英語コミュニケーション 2、ホテル接客英会話					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 外国語	英語コミュニケーション 2 [English Communication 2]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義・演習 アクティブ・ラーニング	Martin Woodall		NSM-B2009			
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
コミュニケーション						
授業の目的と概要						
<p>更なる自分の欲求を満たす英語表現を身につける。基本的なフレーズ（文語・口語）の確認と応用的なフレーズも講義とロールプレイングを通じて学ぶ。さらに編入学試験・就職試験などに必要な、長文読解力や文法力のアップを目指す。</p>						
学習の到達目標						
基本から応用までの表現やフレーズを学び、更なる自己欲求を満たすために英語でコミュニケーションを取ることができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など	オリエンテーション				○
2	英語の歴史、日本の英語史	英語は難解？簡単？英語のルーツを学ぶ				○
3	国別ジェスチャーとフレーズ	握手と Hug だけが挨拶じゃない！				○
4	方向、方位、位置、移動手段	場所や位置の表現方法をマスター！				○
5	旅行、観光、	ロールプレイング① テーマ選定				○
6	税関、ホテル、チェックイン	ロールプレイング② 入国からチェックインまで				○
7	レストラン、メニュー、支払い方法	ロールプレイング③ 食べたい物を飲み食いする				○
8	情報、移動手段、支払い、確認問い合わせ	ロールプレイング④ 観光&お土産を買う				○
9	ホテル、チェックアウト、DFS	ロールプレイング⑤ チェックアウトから出国まで				○
10	スポーツ、文化、食事、料理、調理法	プレゼンテーション① テーマ選定				○
11	スポーツ、ルール、相撲	プレゼンテーション② スポーツ編				○
12	和食、日本、日本人、温泉	プレゼンテーション③ 文化編				○
13	調理法、作法、マナー	プレゼンテーション④ レシピ編				○
14		総合ロールプレイング				○
15	まとめ・総括	まとめと総括				○
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：Kayo Shigemori 全くだめな英語が1年で話せた！アラフォーOL Kayoの「秘密ノート」 * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週2時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週2時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の方法・基準						
実技/ロールプレイング 40%、各回のコメントシート 25%、筆記試験 20%、口頭試問 15%						
関連科目						
受講上の注意						
本講義を履修するには「英語コミュニケーション 1」を必ず履修していること。						

# 專門教育科目



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
共通専門科目	健康のスポーツ栄養学 [Nutrition for Health and Fitness] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	長島 洋介		国	NS-S2010	
この授業に関する資格					
栄養士免許、教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ指導者等共通科目 アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、スポーツインストラクター、中高老年期運動指導士					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生活習慣病・メタボリックシンドローム・食事と運動					
授業の目的と概要					
生活習慣病と運動、食事との関連性について学ぶ、生活習慣病を予防するための運動と食事を提案できるようになる。					
学習の到達目標					
健康のために必要な、運動と栄養の知識を十分に身につけ、人々の健康を運動と栄養の側面からアドバイスできるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	健康づくりのためのスポーツと食事・栄養の意義	健康の定義について学習する			
2	生活習慣病とメタボリックシンドローム 1	肥満、生活習慣病およびメタボリックシンドロームの定義について学習する			
3	生活習慣病とメタボリックシンドローム 2	予防のための施策として、健康日本 21 や特定健診について学習する			
4	肥満の定義と身体組成	肥満を評価する方法について学習する			
5	エネルギー消費量の測定法	消費エネルギーを評価する方法について学習する			
6	エネルギー摂取量の評価方法	摂取エネルギーを評価する方法について学習する			
7	糖質の摂取	糖質の種類、必要量、役割について学習する			
8	たんぱく質の摂取	たんぱく質の種類、必要量、役割について学習する			
9	ビタミン 1 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン	水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの役割、摂取源となる食品との関連			
10	ビタミン 2 活性酸素と抗酸化ビタミン	活性酸素と抗酸化ビタミンについて学習する			
11	ミネラル 1 鉄と貧血	鉄、貧血の種類について学習する			
12	ミネラル 2 カルシウムと骨粗鬆症	カルシウムと骨粗鬆症について学習する			
13	水分補給 1 発汗と熱中症	熱放散の仕組みと熱中症について学習する			
14	水分補給 2 内容とタイミング	効率的な水分補給方法について学習する			
15	まとめ	今までの学習内容をまとめ、総合的に健康のための食事について考える			
教科書及び参考図書					
参考資料：教員作成の資料を配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：学習内容を事前に学習しておくこと 事後学習（週 2 時間）：授業動画を Google Classroom にアップするので、復習しておくこと					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
解剖生理学					
受講上の注意					
日頃から、健康に関して関心を持つようになしてください					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
共通専門科目	運動生理学 [Exercise Physiology] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	玉木 啓一		国	NS-S2011	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー、スポーツ指導者等共通科目アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、スポーツインストラクター、中高老年期運動指導士					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
運動とエネルギー供給・スポーツと筋線維タイプ					
授業の目的と概要					
健康の指導者、スポーツの指導者として運動が身体にどのような影響があるかを理解できるようになるために、生理学的な知識を理解し、健康のための運動、スポーツ競技力の向上について、指導するための能力を身につける。運動中の生体内現象を、神経系・筋系ならびにエネルギー供給に関連した生理学的観点から理解する。また、体力向上の生理学的基礎について、トレーニングによる身体適応の変化を学ぶ。					
学習の到達目標					
運動生理学の基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とし、指導できるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	健康と運動、運動とからだ	健康と運動生理学の関連を理解する			
2	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	エネルギー代謝とは何かを、健康との関連において理解する			
3	エネルギー消費量、エネルギー代謝量の測定方法	エネルギー代謝の測定方法と意義を知る			
4	エネルギー供給系	運動時のエネルギー供給を理解し、スポーツをエネルギーから理解する			
5	運動時の呼吸応答、運動時の循環応答	呼吸・循環器系の基本を学び、運動による機能の変化を理解する			
6	筋の構造と機能、筋収縮のメカニズム	運動をおこす筋の構造と筋収縮のしくみを学ぶ			
7	筋収縮の様式、随意運動、不随意運動	筋収縮の種類、筋運動の制御を知る			
8	ATP 再合成、運動とホルモン	運動と中間代謝・内分泌の機能を学ぶ			
9	筋線維タイプ	筋線維タイプとその特性をスポーツ種目との関連で理解する			
10	運動と糖質、運動とタンパク質、運動と脂質	3大栄養素と運動の関係を学ぶ			
11	運動とビタミン、運動とミネラル	ビタミン・ミネラルと運動の関係を学ぶ			
12	体力の男女差、体力・運動能力調査	体力・運動能力の性差について知る			
13	成長・発達、加齢、老化	体力・運動能力の加齢変化について学ぶ			
14	トレーニング原理、トレーニング原則	トレーニングの原理・原則とトレーニング効果について学ぶ			
15	運動と健康、運動不足病	運動と健康、運動とスポーツについて考える			
教科書及び参考図書					
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂 教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：教科書を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること 事後学習（週2時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中の対面でのフィードバックも予定しているが、Google Classroom を通じてのフィードバック、メールを利用した個別対応を行う					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
運動生理学実習、運動処方論、バイオメカニクス、スポーツ生理学					
受講上の注意					
Google Classroom には必ず登録し、定期的にチェックすること。教員作成資料もアップロードする。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
共通専門科目	健康の心理学 [Health Psychology] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	太田 千瑞			NS-S2012	
この授業に係る資格					
ピアヘルパー、健康管理士一般指導員、社会福祉主事					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ストレス・コーピング・ウェルビーイング・QOL					
授業の目的と概要					
健康心理学は感情や行動、思考等、様々な心の働きを理解し、心身の健康や疾病予防に役立てる学問である。本講義では、心身の健康に影響を及ぼす要因を概観し、健康を維持・促進・改善するための技法について学ぶ。					
学習の到達目標					
健康状態を客観的に把握を行え、状況に応じて自己調整できる。対人関係の問題を解決・予防することができる。自身の健康のみならず、他者の健康のサポートができるようになることを目指す。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	健康心理学を学ぶ意義	心理学、健康心理学			
2	ストレスと健康	ストレス学説、フラストレーション攻撃仮説、防衛機制			
3	ストレスの対処	ストレスコーピング、ソーシャルサポート、社会的スキル			
4	こころの健康と精神疾患	抑うつ、不安、アパシー			
5	心理アセスメント	質問紙、投映法、対人関係、QOL			
6	感情と健康	感情の起源、認知的評価理論、プロセスモデル			
7	性格と健康	類型論、Big Five 理論、あがり、人格障害			
8	行動と健康	虚血性心疾患、ガン、行動パターン			
9	栄養と健康	摂食障害、早食い、セロトニン、ドーパミン			
10	スポーツと健康	グリッド、痛み、メンタルトレーニング			
11	恋愛と健康	色彩理論、三角理論、失恋、蛙化現象			
12	職場環境と健康	心理的安全性、ホーソン研究、援助要請行動、バーンアウト			
13	悲しみ・喪失と健康	ペットロス、グリーフケア			
14	カウンセリング	傾聴、行動療法、認知行動療法			
15	本講義のまとめ	時間的展望、目的論、ナラティブ・アプローチ			
教科書及び参考図書					
参考図書：森和代 石川利江 茂木俊彦 編 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房 島井哲志・長田久雄・小玉正博 編 健康・医療心理学 入門 有斐閣アルマ					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：参考図書やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週 2 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
課題提出後、模範解答や解説をフィードバックする。					
成績評価の方法・基準					
授業における発問に対する回答回数や回答内容（ルーブリック評価）・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%					
関連科目					
健康のスポーツ栄養学 健康管理論 等					
受講上の注意					
授業形態は講義形式ですが、随時質問等を受け付けますので、積極的に質問してください。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康管理論 [Health Care Theory]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	岩井 秀明		NSM-S2013			
この授業に係る資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、介護予防運動スペシャリスト						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
健康増進・健康づくりの施策・健康管理の方法・ライフステージ（生涯）の健康管理						
授業の目的と概要						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の方法について学び、ライフステージ（生涯）ごとの健康管理の実際とその予防から、健康を増進させる健康管理について修得する。						
学習の到達目標						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の内容と方法について理解・考察し、各ライフステージ（生涯）での健康づくりを実践できる。変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題を理解し、併せて健康に関する基礎的教養を広げる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康増進-1 社会と健康（1章）	A.健康概念 B.公衆衛生概念 C.社会的公正と健康格差の是正 D.歴史				
2	健康増進-2 環境と健康-1（1章）	E.環境と健康 1.生態系と人々の生活 2.環境汚染・健康影響 3.環境衛生				
3	健康増進-3 環境と健康-2（1章）	F.国際保健 地球環境問題、温暖化、原発問題、SDGs、国際機関				
4	健康増進-4 疫学（人間集団の健康）（2章）	A.定義 B.指標 C.研究方法 D.観察研究 E.介入研究 F.誤 H.スクリーニング				
5	健康増進-5 健康指標	（4章）人口静態統計（5章）保健統計指標 A.人口動態統計～C.傷病統計				
6	健康づくりの施策-1（1章）	世界と日本の健康及び現状、（1章）C.4.ヘルスプロモーション 第1次国民健康づくり対策、第2次国民健康づくり対策（アクティブ80ヘルスプラン）				
7	健康づくりの施策-2（6章）	A.3.健康日本21（第3次国民健康づくり対策）、新健康フロンティア戦略、健康日本21（第2次）（第4次国民健康づくり対策）、A.4 健康増進法				
8	健康づくりの施策-3（6章）	生活習慣の現状と対策 B.食生活と栄養 E.飲酒				
9	健康づくりの施策-4（6章）	C.身体活動・運動 D.喫煙 F.睡眠、休養、ストレス G.歯科、I.事故と自殺				
10	健康管理の方法-1（7章）	主要疾患の疫学と予防対策 A.がん B.循環器 C.代謝性疾患				
11	健康管理の方法-2（7章）	主要疾患の疫学と予防対策 D.骨・関節 E.感染症 F.精神疾患 Gその他				
12	ライフステージの健康管理-1（12,13章）	学校の健康管理、職場の健康管理 A.労働と健康 B.労働安全衛生法				
13	ライフステージの健康管理-2（13章）	C.労働安全衛生対策 D.産業保健従事者 E.職業と健康障害 F.労働対策				
14	ライフステージの健康管理-3（11,10章）	母子の健康管理、高齢者・成人の健康管理				
15	健康づくりの施策-5（8,9章）	地域の保健予防システム、社会保障制度				
教科書及び参考図書						
教科書：尾島俊之 堤明純 編 基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第5版 2020.3（南江堂）						
参考図書：健康運動実践指導者養成テキスト、健康運動指導のための健康管理概論（杏林書院）、学生のための健康管理学（南山堂）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。						
事後学習（週2時間）：教員作成の資料未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、質問、感想についてフィードバックし分かち合う。						
成績評価の方法・基準						
期末試験（60%）、毎回の講義振り返り課題提出（必須）及びその内容（40%）を統合して判断・評価する。						
授業中の他教科の内職、スマホゲーム、課題のスマホ丸写し等は減点の対象。						
関連科目						
衛生学及び公衆衛生学						
受講上の注意						
教科書は必ず購入すること。1週間毎の準備学習、講義、事後学習を一步一步怠りなく頑張ってください。15回積み重ねると大きく実るでしょう。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習	[Seminar in Health of Life] <b>必修</b>	2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実験・実習・演習 アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="checkbox"/>	健康づくりの実践的指導能力			
<input type="checkbox"/>	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	健康生活の知識と技術の修得			
<input type="checkbox"/>	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>	実社会に役立つ能力			
<input type="checkbox"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
栄養指導・食行動変容						
授業の目的と概要						
健康の維持・増進を目的としたライフスタイルを追求し、食生活をはじめとする栄養の実態を知り、問題把握や対策・指導方法について検討し、実施できる能力を身に付けることを目的とする。						
学習の到達目標						
対象者にあつた指導と栄養管理ができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	テーマの検討（指導・調査など）				○
2～6	テーマの情報収集①～⑤	情報収集・実態把握と問題抽出				○
7～ 11	指導計画の作成①～⑤	指導計画面案・学習指導案 もしくは 調査計画の作成・				○
12～13	指導実施にむけて①～②	実施にむけて、資料作成、ロールプレイングなど				○
14～15	指導計画の実施①②	計画の実施・モニタリング				○
16～20	実施後の再アセスメント①～⑤	実施後の改善				○
21～22	改善後の指導実施の実施①～②	改善計画の実施				○
23～26	指導実施の評価①～④	改善計画の実施後の評価				○
27～29	発表・報告会のまとめ①～③	振り返り・まとめ・ポスター作成				○
30	まとめ	総括（他の研究室の研究発表見学）				○
教科書及び参考図書						
参考図書：栄養教育論 第2版 光生館、日本人の食事摂取基準 2020年版、「八訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習：専門誌・新聞・雑誌など関連のある情報を収集しておく 事後学習：実施内容の記録・復習・次回に必要なことを準備しておく						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
Google Classroom で個別に対応する						
成績評価の方法・基準						
研究テーマに対するレポートもしくはまとめ・媒体作成 80%、研究発表資料作成と発表 20%						
関連科目						
受講上の注意						
必要な資料などを情報収集しておく						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
スポーツ栄養						
授業の目的と概要						
自分の興味のある分野について調べ、ポスターにまとめる授業である。この授業の目的は、食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性について深く学習し、学習内容をまとめる能力を高めることである。						
学習の到達目標						
食事と健康や競技パフォーマンスとの関連性に関する知識を身につけ、競技パフォーマンスを高めるための栄養サポートや食事を提供できるようにする。						
回	テーマ	授業内容			AL	
1	ガイダンス	顔合わせ 意思確認				
2・3	スポーツ栄養学に関する研究の概要	過去の研究内容			○	
4・5	スポーツ栄養学に関する研究のキーワードと文献検索の方法	文献検索方法 先行研究			○	
6	研究課題の設定と方法の検討	研究の背景 研究テーマ 目的				
7	スポーツ栄養学研究の被験者の選定	方法 被験者の設定				
8	調査研究の方法	研究デザイン 評価方法の検討				
9~15	調査・研究の準備 研究計画書 倫理審査書類の作成 スポーツ栄養学 調査・研究の実践 (時間外)	研究計画書 倫理審査書類 評価票の作成				
16~20	データ入力	データ入力				
21~24	統計解析方法の学習、統計処理	統計処理方法 有意水準				
25・26	考察、文献収集、ディスカッション	先行研究との比較 ディスカッション				
27	発表資料作成	発表資料の作成			○	
28	発表練習	ポスター発表 練習			○	
29・30	研究発表会	ポスター掲示			○	
教科書及び参考図書						
参考図書：「スポーツ栄養学」市村出版 「応用栄養学」羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 自分の課題に関する情報を収集しておくこと 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業中に教員から指導をまとめ、整理しておくこと						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
ポスター発表の内容 100 %として評価する。						
関連科目						
応用栄養学、スポーツ栄養学実習						
受講上の注意						
授業では、自分で研究の計画を立て調査を行う。調査は授業時間外に行うので、そのつもりで受講すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・演習 アクティブ・ラーニング	小板 由美子			NSM-S6072		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
食教育・補食・行事食						
授業の目的と概要						
食事では補えないエネルギー量や栄養素を補食として補うための食育の実践、調理方法、食選択等を通じ、食育計画を検討する。また、地域と密接な活動を通して食文化に触れ、行事食等を提供することにより調理法及び料理の工夫ができるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
研究の完成。調査・研究を通して栄養士としての見聞を広め、今後の食育に生かすことができる。また、広く地域や人と関わる中で調和や協調性・積極性などを養い実施することができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	活動内容・活動実績の説明				○
2・3	食教育 ①	子どもの食と栄養				○
4・5	食教育 ②	子どもを対象にした献立作成・サポート用指導案、媒体作成				○
6・7	食教育実習	園児を対象にした献立実習				○
8・9	食教育実習	園児を対象にした献立実習・振り返り				○
10・11	食文化	食文化についての文献検索（地域の行事食含）				○
12・13	行事食 ①	行事食についての文献検索（地域の行事食含）				○
14・15	行事食 ②	行事食についての文献検索（地域の行事食含）				○
16・17	行事食献立作成	献立作成				○
18・19	行事食実習 ①	実習（グループワーク）				○
20・21	行事食実習 ②	実習（グループワーク）				○
22・23	行事食実習 ③	実習（グループワーク）				○
24・25	地域参加学習献立作成	園児を対象にした行事食「クリスマスケーキ」				○
26・27	食教育実践実習	保育園にて食育授業の実施「クリスマスケーキ」				○
28・29	まとめ	補食、行事食のまとめ				○
30	まとめ	補食、行事食のまとめ				○
教科書及び参考図書						
参考図書：「食に関する指導の手引き」文部科学省 その他適宜資料配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：指導を実施するための指導案作成、媒体作成の研究を行い、指導計画の準備。 事後学習（週2時間）：実習及び実践を振り返り内容の検討を行う。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
課題としての献立及び媒体を添削後グループごとにディスカッションを実施し、次回に活かす。						
成績評価の方法・基準						
実習内容（準備、調理操作、片付け） 30% 研究テーマに対する課題考察・調査 30% 研究発表 20% 学外活動 20%						
関連科目						
受講上の注意						
学外での実践活動を行う。そのための事前準備、実践後のフィードバックをしっかりと意識して取り組むこと。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習・演習 アクティブ・ラーニング	木元 泰子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
健康増進・健康寿命・生活習慣病予防						
授業の目的と概要						
食・栄養に関わる社会環境の変化や個人または集団のニーズに対応した課題解決の方法を考察し、実践的な活動を通して効果を評価する。栄養士に求められるコミュニケーション能力、表現力、社会への対応力等を向上させることを目的とする。						
学習の到達目標						
社会環境の変化や個人及び集団のニーズに対応した課題についての解決方法を習得し、実践的な活動に活用できるようになる。コミュニケーションを図り、積極的な姿勢で取り組むことを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	先行研究 問題提起 課題抽出				○
2～6	研究テーマ 検討・決定	情報収集、文献検索、論文抄読				○
7～9	研究方法 検討	量的研究、質的研究、アンケート調査、食事調査				○
10～12	研究計画 作成	目的、背景、場所、対象、時期、手法				○
13～15	研究活動 準備	発注表、用具準備				○
16～20	研究活動 実施	作業工程、実施記録				○
21～24	データ処理・分析	統計分析、比較分析、因子分析、回帰分析				○
25・26	レポート作成	はじめに、背景、目的、方法、結果、考察				○
27～29	研究発表準備	PowerPoint スライド作成				○
30	研究発表	研究発表				○
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 参考図書：ヘルスクエア・レストラン（日本医療企画） 月刊雑誌 臨床栄養学（医歯薬出版）						
準備学習・事後学習						
準備・事後学習（週1時間）：文献や資料の収集、データ解析や結果のまとめは、ゼミ時間に限らず各自の空き時間を活用して進める。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
研究活動 50% 研究発表 50%						
関連科目						
臨床栄養学 臨床栄養学実習 応用栄養学 公衆栄養学 公衆衛生学						
受講上の注意						
履修条件：地域で行われるイベント等に興味を持ち、意欲的に参加できる。 授業時間外（放課後、土、日、祝日）の活動も参加できる。						



授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>			2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
実習 アクティブラーニング	三ツ目 彩菜			NSM-S6072			
この授業に関する資格							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力				
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得				
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
キーワード							
ライフステージ・栄養補給計画							
授業の目的と概要							
実践活動を通してライフステージに合わせた食事提供の実際について調査・検討し、課題解決のための考察ができるようになる。 取り組むテーマについては、教員と学生とのディスカッションにより決定する。							
学習の到達目標							
1. 本学で学んだ調理学・応用栄養学の技術と知識を、実践活動のために利用できるようになる。 2. テーマを追求するための情報を自ら適切な手段で入手し、栄養補給の計画に活用できるようになる。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	オリエンテーション	活動内容の確認とテーマ決め					○
2-4	テーマに関する情報収集	文献の検索方法や情報収集に必要な手段を学び、文献検討を行う					○
5-7	研究課題の決定と方法の検討	研究の背景・目的を明確にし、実施の方法を検討する					○
8	研究計画	研究計画書およびスケジュールの設定を行う					○
9-15	研究活動の準備	実施に関する書類の作成、実習の準備、調査書類の作成を行う					○
16-20	研究活動の実施	研究計画書を基に実施し、データを集める					○
21・22	データ入力	実施から得られたデータの入力を行う					○
23-24	データの解析	入力データを基に解析を行う					○
25-28	発表資料の作成	解析結果を基に本研究の実施報告をまとめる					○
29	発表会①	研究室内で発表会を行う					○
30	発表会②	研究発表もしくはポスターの掲示					○
教科書及び参考図書							
参考図書：応用栄養学（羊土社） 日本人の食事摂取基準 2020 年版（第一出版） 八訂 食品成分表 2023（女子栄養大出版部）							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 0.5 時間）：研究テーマに基づく文献・資料を収集し、学習しておく。 事後学習（週 0.5 時間）：実験などで得られたデータをまとめる。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
オフィスアワーで適宜対応する							
成績評価の方法・基準							
研究活動における各種書類の内容 70% 研究発表 30%							
関連科目							
受講上の注意							
授業時間外に活動を実施する可能性がある。							

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
グッドコーチ・指導実践・ハンドボール						
授業の目的と概要						
<p>これまでの経験を通して「グッドコーチ」とは何かを考え、指導者に必要な知識・態度を身につけることを目的とし、「スポーツ指導」に関する興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、より効果的な練習法や指導法を考え、指導する。また「武蔵丘ハンドボールクリニック」に補助員として参加し、指導実践を行う。</p>						
学習の到達目標						
<p>各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、説明できる。 指導者に必要な知識・態度を身につけ、計画した内容を指導できる。</p>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業展開、評価についての説明、演習における注意点				
2～4	スポーツ紹介	これまで頑張ってきた「スポーツ」を紹介する				○
5～6	「コーチ」とは	「グッドコーチ」について考える				○
7～8	プレーヤーズセンタードとは	プレーヤーズセンタードについて考える				○
9～10	「グッドコーチ」の条件	「グッドコーチ」の条件、求められる資質能力について考える				○
11～12	「グッドコーチ」をめざす	「グッドコーチ」になるために、今できることを考える				○
13～16	指導法の検討	各自が興味・関心のあるテーマについて調べ、その練習方法・指導方法について発表する				○
17～22	指導実践①	各自が調べた内容をもとに練習計画を立て、練習方法・指導方法を実践する				○
23～25	指導実践②	「武蔵丘ハンドボールクリニック」に指導補助員として参加し、指導法を学ぶ				○
26～28	指導実習	指導実践のまとめ				○
29～30	まとめ	これまでの指導実践について発表する				○
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：目からウロコのシュート術、目からウロコの個人技術、目からウロコの DF 戦術（グローバル教育出版） その他：適宜資料を配付するが、必要に応じて各自で参考資料等を収集すること。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習（週 0.5 時間）：ハンドボール競技規則については毎時間しっかりと予習しておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）：ゼミ活動を通して興味を持った内容について積極的に調べること。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間提出された小レポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の方法・基準						
指導実践 50% 調査・発表 50%						
関連科目						
球技 2（ハンドボール）						
受講上の注意						
指導実践ではハンドボールの指導が中心となるため、「球技 2（ハンド）」の履修が望ましい。積極的に課題・指導実践に取り組むこと。						

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習 アクティブ・ラーニング	玉木 啓一		国	NSM-S6072		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
健康・ダイエット・競技力向上						
授業の目的と概要						
競技力向上や健康増進にスポーツ科学 (スポーツ生理学、バイオメカニクス) をどのように応用できるか? など、学生自らテーマを設定し、それらの疑問を解決することを目指し、実践しまとめていく。各自のテーマ (スポーツ技能の向上、ダイエットの成功 など) を研究成果としてまとめる。						
学習の到達目標						
各自の研究テーマを通して、その測定方法のしくみを理解し、測定結果から科学的結論を導き出す能力を体得すること、さらに、自分自身で正しいかどうかの判断ができる能力を身につけ健康生活を実践・指導できることが本科目の目標である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	科学とは、学問とは	科学的に考えることを学ぶ。情報から、知りたい事柄を考える。				
3・4	スポーツ生理学ゼミとは	過去のゼミ研究テーマを知る。				
5・6	発信力を学ぶ	研究論文の書き方を学ぶ。情報収集の方法と情報の取り扱いを学ぶ。				
7・8	自分は何を明らかにしたいのか?	各自が興味があるテーマの発表・討論				○
9・10	研究のための手段	研究テーマの検討と研究方法を考える。研究手法を検討する。				○
11・12	研究手段を磨く	研究手法の習得・再検討を行い、研究計画を具体化する。研究手法を習得し、研究計画を決定する。				○
13・14	研究をまとめる (第一段階)	研究を実践し、情報やデータを収集し、実験・測定などを行う。				○
15・16	研究まとめのブラッシュアップ 1	研究の進捗状況を検証し、結果考察に必要な情報を収集する。				○
17・18	研究まとめのブラッシュアップ 2	研究の中間発表のために、資料をまとめる。				○
19・20	発表手段の実現 (第一段階)	中間発表 (ポスター発表) の準備を行う。				○
21・22	発表の自己評価・	中間発表 (学園祭) での、反省と自己評価を行う。中間発表に関するゼミ内での討論会。				○
23・24	研究をさらに進める準備	研究レポート作成について、各自の進捗に合わせた再検討。				○
25・26	研究への考察	各自の研究について課題解決の方法を検討し実践する。研究の幅を広げるために、関連分野の知識から広い考察を行う。				○
27・28	研究をまとめる (最終段階)	科学的思考に基づき、事実に基づいた考察について学ぶ。				○
29・30	研究の発信	レポート提出し、発表について準備を行う。研究成果発表				○
教科書及び参考図書						
教科書: 特になし 参考図書: 学び合い、発信する技術 アカデミックスキルの基礎 林直亨著 岩波ジュニア新書						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 各自の研究テーマのための情報収集を行う。 事後学習 (週 0.5 時間) : 授業での討論を踏まえたテーマの考察を行う。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業中の討論が主となるが、実験・測定の現場でも様々なフィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
レポート 50%、成果発表 40%、授業時の発言・討論提出物 10%						
関連科目						
運動生理学、運動生理学実習						
受講上の注意						
Google Classroom には必ず登録し、定期的にチェックすること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
演習 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志		NSM-S6072			
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
バレーボール						
授業の目的と概要						
バレーボールの戦術・スカウティング・練習方法等、色々な側面からバレーボールを捉え、学生自ら研究課題を設定し、課題について調べ、レポート作成を行う。						
学習の到達目標						
あらゆるスポーツ競技の中で、バレーボールに限定し、各自が研究課題となるテーマを考え、調べ、まとめる。て、その成果を発表する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1～3	バレーボール研究 研究課題	前学期 研究課題 ○バレーボールの研究 書籍（Volleypedai）を利用し、バレーボールの用語を正しく理解する				○
4～7	バレーボール指導技術、指導理論	書籍（バレーボール指導教本・コーチングバレーボール基礎編）を利用し、指導技術や指導理論を学ぶ				○
8～11	チーム戦術	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームの戦術を検討する				○
12～15	スカウティング	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームに対しスカウティングを行う				○
16～18	研究テーマ	後学期 研究の実施 ○研究の実施 前学期に学んだ内容を考慮し、研究テーマを検討する				○
19～21	研究テーマ発表	研究テーマを発表し、研究グループをつくる				○
22～25	研究課題	各グループでの研究内容に沿って課題に取り組む				○
26～30	研究課題	研究課題をまとめる				○
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本（財）バレーボール協会編 大修館 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習：課題に取り組むにあたって必要な資料を探し、熟読しておくこと。 事後学習：自らの課題で分からなかった事を調べておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで対応する。						
成績評価の方法・基準						
研究テーマへの取組、課題の発表など 100%						
関連科目						
スポーツ指導論、スポーツ運動学、情報機器操作						
受講上の注意						
研究発表ができるように PC 操作ができるようにすること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>			2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
演習 アクティブ・ラーニング	川井 明・新 順			NSM-S6072			
この授業に関する資格							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力				
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得				
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
キーワード							
バスケットボール・ゲーム分析・プレゼンテーション							
授業の目的と概要							
バスケットボールの専門的な知識を身に付け、主にゲーム分析の方法について学ぶ。バスケットボールに関する自分の興味のあるテーマについて調べまとめる。							
学習の到達目標							
バスケットボールの競技特性を理解し基本的なゲーム分析を行うことができる。自分の決めたテーマについて調べ、順序立ててレポートにまとめることができる。							
回	テーマ	授業内容					AL
1・2	授業ガイダンス	ガイダンス 授業の目的や内容を理解する					
3・4	歴史的背景	競技特性の理解① バスケットボールの競技特性の理解を深める。歴史的な背景等について、レポートやプレゼンを行う					○
5・6	競技規則	競技特性の理解② バスケットボールの競技特性の理解を深める。競技規則等について、レポートやプレゼンを行う					○
7・8	国内の現状	競技特性の理解③ バスケットボールの競技特性の理解を深める。国内的な現状等について、レポートやプレゼンを行う					○
9・10	海外の現状	競技特性の理解④ バスケットボールの競技特性の理解を深める。国際的な現状等について、レポートやプレゼンを行う					○
11・12	研究目的	プレゼンテーション① これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う					○
13・14	先行研究	プレゼンテーション② これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う					○
15・16	参考文献	プレゼンテーション③ これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う					○
17・18	研究課題決定	ポスター発表準備① 研究テーマを決定					○
19・20	先行研究検索	ポスター発表準備② 先行研究を行う					○
21・22	発表準備	ポスター発表準備③ 各自の研究活動					○
23・24	ポスター発表	ポスター発表 学園祭において、自身の研究についてポスター発表を行う					○
25・26	レジュメ作成	まとめ① 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出					○
27・28	プレゼン	まとめ② 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出					○
29・30	総括	まとめ③ 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出					○
教科書及び参考図書							
参考図書：「バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会（大修館書店）」その他、適宜紹介する。							
準備学習・事後学習							
準備学習：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習：授業中の内容を復習すること。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
毎時間のレポート提出やプレゼンテーション回収後に、フィードバックを行う。							
成績評価の方法・基準							
レポート 50% プレゼンテーション 50%							
関連科目							
球技 1（バスケットボール）、球技 2（バスケットボール）、体育原理、スポーツ指導論							
受講上の注意							
パソコンの基本的な操作や Word、Excel、Power point が、使用できることが望ましい。							

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
演習 アクティブ・ラーニング	辻 将也			NSM-S6072		
この授業に係る資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
陸上競技・コーチング						
授業の目的と概要						
陸上競技のルールおよび種目特性について考察する。 幅広い年代への指導方法について考察することにより、陸上競技の実践的指導力を身に付けることができる。						
学習の到達目標						
各種目および対象者における課題を発見し、その課題に適した練習方法・指導方法を自ら検討し、実践することができる。						
回	テーマ	授業内容			AL	
1	授業の概要を説明する	授業の流れの説明				
2・3	陸上競技のルールおよび種目特性について学ぶ	陸上競技におけるルール、各種目の特性				
4・5	種目に適した指導法について考える 各年代の特徴について学び、適した指導方法について考える	各種目の指導方法、年代の身体的特徴			○	
6・7	コーディネーショントレーニングについて学び、実践する	コーディネーション能力			○	
8・9	小学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	小学生 走種目 指導方法				
10・11	中学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	中学生 走種目 指導方法				
12・13	高校生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ	高校生 走種目 指導方法				
14・15	各年代への走種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 走種目 指導方法			○	
16・17	小学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	小学生 跳躍種目 指導方法				
18・19	中学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	中学生 跳躍種目 指導方法				
20・21	高校生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ	高校生 跳躍種目 指導方法				
22・23	各年代への跳躍種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 跳躍種目 指導方法			○	
24・25	小・中・高生を対象とした投てき種目のコーチングについて学ぶ	小・中・高校生 投てき種目 指導方法				
26・27	各年代への投てき種目のコーチングについて検討し、まとめる	小・中・高校生 投てき種目 指導方法			○	
28～30	各自が設定したテーマについて調べ、練習方法および指導方法について発表する	練習方法 指導方法 プレゼンテーション			○	
教科書及び参考図書						
教科書：陸上競技指導教本アンダー13：(公財)日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：(公財)日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週0.5時間)：授業の内容に関する情報(教科書・インターネット等)を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習 (週0.5時間)：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
指導実践 60% 発表 40%						
関連科目						
陸上競技1・2						
受講上の注意						
陸上競技に興味・関心を持っていること						

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>			2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング			
演習 アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NSM-S6072			
この授業に関係する資格							
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連							
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力				
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得				
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
キーワード							
人間形成・教育実践							
授業の目的と概要							
<p>本演習の目的は、人間形成のあり方とその課題について、自身の考えを相手に分かりやすく説明することができるようになることである。人間形成とは何であり、それはどのような過程をたどるのか。また、授業をはじめとする教育実践は、人間形成にとってどのような意味を有するのか。教職を希望する学生には、これらの問いの追求を通じて、自身の教養を深めることが求められる。本演習では、こうした問いについて考え、話し合うことを通じて、人間形成についての考えを深める。</p>							
学習の到達目標							
人間形成のあり方とその課題について、自身の考えを相手に分かりやすく説明することができる。							
回	テーマ	授業内容				AL	
1	オリエンテーション	演習の概要と進め方、成績判定の方法、受講上の諸注意				○	
2	教育実践における問い	「とは何か」という問い、「いかにして」という問い				○	
3～5	人間形成の理念	人間性、有能性、人間性と有能性の統一				○	
6～8	人間形成の原理と過程	弁証法、自他の対立や葛藤				○	
9～11	教授を通した人間形成	教授と人間形成の関係、教授の意義、教育内容の価値				○	
12～15	授業づくりの観点	教材研究、発問、子ども理解、教育方法				○	
16～20	レポート内容の選択と発表	問いや課題の設定、単元、教材				○	
21～25	レポートの構想と作成	問いや課題の追究、授業構想、単元計画、学習指導案				○	
26～29	レポートの発表と質疑応答	発表、質疑応答				○	
30	まとめ	今後の課題の検討				○	
教科書及び参考図書							
<p>参考図書：高久清吉『教育実践の原理』協同出版株式会社、1970年。          その他：必要に応じて、プリントを配布する。</p>							
準備学習・事後学習							
<p>準備学習：演習で議論するためのテーマやキーワード、またそれらに関連する資料を集め、発表する内容を整理すること。          事後学習：授業内容に関して分からなかったことを復習すること。</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法							
業時間内に質疑応答という形でフィードバックする。また、オフィスアワーで適宜質疑応答またはフィードバックする。							
成績評価の方法・基準							
レポート課題 50%、授業課題 50%							
関連科目							
教育原理、教育方法の理論と実践							
受講上の注意							
受講者には、演習における話し合いなどに積極的に参加してほしい。							

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in health of Life]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
演習 アクティブ・ラーニング	田本 育代		NSM-S6072			
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
サッカー・ダブル・パス・コントロール・ゲーム						
授業の目的と概要						
【前学期】サッカーを科学的な視点でとらえ、自ら研究テーマを設定してレポートにまとめる。 【後学期】前学期の成果をパワーポイントを用いて発表し、学園祭にてポスター発表を実施する。 本ゼミは「私の専門はサッカーです」と言うためのゼミである。						
学習の到達目標						
サッカーを科学的な視点でとらえ、深く理解し、対象の研究テーマを各自で探究し、理解、表現することができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	サッカー	ガイダンス				
2	サッカー・先行研究	先行研究の紹介				○
3	書き方・理解	研究論文の書き方				○
4	研究	研究方法の解説				○
5	テーマ・ディスカッション	研究テーマの設定				○
6	データ収集・処理	データ収集・処理				○
7	データの扱い方・仮説との整合性	結果・考察のまとめ方				○
8	研究レポート	研究レポート作成				○
9	パワーポイント・プレゼンテーションスライド	プレゼンテーション				○
10	発表のマナー	口頭発表の説明				○
11	発表・質疑応答	口頭発表会				
12	発表用ポスター	ポスター作成				
13	ゲーム分析	ゲーム分析				
14	指導実践・指導理解	コーチング分析				
15	まとめ	まとめ				○
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導の教科書（日本サッカー協会）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：分析内容に関わる資料を探してくる。 事後学習（週 2 時間）：授業時間内で終わらなかった点をまとめてくる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート 40%、研究発表 30%、ポスター発表 30%						
関連科目						
受講上の注意						



授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health and Management] <b>必修</b>			2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー			
演習 アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S6072			
この授業に関係する資格							
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連							
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力				
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得				
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力				
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力				
キーワード							
野外教育・レクリエーション・カヌー・ルディックウォーキング							
授業の目的と概要							
前学期はイニシアティブゲームについて調査し、体験学習法について学ぶ。また、プールでカヌーを練習し、社会貢献としてボランティア活動に参加できる技術を身につける。後学期は本学の施設や周辺の自然環境を利用して、ルディックウォーキング、アウトドアクラフトについて実践を通して学ぶ。							
学習の到達目標							
野外活動をはじめとした様々な活動での直接体験の重要性について説明できる。体験した活動の指導法についても学び、指導できる。体験した活動について調査し、発表できる。							
回	テーマ	授業内容				AL	
1	ガイダンス オリエンテーション	この演習の内容とその進め方についてのガイダンス					
2~4	イニシアティブゲーム	イニシアティブゲームについて体験する					
4~7	OBS PAJ	イニシアティブゲームについて調査する				○	
8・9	ゲームのまとめ	イニシアティブゲームについて、ポスターにまとめる					
10~13	カヌー カヤック セルフレスキュー	カヌー (カヤック) について、その基本から、実践を通して学ぶ					
14	カヌーのまとめ 発表準備	カヌーについて、ポスターにまとめる				○	
15	ポスター作成	前学期についてのまとめとポスター作成				○	
16~18	ルディックウォーキング ポールウォーキング	ルディックウォーキング (NW) の基本					
19~21	ヘルスレベル フィットネスレベル	本学周辺のコースの調査				○	
22~23	NW のまとめ ポスター作成 発表準備	NW について学んだことをポスターにまとめる					
24	NW ポスター発表	NW ポスターにまとめ発表する					
25	野外教育	自然を活用した野外活動やレクリエーション活動					
26・27	野外クラフトの基本	自然の材料を活用した野外工作と安全管理					
28・29	野外クラフトの応用	野外工作を発展させ、テーブル作成					
30	発表ポスターの掲示	この演習での成果を発表する					
教科書及び参考図書							
参考図書：ティーチング イン ザ アウトドアーズ D.R.Hammerman 他著 日本野外教育研究会監訳 杏林書院 その他：必要に応じて資料を配付する							
準備学習・事後学習							
準備学習 (週 0.5 時間)：毎回のテーマに関する情報を新聞や雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポート (提出課題) に生かせるようにしておく。 事後学習 (週 0.5 時間)：授業内容をふりかえり、次回に活かせるようにしておく。毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして、授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。							
成績評価の方法・基準							
調査・発表・レポート 40% 運動技能 30% 指導法の理解 30%							
関連科目							
受講上の注意							

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義・演習 アクティブ・ラーニング	八板 将明		NSM-S6072			
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
映像制作・地域連携・SDGs・Society5.0						
授業の目的と概要						
SDGs や Society5.0 の概念に基づき、地域活性化についての研究活動を行う。主に川島町・武蔵丘短期大学の包括連携協定に基づく共同研究として、町の PR 動画の制作および配信活動を行う。テーマ設定・現地調査・取材・動画編集・配信活動を通じて、その反響を検証する。また、プレゼンテーションや動画コンテンツの配信を通じて、伝える力、発信力を養うことを目的とする。						
学習の到達目標						
SDGs や Society5.0 が示す地域社会について理解し、説明できる。映像制作 (取材・撮影・編集) のスキルを身につけ、テーマに沿った動画を作成することができる。課題を発見し・解決する能力を身につけ、積極的に考え、行動することができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	ガイダンス	年間スケジュール・研究内容・研究方法・目標設定方法の説明および共有				○
3・4	研究テーマ設定の実践	SDGs、Society5.0 の概念の基、地域の課題発見と解決の考え方・実践方法を学ぶ				○
5-7	研究①/地域の生活	地域の生活・歴史に関する研究 現地取材・撮影・映像編集・SNS 配信				○
8-9	ディスカッション①/地域の生活	SNS 配信による反響の分析・ディスカッション				○
10~12	研究②/地域の産業	地域の生活・歴史に関する研究 現地取材・撮影・映像編集・SNS 配信				○
13・14	ディスカッション②/地域の産業	SNS 配信による反響の分析・ディスカッション				○
15~17	研究③/地域の観光資源	地域の生活・歴史に関する研究 現地取材・撮影・映像編集・SNS 配信				○
18・19	ディスカッション③/地域の観光資源	SNS 配信による反響の分析・ディスカッション				○
20~22	研究④/自由テーマ設定①	地域の生活・歴史に関する研究 現地取材・撮影・映像編集・SNS 配信				○
23・24	ディスカッション④/地域の観光資源	SNS 配信による反響の分析・ディスカッション				○
25・26	研究⑤/自由テーマ設定②	地域の生活・歴史に関する研究 現地取材・撮影・映像編集・SNS 配信				○
27・28	ディスカッション⑤/地域の観光資源	SNS 配信による反響の分析・ディスカッション				○
29・30	まとめ	年度報告・研究レポート作成、提出・川島町への年度報告				○
教科書及び参考図書						
東洋経済 (SDGs に取り組む大学特集/ポスト 2030 に向けた知と実践/初等中等教育における SDGs・ESD の実践) セルバ出版 (SDGs を基盤にした大学連携型地域貢献)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 研究内容に付随する指定した映像の鑑賞 事後学習 (週 0.5 時間) : 研究を進める上で必要な映像の鑑賞						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
オフィスアワー・Google Classroom を活用した情報共有、ディスカッションの実施						
成績評価の方法・基準						
研究課題成果物 70%、レポート 30% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
関連科目						
受講上の注意						
取材先や天候により授業時間が変動的になることが多いため、スケジュール調整の必要性が高い。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	競技のスポーツ栄養学 [Sports Nutrition for Athlete]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義 アクティブ・ラーニング	長島 洋介		NSM-S3017			
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
スポーツ選手の食事・競技種目別・栄養サポート・欠乏症の予防						
授業の目的と概要						
この授業では、栄養サポートの実際を例に出して、現場レベルでスポーツ選手が直面する課題や栄養サポートについて学習する。 この授業の目的は、アスリートに必要な栄養や食事や、競技別における栄養サポートの現状に関する理解を深めることである。						
学習の到達目標						
トレーニング状況、時期に応じた食事に関する知識を身につけ、競技に応じた栄養サポートについて理解し、説明することができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	競技スポーツと食事・栄養の意義	スポーツ選手の食の基本形について				
2	エネルギー消費量	スポーツ選手の身体組成と評価方法について				
3	エネルギー摂取量	食事調査の方法と結果の理解				
4	エネルギー補給方法	運動前後のエネルギー補給について				
5	脂質の役割	脂質を摂取する意義について				
6	たんぱく質とアミノ酸の摂取	たんぱく質の必要量とアミノ酸について				
7	ビタミンと運動	ビタミンの役割と摂取源となる食品、酸化ビタミンについて				
8	ミネラルと運動	鉄とカルシウムの役割と摂取源となる食品に関して				
9	減量期・増量期の食事	エネルギーコントロール方法と注意点について				
10	試合期の食事	消化吸収を考慮した食事と食中毒に学習する				
11	ジュニアアスリートの栄養	思春期や学童期のスポーツ選手の食事				
12	アスリートの抱える問題 1 低栄養の問題	貧血予防について				
13	アスリートの抱える問題 2 心理的な問題	女性アスリート三徴、月経障害について				○
14	国際競技力向上のための栄養士の役割 1	ハイパフォーマンスサポート活動について				○
15	国際競技力向上のための栄養士の役割 2	遠征時の食事における注意点について				
教科書及び参考図書						
参考図書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養」財団法人日本体育協会、 「スポーツ栄養学」建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：参考図書を読み、キーワードをまとめておくこと。 事後学習（週 2 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 100%として評価する。						
関連科目						
健康のスポーツ栄養学、トレーニング科学						
受講上の注意						
普段から、スポーツ選手の食事や食事に関するニュースに関心を持ち、情報を収集しておくこと。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ運動学 [Sports Kinematics]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	杉山 仁志		NSM-S2018			
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
社会体育指導者・スポーツ指導・競技指導者						
授業の目的と概要						
社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必須の項目を扱い、テーマに応じた授業を行う。又、競技指導者として必要な知識を学習する。						
学習の到達目標						
社会体育指導者及び競技指導者として必要な知識を、運動・スポーツ指導に関連付けた内容の習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業概要	授業概要を説明する				
2	トレーニング理論 体力	競技指導者として必要な体力について学習する				
3	トレーニング理論 原則	競技指導者として必要なトレーニングの原則について学習する				
4	トレーニング理論 筋力	競技指導者として必要な筋力について学習する				
5	運動指導法 トレーニングと練習	競技指導者として必要なトレーニングと練習の違いについて学習する				
6	運動指導法 体の機能	競技指導者として必要な体の機能の向上について学習する				
7	運動指導法 量と質	競技指導者として必要な行う内容の量と質について学習する				
8	運動指導法 選手 限界	競技指導者において選手の限界について学習する				
9	運動指導法 記録の向上 弱点	競技指導者において選手の記録の向上及び弱点について学習する				
10	各運動の基礎知識 ジョギング ウォーキング	ジョギング・ウォーキング指導法				
11	各運動の基礎知識 水泳 水中運動	水泳・水中運動指導法				
12	各運動の基礎知識 エアロビックダンス	エアロビックダンス指導法				
13	マシントレーニング理論 競技指導	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する				
14	マシントレーニング理論 競技指導	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する				
15	まとめ	運動指導法のまとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実戦指導者用テキスト（公財）健康・体力づくり事業財団						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：運動・スポーツの指導において、基礎となる部分なので、教科書等を利用し、情報収集しておくこと。 事後学習（週2時間）：自分なりのノートを作成し、欠席等で資料を受け取っていない場合は、資料を受け取り復習しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、授業の初めに前回の内容が理解できているか確認する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 90% 授業への取組 10%						
関連科目						
運動生理学						
受講上の注意						
資格取得希望学生は、取りこぼすことのないように注意すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
共通専門科目	運動処方論 [Exercise Prescription]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	玉木 啓一			NS-S2019	
この授業に関係する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
運動不足病・運動処方					
授業の目的と概要					
運動生理学の知識を基礎として、健康のために運動を役立てる方法を学ぶ。安全に健康増進をはかるための能力を高める。					
学習の到達目標					
安全で効果的な運動処方が出来るための知識を習得し、実際に運動処方を出来ることを目標としている。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	運動処方とは	運動処方についての考え方を学ぶ			
2	運動強度	運動の種類、強度、持続時間、頻度、進め方を学ぶ			
3	運動不足病、有酸素運動、無酸素運動	健康と運動の関連を学ぶ			
4	肥満、循環器系疾患、糖尿病	運動に関連する病気について理解する			
5	リスクの層別化	中高年者の体力と運動によるリスクについて学習する			
6	虚血性心疾患、血圧	運動実施に伴うリスクについて学び、その回避方法を理解する			
7	運動強度、心拍数、最大酸素摂取量	体力・運動強度の把握、利用方法について学ぶ			
8	HRR法	各々が実施した運動強度の把握方法を習得する			○
9	運動によるリスクの理解	運動リスク把握のためのメディカルチェックについて学ぶ			
10	運動によるリスクの判別	運動強度決定のためのメディカルチェックについて学習する			
11	トレーニングの原理・原則	運動処方（トレーニングの原理・原則）を理解する			
12	運動種類とトレーニング	運動の種類によるトレーニングについて理解する			
13	運動処方の立案	運動処方を具体的に立案・検討してみる			
14	運動処方の評価・改善	運動プランの評価・改善能力を身につける			
15	運土処方のまとめ	運動処方のプランを自ら検討・改善する能力を養う			
教科書及び参考図書					
必要に応じ、資料を配布（Google Classroomにも事前にアップ予定） 参考図書：運動処方ケーススタディでみるACSMガイドライン 坂本静男監訳 有限会社 ナップ					
準備学習・事後学習					
準備学習（週1.5時間）：配布された資料を熟読する。授業での指示があった場合はその指示に従う。 事後学習（週2.5時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中の対面でのフィードバックが主であるが、Google Classroomを通じてのフィードバック、E-mailを利用した個別対応を行う予定。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験の成績95%、課題5%					
関連科目					
運動生理学、運動生理学実習					
受講上の注意					
配布資料を毎回すべて持参すること。欠席等の場合、次回までにスポーツ生理学研究室前のレターボックスから入手しておくこと。 Google Classroomには必ず登録し、定期的にチェックすること。運動生理学は履修しておくことが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
共通専門科目	レクリエーション論 [Recreation]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男		NSM-S2020			
この授業に関係する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、初級パラスポーツ指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
レクリエーション・レジャー ・ 労働と遊び ・ 遊びと人間文化						
授業の目的と概要						
レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人間性を備えたレクリエーション支援者となることを目指す。						
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原理と意義を応用したレクリエーション支援ができる。コミュニケーションをとりながらグループワークに臨み、レクリエーションの理論を活かして、楽しさの時間を創造できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業概要 用語の定義	用語としての「労働 遊び 現実世界 非現実世界」				
2	労働と遊び	レジャー、レクリエーションの位置付け				
3	レクリエーション・余暇の現状と課題	余暇と自由時間、レクリエーションゲームについて				○
4	レクリエーション運動の歴史と概念	砂場づくり運動 遊び場づくり運動 厚生				
5	レクリエーションの変遷と制度	戦後から現代				
6	楽しさを通じた心の元気づくり	アイスブレイキングについて				○
7	地域のきずな	コミュニケーションと関係づくりについて				
8	レクリエーション支援	ホスピタリティトレーニング コミュニケーションワーク				
9	集団に対するレクリエーション支援	グループワーク 仲間づくり レクリエーション支援者の役割				○
10	障がい者のレクリエーション	ノーマライゼーションと身体障がいの種類について				
11	みんなのスポーツ、身体障がいの理解	デフスポーツ、ユニバーサルスポーツと身体障がいの種類について				
12	福祉レクリエーション 1	身近なレクリエーションと知的障がいについて				
13	福祉レクリエーション 2	身近なレクリエーションと精神障がいについて				
14	レクリエーション活動中の事故と責任	リスクマネジメント ひやりとした体験の話し合い				○
15	これからのレクリエーション	講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとoshita心の元気づくり（財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎（財）日本レクリエーション協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポート（提出課題）に生かせるように目を通しておく。 事後学習（週2時間）：毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
関連科目						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ心理学 1 [Sport Psychology 1]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	水野 寛太		NSM-S2021			
この授業に係る資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、ピアヘルパー、GFI、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
メンタルトレーニング・あがり・モチベーション・イメージトレーニング・運動学習						
授業の目的と概要						
スポーツで優れた競技成績を得るためには心理的側面が重要である。スポーツ心理学はメンタルトレーニングや性格特性に限らず、運動学習やイメージのように、心理的要因がスポーツに関与する学問領域を幅広く含んでいる。本授業ではスポーツ心理学研究が明らかになってきた知見を概観し、基礎知識を身に付ける。さらにスポーツ現場で実践するための具体的手法を、そのメカニズムとともに理解し、習得することを目的とする。						
学習の到達目標						
スポーツ心理学の基礎知識と応用技法を身に付け、スポーツの実践および指導場面で活かすことができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業概要	スポーツ心理学とは（遠隔授業）				
2	心理的要因がスポーツに及ぼす影響	心理的要因（思考、情動等）がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響				
3	パーソナリティの理論と測定法	パーソナリティ、性格特性とスポーツ（遠隔授業）				
4	注意（外的注意、内的注意など）	注意の理解、注意の方向性がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響（遠隔授業）				
5	あがりの発生機序	あがりの発生メカニズム、プレッシャーが身体に及ぼす影響など（遠隔授業）				
6	あがりの防止法	あがり防止法（リラクゼーション、注意の焦点付け、QEトレーニングなど）（遠隔授業）				
7	動機づけ（外発的動機づけ、内発的動機づけ）	モチベーションを高める方法（目標設定、原因帰属など）（遠隔授業）				
8	コーチング心理学（メンタルマネジメント）	メンタルマネジメントとは、心理的コンディショニングの基礎（遠隔授業）				
9	コーチング心理学（メンタルトレーニング）	メンタルトレーニングとは、トレーニング技法（遠隔授業）				
10	イメージトレーニング	イメージトレーニング技法とそのメカニズム（遠隔授業）				
11	運動感覚（固有感覚、内受容感覚、外受容感覚など）	ヒトの神経系、運動感覚（遠隔授業）				
12	運動学習①（運動学習の理論）	運動学習の理論（遠隔授業）				
13	運動学習②（運動学習の手法）	運動学習の実践的手法（遠隔授業）				
14	スポーツ精神生理学	精神生理学的手法を用いたスポーツ心理学の理解（遠隔授業）				
15	授業のまとめ	全体の総括（遠隔授業）				
教科書及び参考図書						
参考図書：スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版 日本スポーツ心理学会編（大修館書店） 運動指導の心理学 杉原隆（大修館書店）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：参考図書、インターネットなどから予習しておくこと。 事後学習（週 2 時間）：配布された資料等を見直しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70%、毎授業の確認テスト 30%						
関連科目						
スポーツ心理学 2						
受講上の注意						
毎時間資料を配布する。また、毎授業で確認テストを実施する。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ社会学 [Sports Sociology]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	山本 恵弥里		NSM-S2023			
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
社会学・スポーツの意義と価値・スポーツ文化						
授業の目的と概要						
スポーツと社会の関わりについて、スポーツの歴史の変遷から生活や文化の中でスポーツがどのように変化して来たかを理解し、様々な社会的要因がスポーツに影響を与えることを学び、スポーツ指導者に必要とされる知識を習得することができる。						
学習の到達目標						
スポーツの指導者を目指すものとして必要な知識の中で、特に本授業では社会的文化的概念を中心にスポーツを理解し、知識を深めることができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツの概念	スポーツとは何かを理解する（遠隔授業）				
2	スポーツの歴史（1）	古代ギリシャ・ローマ時代のスポーツ（遠隔授業）				
3	スポーツの歴史（2）	中世ヨーロッパのスポーツ（遠隔授業）				
4	スポーツの歴史（3）	スポーツ改革と教育（遠隔授業）				
5	現代のスポーツのとりえ方・考え方	歴史の変遷を経て現代スポーツを理解する（遠隔授業）				
6	社会の中におけるスポーツの価値(1)	社会の中におけるスポーツの価値（遠隔授業）				
7	社会の中におけるスポーツの価値(2)	スポーツ産業化、コミュニティ創造、地域生活（遠隔授業）				
8	社会の中におけるスポーツの価値(3)	諸外国のスポーツプロモーション（遠隔授業）				
9	社会の中におけるスポーツの価値(4)	戦後日本のスポーツプロモーション（遠隔授業）				
10	文化としてのスポーツ(1)	スポーツの文化的特性、スポーツ文化の内容（遠隔授業）				
11	文化としてのスポーツ(2)	スポーツマンシップとフェアプレー（遠隔授業）				
12	スポーツ宣言日本におけるスポーツの意義と価値(1)	スポーツ基本法、スポーツ宣言日本（遠隔授業）				
13	スポーツ宣言日本におけるスポーツの意義と価値(2)	スポーツ宣言日本におけるスポーツの定義（遠隔授業）				
14	オリンピックにおけるスポーツの意義と価値のとりえ方	オリンピックの根本原則（遠隔授業）				
15	まとめ	本授業まとめ（遠隔授業）				
教科書及び参考図書						
教科書：リファレンスブック 公益財団法人日本スポーツ協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週2時間）：授業内容の復習を行うこと。加えて、日常的にスポーツに関する報道に興味関心を持ち、情報に目を通すこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業時間の前後に E-mail 等を利用して、適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70% 提出物（提出期限厳守等を含む） 30%						
関連科目						
受講上の注意						
毎時間資料を配布するため、各自でしっかり管理すること。						



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ経営学 [Sports Management]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	高橋 季絵		NSM-S2024			
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
スポーツ経営・スポーツ産業・スポーツ施設・スポーツイベント						
授業の目的と概要						
スポーツ経営に関する法律や制度を理解するとともに、スポーツ行政、企業とスポーツ、スポーツ施設、スポーツイベント等を経営的な観点から捉え、理解を深めることを目的とする。						
学習の到達目標						
健康、フィットネス、スポーツ、体育の管理運営に関する現状を把握し、当該業界のモノ、サービス、人、金、情報の流れを分析し、経営学的な側面を理解し、説明できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画、スポーツ経営学の対象領域とその意味				
2	スポーツ経営の概念	産業の概要と現況、産業界発展の社会・経済的背景				
3	スポーツ経営に関する法律・制度	スポーツに関わる日本の法律や制度				
4	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業、スポーツ用品市場の現状				
5	企業とスポーツ	企業スポーツ（実業団スポーツ）の歴史、企業とスポーツの関わり				
6	スポーツ施設の経営（1）民間フィットネスクラブ	民間フィットネスクラブの歴史と経営				
7	スポーツ施設の経営（2）公共スポーツ施設	公共スポーツ施設の管理運営				
8	スポーツマーケティング入門	スポーツマーケティングの定義とその現況				
9	スポーツ・スポンサーシップ	スポーツ・スポンサーシップの歴史と現状				
10	スポーツとメディア	スポーツとメディアの関係（歴史と現状）				
11	スポーツイベントのマネジメント	スポーツイベントの仕組み				
12	スポーツ・ツーリズム	スポーツ・ツーリズム産業の歴史と現状、事例				
13	プロスポーツの経営戦略	プロスポーツ（リーグ）の歴史と経営				
14	商品としてのスポーツ・プロスポーツの現状	日本のプロスポーツの現状、海外の事例紹介				
15	「スポーツ経営学」総まとめ	全授業のまとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：公認スポーツ指導者テキスト（公財）日本スポーツ協会 リファレンスブック						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：次回のテーマに関するニュースをインターネットや新聞、テレビ等で収集する。 事後学習（週2時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎時限ワークシートを回収し、テーマごとにキーワードの確認をする。						
成績評価の方法・基準						
毎時間の講義レポート 50%、筆記試験 50%						
関連科目						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ行政論 [Public Administration of Sports]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	高橋 季絵		NSM-S2025			
この授業に関係する資格						
教員免許（中学校2種・保健体育）、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
スポーツ基本計画・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ実施率						
授業の目的と概要						
スポーツ庁・文部科学省を中心とした国のスポーツ行政について、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を中心に学び、「競技・生涯スポーツの振興」、「総合型地域スポーツクラブ」への取り組みを事例を用いて学習して説明することができる。						
学習の到達目標						
国のスポーツ行政の根幹をなす「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を理解し、社会におけるスポーツのあり方を考えて、「する」、「見る」、「支える」形でスポーツ参加を促進する役割をこなす人材となる知識を身につける。また、アシスタントマネジャーとして総合型地域スポーツクラブで活動できるまた、スポーツ指導者としての基礎能力を獲得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス、スポーツ行政とは	授業計画の確認、スポーツ行政論の対象領域とその意味				
2	わが国におけるスポーツ振興施策	日本におけるスポーツ振興施策の歴史の変遷				
3	諸外国におけるスポーツ振興施策	諸外国におけるスポーツ政策・施策の概観				
4	日本のスポーツ環境（スポーツ施設）	日本のスポーツ行政におけるスポーツ環境整備の状況				
5	地域スポーツクラブ(1)	総合型地域スポーツクラブとは クラブの役割と活動				
6	地域スポーツクラブ(2)	総合型地域スポーツクラブの運営と現状				
7	国の施策(1)子ども・青年期のスポーツ振興	子ども期・青年期のスポーツ活動とするスポーツの振興				
8	国の施策(2)中高年／高齢者とスポーツ	中高年齢者のスポーツ実施とするスポーツの振興				
9	国の施策(3)競技力向上・スポーツ選手のセカンドキャリア	競技力向上方策と選手のセカンドキャリア、デュアルキャリアの勧め				
10	みるスポーツの振興	みるスポーツの現状と意義				
11	支えるスポーツの振興	スポーツボランティアの現状と課題				
12	地域スポーツイベント	地域スポーツイベントの開催と意義				
13	スポーツと都市	スポーツイベントの誘致・開催と都市の関係				
14	プロスポーツと地域	プロスポーツの地域活動				
15	これからのスポーツ環境を考える	授業まとめ、子どものスポーツ環境整備				
教科書及び参考図書						
教科書：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本スポーツ協会 リファレンスブック						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：授業終了時に示す次回の授業内容に関する教科書の章を読む。 事後学習（週2時間）：テーマごとのトピックをネット検索し、概要、理解したこと、感想・意見をまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
毎時前回のワークシートを返却し、キーワードを確認する。						
成績評価の方法・基準						
毎時間の講義レポート 50%、レポート課題 50%						
関連科目						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ指導論 [Coaching Method]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	川井 明		NSM-S2026			
この授業に関係する資格						
公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、初級パラスポーツ指導員、スポーツインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
コミュニケーション・リーダーシップ・フォロワーシップ・プレゼンテーション・ファシリテーション・パラスポーツ・ボランティア精神						
授業の目的と概要						
前半は、競技上の成功者の例から、その要素・要因を探り、毎時間、理解度確認レポート。後半は、指導現場に有効なロジカルコミュニケーションの基礎を学習して実際のディベートに備える。さらに、指導現場でのタイムリーなトピックスを随時取り上げてその背景とともに理解していく。						
学習の到達目標						
成功したアスリートに関する指導法を理解したうえで、過去に受けた指導との比較から現状や個人に適した指導法を探ることができる。指導者としてのロジカルコミュニケーションを理解したうえで、有効・的確・シンプルな伝え方を習得することでユニバーサルな視点で指導することができる。指導現場でのトピックスの背景を理解し現代社会に即した指導をすることができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス他 コーチングとは	コーチングとは、コーチの定義、コーチングの目的、プレーヤーセンタードなコーチング				
2	コーチに求められる役割	コーチの果たすべき役割、安全なスポーツ環境の構築（予防）				○
3	コーチに求められる知識とスキル	コーチング文脈、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識				○
4	対他者力を磨こう	コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーション、ファシリテーション				○
5	対自己力を磨こう	コーチの学び、コーチのセルフマネジメント、さまざまな思考法や伝達				○
6	暴力・ハラスメントの根絶	暴力や暴言、ハラスメントの根絶のために				○
7	スポーツのインテグリティ	スポーツにおけるインテグリティの確保				○
8	スポーツの倫理	スポーツマンシップ、フェアプレーの精神、スポーツの価値				○
9	時代をリードするコーチング	ジェンダー、性的マイノリティ、女性コーチの活躍と女性の社会進出				○
10	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングの歴史、国内外のアンチ・ドーピング機構について				○
11	コーチング環境の特徴	ジュニア期のコーチングと留意点、性別や年齢区分から見たコーチングの留意点				○
12	ハイパフォーマンススポーツ①	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング				○
13	ハイパフォーマンススポーツ②	国内外のタレント（メダルポテンシャルアスリート）の発掘、選抜、育成				○
14	パラスポーツ	パラスポーツの現状と課題、パラスポーツ指導者の育成、ボランティア精神				○
15	まとめ	良い指導者の資質と役割等についてグループディスカッションから本科目をまとめる				○
教科書及び参考図書						
参考図書：日本スポーツ協会 Reference Book（公益財団法人日本スポーツ協会）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週2時間）：授業中の内容を復習すること。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の方法・基準						
理解度確認レポート 70% グループ活動の際のファシリテーションやリーダーシップ、フォロワーシップ等 20% 筆記試験 10%						
関連科目						
体育原理						
受講上の注意						
体育・スポーツに関する情報を、書籍や新聞・雑誌・インターネット等で自主的に学ぶ姿勢が求められる。また、それらの諸問題について自らの考えを文章化することや、グループやクラス全体に発信し共有できることが望ましい。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ医学 [Sport Medicine]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義	高橋 琴美・板橋 明		国	NSM-S2027		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター、中高老年期運動指導士、健康管理士一般指導員						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
ファーストエイド・内科的スポーツ障害・スポーツ外傷・障害						
授業の目的と概要						
スポーツは現代社会において、人々の健康を維持・向上する上で必要であるとの認識が高く、生活習慣病等の疾病対策にも応用されている。しかしその反面、スポーツ活動に伴う事故・傷害も存在する。この授業では安全で効果的な運動を指導するために、指導者として必要なスポーツ医学の基本的な知識を身につける。また、疾患・傷害だけではなく、対象者に合わせたスポーツ現場での対策について学ぶことを目的とする。						
学習の到達目標						
スポーツ指導者として必要なスポーツ医学の知識やいろいろな疾患に対する基礎知識を身につけ、説明することができる。対象者に合わせたスポーツ現場での対策について理解し、具体的に述べるができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス、スポーツと健康	健康の定義、ファーストエイド				
2	生活習慣病と運動	肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症、糖尿病、高血圧				
3	内科的スポーツ障害 1	突然死、運動中止の判定、熱中症、特殊環境下でのスポーツ障害				
4	内科的スポーツ障害 2	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー、貧血				
5	内科的スポーツ障害 3	スポーツ活動と疲労、オーバートレーニング症候群、スポーツによる精神障害				
6	メディカルチェックと健康管理	内科的・整形外科的メディカルチェックの目的、方法				
7	スポーツ傷害、上肢のスポーツ傷害	スポーツ傷害と発生要因、肩・肘・手のスポーツ外傷・障害				
8	下肢のスポーツ傷害	大腿部・膝・下腿部・足部のスポーツ外傷・障害				
9	体幹のスポーツ傷害、頭・頸部のスポーツ傷害	腰部のスポーツ外傷・障害、頭・頸部のスポーツ外傷・障害				
10	リハビリテーション	アスレティックリハビリテーション、トレーニング計画				
11	スポーツ選手の健康管理	スポーツ選手の健康管理、内科的障害と対策、外傷・障害と対策				
12	発育期とスポーツ	発育期の特徴、発育期のスポーツ傷害				
13	女性スポーツ医学	女性の身体の生理的周期、月経周期とパフォーマンス、月経異常				
14	中高老年者とスポーツ	中高老年期の身体と特徴、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）				
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
参考図書：やさしい学生トレーナーシリーズ 4 スポーツ医学（嵯峨野書院）、はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】（化学同人）、健康運動実践指導者養成テキスト、Reference Book（日本スポーツ協会） ※毎時間、プリントを用いて授業を行うため、各自でしっかりと管理すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：参考図書の該当ページを読んでおくこと。 事後学習（週 2 時間）：配布された資料等を見直しておくこと。また返却された小レポートも見直しておくこと。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間授業の最後に、授業内容について的小レポート（課題）を提出し、コメントを入れ返却する。また、授業開始時に前回の内容について的小テストを実施し、採点してコメントを入れ返却する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70% 小テスト 20% 小レポート（課題） 10%						
関連科目						
スポーツ医学実習						
受講上の注意						
毎時間資料を配付するため、各自でしっかりと管理すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	地域貢献演習 [Seminar for Contribution to Community]		1			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
演習 アクティブ・ラーニング	本学 専任教員		NSM-S9029			
この授業に関する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
地域						
授業の目的と概要						
武蔵丘短期大学が持つ地域貢献のシード（種）を活かし、地域のニーズを解決し、地域貢献することを通じて自らの資質を高めていく科目である。事前指導を受けたのちに様々な地域貢献を体験し、事後指導を通して自らの社会貢献の能力を伸ばしていく。						
学習の到達目標						
地域貢献を体験し、体験の中から自分の可能性に気づきさらなる、地域貢献、ひいては社会貢献に資する能力を身につけることを目標としている。本学あるいは教員が地域に貢献する事業を体験し、自分の能力に気づき、さらに能力を伸ばし、社会貢献する。。						
回	授業内容					AL
1 ~ 8	<p>この科目は、開催時期が地域貢献事業に合わせて、その前後を含めて開講される。単位取得には合計8回の地域ボランティア活動への参加が必要となる。ボランティアの内容は同一の活動でも、複数の活動でも対象とする。</p> <p>原則として一カ月前に授業の内容が掲示等により公開され、その指示に従うことにより履修登録となる。地域貢献の内容により、所属専攻や、専門性によって受講対象者を制限することもある。</p> <p>事前指導、事後指導が1回別に行われる。</p> <p>異なる地域貢献事業に参加した場合、修得単位数が加算される。</p> <p>開講授業例 地域の健康・体力測定の実施運営、地域イベント等の運営手伝い（吉見祭り、日本スリーデーマーチ等）、生涯スポーツや健康づくり教室、子育て支援事業、保育園児の栄養や運動遊び指導</p>					○
教科書及び参考図書						
<p>担当教員から、必要に応じて資料が配布される。</p> <p>参考：本学ホームページ&gt; 学生主体の地域貢献 (<a href="http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html">http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html</a>)</p>						
準備学習・事後学習						
<p>原則として、事前指導1回、地域貢献体験8回、事後指導1回の授業形態になる。</p> <p>体調を整え、体験する事業をよく理解しておくこと。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
原則として、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
活動状況 80% 面接またはレポート 20%						
関連科目						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	解剖生理学 [Anatomy and Physiology]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	長島 洋介・板橋 明		関	N-S2014	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、健康運動実践指導者、GFI					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
細胞小器官・消化器系・循環器系・腎・尿路系・内分泌系					
授業の目的と概要					
細胞、器官、各組織およびホルモンの働きについて深く理解することを目的とする。					
学習の到達目標					
人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	細胞・組織・器官	細胞小器官、生体膜について			
2	消化器系 1 咀嚼 嚥下 消化管運動のしくみ	消化器の構成、咀嚼、嚥下のしくみについて			
3	消化器系 2 糞便形成 消化・吸収	消化管の運動や糞便形成について			
4	血液・造血器・リンパ系 1 造血器細胞 骨髄	幹細胞や各血球の分化と成熟について			
5	血液・造血器・リンパ系 2 赤血球・血液凝固	赤血球や血液凝固について			
6	循環器系 1 心臓の構造と働き	心臓の構造、心電図および心臓周期について			
7	循環器系 2 血管、血圧、循環系	血管の仕組み、血圧や血圧との関連要因について			
8	呼吸器系 気道 肺の構造と働き 呼吸機能	肺の構造、胸郭と呼吸運動およびガス交換に関して			
9	腎・尿路系 1 腎臓の構成と働き	尿の組成、腎臓の基本単位について			
10	腎・尿路系 2 体夜の働き、尿生成	水の出納と浸透圧の調節について			
11	生殖系 生殖器の構造と働き 女性の性周期	生殖器の構造、女性の性周期、妊娠と分娩について			
12	骨格系 骨の構造と働き 骨の成長と老化	骨組織の基本構成、骨の成長、骨形成と骨吸収について			
13	筋肉系と運動機能 筋肉の種類 筋繊維の種類	骨格筋の構造と、筋収縮に関して			
14	内分泌系 1 内分泌系の構成とホルモンの働き	ホルモンの種類と役割について			
15	内分泌系 2 ホルモン分泌の調整と	視床下部ホルモン、下垂体ホルモンの役割について			
教科書及び参考図書					
教科書：解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版 羊土社					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：教科書「解剖生理学」を読み、キーワードについてまとめておくこと。 事後学習（週2時間）：授業動画を Google Classroom にアップする、学習内容を復習すること。 WEB 演習問題を行えるようにするので、問題を解き理解を深めておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%で評価する。					
関連科目					
病態科学、臨床栄養学、応用栄養学、スポーツ栄養学実習					
受講上の注意					
この授業は、今後学習する授業の基礎となる科目である。そのため、予習と復習は必ず行うこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養学総論 [Nutritional Science]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S2015	
この授業に関する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
エネルギー・栄養素・代謝・過剰症・欠乏症					
授業の目的と概要					
栄養の意義を説明できる。ヒトは栄養素をどのように消化・吸収しているのか、また吸収した栄養素はどうなるのか、代謝調節も含め身体全体で考え、健康の保持増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、説明できることを目的とする。					
学習の到達目標					
栄養の意義を理解し、各栄養素の代謝および生理的役割を理解し、栄養素と健康に関して説明できることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	栄養学の意義と歴史	栄養と健康の疾病の関係を学ぶ。栄養学の歴史			
2	栄養素の消化・吸収	各栄養素の消化と吸収の仕組み			
3	炭水化物の栄養	糖質の種類と分類・糖質の体内代謝			
4	食物繊維の働き	食物繊維の種類と働き			
5	たんぱく質の栄養	たんぱく質の構造と体内代謝、アミノ酸の種類、タンパク質の栄養価			
6	脂質の栄養	脂質の構造と体内代謝、脂肪酸の種類、コレステロールの特徴			
7	ビタミンの栄養①脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミンの消化吸収・機能、過剰症・欠乏症について			
8	ビタミンの栄養②水溶性ビタミン	水溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症について			
9	ミネラルの栄養①多量ミネラル	多量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症について			
10	ミネラルの栄養②微量ミネラル	微量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症について			
11	水のはたらき	水の出納、水分排泄・欠乏・過剰について			
12	エネルギー代謝	エネルギー代謝、エネルギーの測定方法			
13	栄養の情報収集法①	栄養学の情報収集方法について。栄養学の科学的視点での情報収集方法			○
14	栄養の情報収集法②情報収集の選択の実践	栄養学の情報収集の実践・情報の選択方法			○
15	まとめ・振り返り	栄養素・体内代謝・はたらき			
教科書及び参考図書					
教科書：栄養科学シリーズ 新・栄養学総論 第2版 講談社 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020年版					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。関係ある食べ物を調べておくこと。 事後学習（週2時間）：毎回、授業の始めに前回の授業内容の復習テストを行うので、要点をまとめ、復習しておくこと。栄養成分量を確認すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中に前回の授業の復習テストの解説を行う。質問は授業中もしくは Google Classroom で答える。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験で70%、確認テストで20%、提出物などで10%					
関連科目					
栄養学各論					
受講上の注意					
教科書をしっかり予習しておくこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食品学 [Food Science]		2		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
講義	玉木 雅子		N-S2016		
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食品の3つの機能・食品成分・食品の変化・食品の表示					
授業の目的と概要					
<p>健康な食生活を送るためには、食品に関する正しい知識を持つことが大切です。食品学は、今後、栄養と食品について科学的に学ぶうえでの基礎を修得することを目的とし、食品のもつ働き、食品成分の性質と食品における存在、食品成分とおいしさとの関係、調理・加工や保存中における食品成分の変化、食品表示の制度について学びます。</p>					
学習の到達目標					
<p>食品のもつ3つの働きを説明できる。食品成分を分類してその性質を理解し、多く含まれる食品をあげることができる。食品の調理・加工、保存中に起こる成分変を知っている。食品の表示制度の概要を理解している。保健機能食品や特別用途食品の種類を知り、区別することができる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	人間と食品	食文化と食生活、食料と環境問題			
2	食品の一次機能、炭水化物①	食品の1次機能、炭水化物の種類と食品における存在、単糖類の種類と食品における存在			
3	炭水化物②	オリゴ糖・多糖類の種類と性質、食品における存在			
4	脂質①	脂肪酸の種類と性質、食品における存在			
5	脂質②	脂質の種類と性質、食品における存在			
6	たんぱく質①	アミノ酸の種類と性質、ペプチド・たんぱく質の構造と性質、たんぱく質の種類と食品における存在			
7	たんぱく質②	たんぱく質の変性、たんぱく質の栄養価			
8	ビタミン①	脂溶性ビタミンの種類と性質、食品における存在			
9	ビタミン② ミネラル	水溶性ビタミンの種類と性質、食品における存在、調理加工による変化 ミネラルの種類と性質、食品における存在			
10	水	水の特性、食品中の水、水分活性と水分量			
11	食品の二次機能	色素成分の種類と性質、食品における存在、基本味、呈味成分、味の相互作用、香り成分、官能検査			
12	食品成分の変化	脂質の酸化、褐変、酵素による変化			
13	食品の表示と規格基準	食品表示制度、食品の表示方法、食品の規格基準			
14	特別用途食品、保健機能食品	特定保健用食品、特別用途食品、機能性表示食品、いわゆる健康食品			
15	食品の容器・包装の規格基準と表示・まとめ	食品の容器包装、この授業のまとめ			
教科書及び参考図書					
<p>教科書：栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康 食品成分と機能を学ぶ 改訂第2版 水品善之 菊崎泰枝 小西洋太郎, 羊土社</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週2時間）：予習用資料を参考にして教科書を読み、必要な個所にマークをしてください。 事後学習（週2時間）：授業で扱った部分について、教科書を繰り返し読んで下さい。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業終了後や E-mail、Google Classroom で適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
受講上の注意					
<p>使用する教科書は管理栄養士を目指す学生さんにも対応した内容です。授業では栄養士に必要とされる知識を中心に取扱うため、予習用資料を参考にして予習をしてください。</p>					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	生化学 [Biochemistry]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	岡崎 英規			N-S2030	
この授業に関係する資格					
栄養士免許					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
恒常性・細胞・代謝					
授業の目的と概要					
全ての生物は細胞から成り立ち、その細胞の中では、さまざまな化学反応 (代謝) が行われている。この数々の化学反応が集約された結果、私たちは「生きて」いる。生化学では、特に三大栄養素の化学反応 (代謝) について理解し、説明できるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
正常な人体の仕組み【代謝】について、遺伝子レベル、細胞レベルで説明できる。 摂った食べ物は体内でどうなるのか、絶えず体内で起こっている様々な物質の合成や分解、恒常性の維持の仕組みについて説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	細胞小器官	細胞の基本構造と機能 (細胞小器官の特徴とはたらき)			
2	生体膜、膜輸送	生体膜の基本構造とその機能、受動輸送・能動輸送・膜動輸送			
3	ATP、体内の化学反応	生体エネルギー (ATP)、異化・同化、酸化還元反応			
4	糖質の特徴	糖質の構造、種類および性質 (単糖類、二糖類、多糖類、誘導糖)			
5	糖質の代謝 (エネルギー生成の仕組み)	グルコース (ブドウ糖) の代謝 (解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)			
6	糖質の代謝 (エネルギー生成以外)	糖質代謝 (グリコーゲン合成・分解、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路)			
7	脂質の特徴	脂質の化学的特徴 (構造、種類および性質)			
8	脂質の代謝	中性脂肪と脂肪酸の合成・分解、イコサノイド、コレステロール合成、ケトン体			
9	たんぱく質の特徴	たんぱく質・アミノ酸の化学的特徴 (構造、種類および性質)			
10	たんぱく質の代謝	アミノ基転移反応、尿素回路、アミノ酸から合成される情報伝達物質			
11	三大栄養素の代謝まとめ	様々な代謝経路のつながり、コリ回路、グルコース-アラニン回路			
12	酵素の特徴	酵素の種類、働き、特徴、補助因子 (補酵素)、酵素の阻害			
13	核酸、たんぱく質合成	核酸の化学的特徴と代謝、遺伝情報からたんぱく質がつくられる仕組み			
14	ホルモンによる恒常性維持	ホルモンの特徴と作用機構、血液中カルシウムイオン濃度の調節、血糖の調節			
15	免疫の仕組み	免疫細胞、自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫、抗体、アレルギー			
教科書及び参考図書					
教科書: <はじめて学ぶ> 健康・栄養系教科書シリーズ2 生化学 化学同人 参考図書: イラスト生化学入門 東京教学社					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週2時間) : シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習 (週2時間) : 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで50%以上正解を目標とする。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストを返却し、正答及び解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 90% 小テスト 10%					
関連科目					
栄養学、解剖生理学、食品学、病態科学、臨床栄養学					
受講上の注意					
初めて聞く言葉が多いと思われるので、事前・事後学習をしっかりと行うことで理解を深めて欲しい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養学各論 [Nutrition in Life Stage]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	長島 洋介		関	N-S3031	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食事摂取基準・栄養アセスメント・栄養ケア・ライフステージ					
授業の目的と概要					
栄養アセスメント、栄養ケア、食事摂取基準を正しく理解し、ライフステージに応じた栄養管理に関する正しい理解を目的に学習する。					
学習の到達目標					
日本人の食事摂取基準の基礎的な理解、基準値を適切に説明できること。 ライフステージに応じた栄養アセスメント、栄養ケアに関する正しい知識を習得すること					
回	テーマ	授業内容			AL
1	栄養ケア・マネジメントの定義やプロセス 栄養スクリーニング	栄養ケア・マネジメントについて			
2	栄養アセスメント 栄養ケア・マネジメントの評価	栄養アセスメントの種類や手法について			
3	食事摂取基準① 食事摂取基準活用のための理論と方法	食事摂取基準の理論について			
4	食事摂取基準② 基準値の意味と活用方法	推定必要量、推奨量、目安量、目標量などについて			
5	食事摂取基準③ 各栄養素の基準値	エネルギー・栄養素別の基準値について			
6	成長、発達、加齢に機能変化	成長、発達について			
7	妊娠期 生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア	妊娠の成立、胎児付属物について			
8	授乳期 生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア	母乳や授乳方法について			
9	新生児期・乳児期① 生理的特徴	新生児期・乳児期の発育や離乳食について			
10	新生児期・乳児期② 栄養アセスメントと栄養ケア	低出生体重児や発育の評価方法について			
11	成長期① 幼児期の生理的特徴 栄養アセスメント・栄養ケア	幼児期の発達の特徴について			
12	成長期② 学童期・思春期の生理的特徴	第二性徴や性差、学校給食の役割について			
13	成人期 生理的特徴 栄養アセスメント・栄養ケア	生活習慣病やメタボリックシンドローム予防について			
14	高齢期① 高齢期の生理的特徴	老化の特徴について			
15	高齢期② 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア	サルコペニア・フレイルについて			
教科書及び参考図書					
教科書：「応用栄養学」羊土社 参考図書：「日本人の食事摂取基準 2020 年度版」第一出版					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：教科書「応用栄養学」を読んで、キーワードについてまとめておくこと。 事後学習（週 2 時間）：授業動画を Google Classroom にアップするので、学習内容を復習すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%として評価する。					
関連科目					
解剖生理学、栄養学総論、スポーツ栄養学実習、栄養指導論					
受講上の注意					
本授業は、栄養管理の基礎となる科目である。また、解剖生理学や栄養学総論で学習した内容を基礎としている。そのため、この授業には、それらの科目を十分に理解した上で臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	病態科学 [Pathologic Condition Science]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	岩井 秀明			N-S3032	
この授業に係る資格					
栄養士免許、健康管理士一般指導員					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
疾患の概念・疾患の成因・病態・予防・疾患と栄養・食事療法					
授業の目的と概要					
解剖生理学、生化学で学んだ正常な人体の構造と機能を基礎に、疾患の概要、成因・予防を学び、臨床栄養学につなげる。生涯健康には生活環境と共に生活習慣が重要であることを学ぶ。変容する社会とグローバル社会の進展における多様な疾病問題に対応し、併せて医学的基礎教養を広げる。					
学習の到達目標					
病態科学の学びにより各種疾患の概要を知り、成因を理解し、予防できる。疾患と栄養との関わりを理解し、食事療法につなげられる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	はじめに（序章、第1章、第2章）	人類感染症との闘い、日本人の疾病・死因、疾病の成立、診断・治療の概要			
2	感染症（第15章）	感染（経路）、新興・再興感染症、感染症法類型、性感染症、エイズ、抗生物質、耐性菌			
3	免疫・アレルギー疾患（第14章）	炎症、免疫、予防接種、ワクチン、食物アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全			
4	悪性新生物（がん）	がん研究の歴史、成因、各種がんの特徴			
5	動脈硬化症	動脈硬化、粥状硬化（アテローム硬化）			
6	循環器系疾患（第6章5～7）	狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓、心不全			
7	脳血管障害、神経疾患（第9章） 高血圧症（第6章）	脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、認知症、パーキンソン病 血圧、血圧値の分類、高血圧症			
8	メタボリックシンドローム（第4章1.）	肥満、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）、概念の根拠、成因			
9	糖尿病（第4章2.）	概念、病態、分類、症状、慢性合併症、診断、治療（食事・運動療法）			
10	脂質異常症（第4章3.）	病態、脂質、リポたんぱく、診断、食事療法			
11	高尿酸血症（痛風）（4章4.） 先天性代謝異常症（4章5.）	病態、プリン体、分類、痛風、食事療法 先天性代謝異常、糖質代謝異常、先天性アミノ酸代謝異常、種類と病態			
12	消化器系疾患（第5章）	胃・十二指腸潰瘍、クローン病、肝炎、肝硬変、脂肪肝、NASH、肝炎			
13	腎・尿路系疾患（第7章）	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病（CKD）、透析			
14	呼吸器系疾患（第10章） 運動器系疾患（第11章） 内分泌系疾患（第8章）	呼吸器系疾患、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD） 運動器系疾患、骨粗しょう症、サルコペニア、ロコモ、フレイルテイ 内分泌系疾患			
15	血液系疾患（第13章）	血液細胞、貧血、種類、血友病、白血病、悪性リンパ腫			
教科書及び参考図書					
教科書：田中 明、加藤 昌彦編 疾病の成り立ち：臨床医学（第5版）（建帛社） 参考図書等：その他の参考資料は適宜紹介し、必要に応じてプリントを渡す。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週2時間）：教員作成の資料未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
次回の講義冒頭時に振り返り課題、質問、感想についてフィードバックし分かち合う。					
成績評価の方法・基準					
期末試験（60%）、毎回の講義振り返り課題提出（必須）及びその内容（40%）を統合して判断・評価する。 授業中の他教科の内職、スマホゲーム、課題のスマホ丸写し等は減点の対象。					
関連科目					
臨床栄養学					
受講上の注意					
1週間毎の準備学習、講義、事後学習を一步一步怠りなく頑張ってください。15回積み重ねると大きく実るでしょう。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	臨床栄養学 [Clinical Nutrition]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	木元 泰子			N-S3033	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
病態生理・疾患・栄養管理					
授業の目的と概要					
臨床栄養学の概念及び意義を理解し、各種疾患の病態生理と栄養・食事療法に関する基礎的知識を習得し、各種病態に応じた食事管理を中心とした栄養管理を実践するための知識や技術を学ぶ。					
学習の到達目標					
さまざまな疾病、病態について理解し、それに応じた適切な食事管理を中心とした栄養管理の基礎的な知識や技術を身につけ、実践に活用できるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療と臨床栄養			
2	栄養アセスメント	身体測定、栄養スクリーニング、栄養アセスメント			
3	栄養補給法	各種栄養補給法、食物と薬剤			
4	消化器系疾患①	胃疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍）			
5	消化器系疾患②	腸疾患（下痢、便秘、炎症性腸疾患）			
6	消化器系疾患③	肝疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝） 膵疾患（膵炎）			
7	代謝・内分泌系疾患	肥満症、るいそ、脂質異常症、糖尿病			
8	循環器系疾患	高血圧、心疾患（虚血性心疾患、心不全）			
9	腎・尿路系疾患	慢性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、透析			
10	アレルギー疾患、血液系疾患	食物アレルギー、貧血			
11	運動器系（筋・骨格）疾患	骨粗しょう症、くる病、サルコペニア			
12	心身症、術前術後	神経性痩せ症、神経性、過食症、手術と術後後遺症			
13	小児疾患、妊産婦・授乳婦疾患	先天性代謝異常、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病			
14	高齢者疾患	加齢にともなう機能低下への栄養ケア			
15	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント（医歯薬出版）					
参考図書：糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂）腎臓病食品交換表（医歯薬出版）					
日本人のための食事摂取基準（2020年版） 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社）					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：新聞記事等を読み、臨床栄養に関する最新の情報を収集する。					
事後学習（週2時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業時間内に講評、解説する時間を設ける。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 小テスト 30%					
関連科目					
臨床栄養学実習、病態科学、栄養学総論、栄養学各論、生化学、解剖生理学、公衆栄養学					
受講上の注意					
欠席した授業は、欠席課題を提出すること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	公衆栄養学 [Public Health Nutrition]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	木元 泰子			N-S3034	
この授業に関する資格					
栄養士免許					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
健幸・地域・公衆栄養マネジメント					
授業の目的と概要					
健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。保健・医療・福祉・介護システムの中、あらゆる人に適切なサービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントに必要な理論と方法を理解する。					
学習の到達目標					
①地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く様々な要因について情報収集し、エビデンスに基づき判断・評価できる。					
②地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く様々な要因について論理的に考えることができる。					
③人々の健幸を守るために主体的・継続的に学習ができるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	公衆栄養学について	公衆栄養の概念			
2	公衆栄養学活動について①	公衆栄養活動の歴史			
3	公衆栄養学活動について②	生態系保全、少子高齢化社会、疾病予防、ヘルスプロモーション			
4	健康・栄養問題の現状と課題①	食事の変化			
5	健康・栄養問題の現状と課題②	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題			
6	栄養政策①	公衆栄養活動 関連法規 地域保健法、健康増進法			
7	栄養政策②	公衆栄養関連法規、食育基本法、栄養士法、国民健康・栄養調査			
8	栄養政策③	実施に関する指針について			
9	栄養政策④	国の健康増進基本方針と地方計画			
10	栄養政策⑤	諸外国の健康・栄養政策			
11	栄養疫学	栄養疫学概論、食事調査、食事摂取基準			
12	公衆栄養マネジメント①	問題抽出、優先課題、地域目標、資源、評価の種類			
13	公衆栄養マネジメント②	演習 食環境づくり：適切な食情報に関する企画考案			
14	公衆栄養プログラムの展開	具体的公衆栄養プログラム			
15	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：イラスト 公衆栄養学 第6版 東京教学社					
参考図書：日本人の食事摂取基準（2020年版）、国民健康・栄養調査結果、栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社）					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：新聞記事等を読み、栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。					
事後学習（週2時間）：ワークシート、確認テストの内容を復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
リアクションペーパーを通してフィードバックする。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 60%、課題提出 25%、リアクションペーパー提出 15% 全体で 60%以上を合格とする。					
関連科目					
公衆衛生学、栄養指導論、応用栄養学、臨床栄養学					
受講上の注意					
教科書の予習復習をしっかりと行くと同時に、日頃からニュースなど社会の動きに興味をもつこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	応用食品学 [Applied Food Science]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	玉木 雅子			N-S3035	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食品の分類・植物性食品・動物性食品・加工食品					
授業の目的と概要					
日本食品標準成分表に基づき食品を分類し、各食品の特徴や加工について理解する。食品加工の意義や方法についても学ぶ。					
学習の到達目標					
日本食品標準成分表における食品の分類や収載成分を知っている。各食品の特徴を理解し、加工食品をあげることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	食品の分類と食品成分表	分類の種類、日本食品標準成分表			
2	食品の分類と成分 1 穀類	穀類の種類と性質、穀類の加工と利用			
3	食品の分類と成分 2 いも類	いも類の種類と性質、いも類の加工と利用、			
4	食品の分類と成分 3 甘味料	甘味料の特徴と性質、天然甘味料、合成甘味料			
5	食品の分類と成分 4 豆類	豆類の種類と性質、豆類の加工品と利用			
6	食品の分類と成分 5 種実類、野菜類	種実類の種類と性質、野菜類の種類と性質			
7	食品の分類と成分 6 果実類、きのこ類、藻類	果実類の種類と性質、きのこ類の種類と性質、藻類の種類と性質			
8	食品の分類と成分 7 肉類	肉類の成分、食肉成分の変化、食肉加工品			
9	食品の分類と成分 8 魚介類	魚介類の食品学的特徴、魚介類の成分、死後変化と鮮度、魚肉加工品			
10	食品の分類と成分 9 乳類	乳類の種類と性質、乳類の成分とその変化、飲用乳の種類と分類、乳製品			
11	食品の分類と成分 10 卵類	卵の構造、卵類の成分、卵の調理加工特性			
12	食品の分類と成分 11 その他の食品	油脂類、調味料、香辛料、嗜好飲料類、			
13	加工食品	食品加工の意義・目的、食品加工法、農産加工品、水産加工品、冷凍食品、インスタント食品、レトルトパウチ食品			
14	微生物利用食品	微生物利用食品（発酵食品）の分類と性質、アルコール飲料、発酵調味料			
15	まとめ	この授業のまとめ			
教科書及び参考図書					
教科書：栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康 食品の分類と特性、加工を学ぶ 改訂第2版 柏野新市 水品善之 小西洋太郎, 羊土社					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：予習用資料を参考にして教科書を読み、必要な個所にマークすること。 事後学習（週2時間）：授業で扱った部分について、教科書を繰り返し読んでおくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業終了後やE-mail、Google Classroomで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
食品学、食品学実験、調理学、調理学実習、食品加工実習					
受講上の注意					
使用する教科書は管理栄養士を目指す学生さんにも対応した内容です。授業では栄養士に必要とされる知識を中心に取扱うため、予習用資料を参考にして予習をしてください。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食品衛生学 [Food Hygiene]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	岡崎 英規			N-S2036	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
微生物・食中毒・食品添加物・HACCP・食品衛生行政					
授業の目的と概要					
食品は人の生命を維持し、健康の保持、増進に欠かせないものであるが、時には健康障害を引き起こす。生命を脅かす原因となることもある。飲食に関わる有害なものや国の施策について理解し、食中毒を起こさない、または被害に遭わない様に行動できることを目的とする。					
学習の到達目標					
食中毒予防のため、食品の取り扱いだけでなく食に関わる全ての環境に対して衛生的な配慮ができる。 食品中の有害物質について、正しく説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	食品衛生、食品衛生行政の概要、リスク分析	食品衛生法、食品安全基本法、ハザード、リスク			
2	微生物について、生育条件、汚染指標細菌	微生物の基礎			
3	腐敗とその判定、食品の変質防止方法	食品の変質、変質の防止			
4	食中毒	食中毒の定義、発生状況、年内変動の周期性			
5	食中毒菌の特徴と予防方法 1	サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、ウェルシュ菌			
6	食中毒菌の特徴と予防方法 2	セレウス菌、カンピロバクター、ブドウ球菌、ボツリヌス菌			
7	食中毒菌の特徴と予防方法 3 ・経口感染症 ・人畜共通感染症	NAG ビブリオ、リステリア、エルシニア ・コレラ、細菌性赤痢、チフス・炭疽、ブルセラ、プリオン			
8	ノロウイルスの特徴と予防方法、吐物の処理方法	ウイルス性食中毒			
9	寄生虫症の特徴と予防方法	アニサキス、回虫、肺・肝吸虫、クダア、条虫類、サルコシステス			
10	動物性自然毒、植物性自然毒食中毒	フグ毒やシガテラなど魚介類の毒、毒キノコ、ジャガイモの毒、毒草			
11	カビ毒、有害化学物質の特徴と過去の事例	マイコトキシン、有害元素、食品の放射性物質			
12	食品成分の変化による有害物質	ヒスタミン中毒、フェオフォルバイド、有害アミン、ベンゾピレン			
13	食品添加物	食品衛生法の分類、食品表示法による表示、用途、物質			
14	食品添加物の安全性と毒性試験、毒性の指標	食品添加物の事故例、一日摂取許容量（ADI）、使用基準、摂取量調査			
15	食品衛生管理、残留農薬、動物用医薬品、まとめ	HACCP、一般衛生管理事項、ポジティブリスト制			
教科書及び参考図書					
教科書：カレント食べ物と健康 3 改訂 食品衛生学 建帛社 参考図書：食中毒予防必携 第3版 日本食品衛生協会					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 2 時間）：授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで 50%以上正解を目標とする。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
小テストを返却し、正答及び解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 90% 授業内小テスト 10%					
関連科目					
食品衛生学実験、給食経営管理論、調理学、食品加工実習					
受講上の注意					
事前・事後学習をしっかり行い、理解を深めて欲しい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	公衆衛生学 [Public Health]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	岡崎 英規			N-S2037	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
環境と健康、保健統計、疫学、衛生行政					
授業の目的と概要					
公衆衛生学は、人々の疾病予防、健康の保持増進をはかるため、国や自治体など組織的な取り組みにより推進していく学問である。衛生行政、保健統計について知り、日本における公衆衛生上の問題を認識し、科学的根拠に基づく対策について説明できるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
生態系の中の人間について考え、社会や環境の変化が健康に与える影響を説明できる。 疫学の基礎知識を身につけ、科学的根拠（エビデンス）に基づく保健対策について説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	健康とは、公衆衛生学概要、予防医学	健康・公衆衛生の定義、歴史、予防医学、アプローチ			
2	環境と健康、ダイオキシン類	環境基本法、地球環境問題、大気・水の環境基準、ダイオキシン類			
3	公害の原因、身近な環境衛生	日本の公害、環境衛生（騒音、温熱、放射線、上下水道、廃棄物）			
4	保健統計の概要（人口静態統計）	国勢調査、年齢3区分、人口ピラミッド、人口予測			
5	保健統計の概要（人口動態統計）	死亡の状況、婚姻・離婚の状況			
6	生命表、傷病統計	生命表、平均寿命、健康寿命、患者調査、国民生活基礎調査			
7	疫学の概念と指標（疾病頻度、曝露効果測定）	疫学、相対危険、寄与危険、オッズ比			
8	疫学の方法	記述・生態学・症例対照・コホート・介入研究、バイアスと交絡			
9	スクリーニング、根拠に基づく保健対策、根拠の質	スクリーニング、カットオフポイント、系統的レビュー、メタアナリシス			
10	主要疾患の状況とその原因・対策	悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、たばこ対策、飲酒行動、歯科保健			
11	感染症対策、精神保健、外因死の現状	感染症法、結核対策、予防接種、精神保健福祉法、自殺対策、外因死			
12	母子保健統計、母子保健活動	母子保健に関する統計資料の現状、母子保健の目的や活動			
13	産業保健、労働衛生、労働者を守る仕組み	労働安全衛生法、3管理、職業病、作業関連疾患、労働災害			
14	学校保健	学校保健の目的や活動、児童生徒の健康、学校感染症			
15	国際保健、保健所と保健センター、まとめ	国際保健の意義、機関、活動・保健所と保健センターの役割			
教科書及び参考図書					
教科書：公衆衛生学 2024/2025 同文書院 参考図書：国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週2時間）：授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで50%以上正解を目標とする。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
小テストを返却し、正答及び解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 90% 授業内小テスト 10%					
関連科目					
社会福祉概論、健康管理論、公衆栄養学					
受講上の注意					
事前・事後学習をしっかり行い、理解を深めて欲しい。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養指導論 1 [Nutrition Education 1]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	小河原 佳子			N-S2038	
この授業に係る資格					
栄養士免許					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食行動、マネジメント、栄養教育計画、 授業の目的と概要					
栄養指導の基本的役割を知り、指導の意義を理解し、栄養の指導に必要な基礎知識を系統的に学ぶ。栄養マネジメントに必要なアセスメントの方法・分析、企画や指導方法、評価方法を理解し、身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
栄養の指導の目的と意義、栄養マネジメントを理解し、栄養アセスメント方法、栄養指導計画立案、評価方法を説明できることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	栄養教育とは	栄養士の使命と役割、栄養教育の時代の変遷			
2	栄養関連法規	栄養政策の取り組み、食生活の問題、栄養関連法規			
3	食事摂取基準とは	食事摂取基準 2020 年の概論、指標について			
4	食事摂取基準の活用	各種栄養素の摂取基準、食事摂取基準の活用法			
5	栄養の指導のための行動科学について	栄養の指導のための行動科学、行動科学的アプローチについて			
6	栄養の指導のためのカウンセリングについて	カウンセリングの基本と技法を用いた栄養の指導について			
7	行動変容技法について	栄養教育で使われる行動変容技法について			
8	栄養教育とマネジメントサイクル	栄養教育とマネジメントサイクル ( PDCA サイクル ) の概要			
9	栄養アセスメントとは	栄養アセスメント分析方法・情報収集について			
10	栄養指導計画の立案について	栄養指導計画の立案、目標設定について			
11	栄養教育計画書について	カリキュラム、学習指導案について学ぶ			
12	栄養教育の実施	行動変容モデルの選択と活用した栄養教育、媒体について			
13	学習方法について	個別指導・集団指導・グループ学習・一斉学習など学習方法について			
14	栄養教育の評価	栄養教育の評価内容と意義、評価方法の種類について			
15	まとめ	栄養教育の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「八訂 食品成分表 2024」女子栄養大学出版部					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間)：指定している教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 2 時間)：毎回授業の始めに、前回の授業内容の振り返りテストを行うので、復習しておくこと。Google Classroom から出題する課題をおこなうこと					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、試験後に振り返りテストの解説を行う。授業内や Google Classroom において指導する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70%と、小テスト 20%、提出物 (Google Classroom の課題なども含む) 10%					
関連科目					
栄養指導論 2、栄養指導論実習					
受講上の注意					
予習復習をしっかりとしておくこと					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	給食経営管理論 [Institutional Food Service Management]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	三ツ目 彩菜			N-S2039	
この授業に関する資格					
栄養士免許証					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
給食管理・栄養管理・衛生管理					
授業の目的と概要					
特定給食施設等における給食運営に必要な専門知識を学び、給食管理、栄養管理、衛生管理の方法について説明できる。					
学習の到達目標					
1. 給食管理の目的と方法、給食業務に関連する法規について説明できる。					
2. 栄養管理の意義と具体的方法について説明できる。					
3. HACCP システムと大量調理衛生管理マニュアルに基づいた、衛生管理・食中毒の防止方法について説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	給食の定義・目的	特定給食施設、健康増進法			
2	給食施設と栄養士の仕事	委託給食会社、栄養士業務			
3	経営管理の概念	給食管理の意義、マーケティング			
4	品質管理、会計・原価管理	給食品質の標準化・評価・改善、経営分析、原価計算			
5	栄養・食事管理 ①	栄養・食事管理の意義と目的			
6	栄養・食事管理 ②	栄養・食事のアセスメント 食事計画の実施・評価・改善			
7	食材料管理	食材料の発注計画、在庫管理、購入価格の分析			
8	生産管理	生産計画（調理工程、作業工程）			
9	安全・衛生管理 ①	衛生管理の意義と目的、HACCP システム			
10	安全・衛生管理 ②	大量調理衛生管理マニュアル			
11	施設・設備管理	食中毒・感染症、危機管理対策			
12	人事・事務管理	給食従事者の教育・評価、給食部門における事務処理			
13	各種給食施設の特徴 ①	医療施設、高齢者・福祉施設			
14	各種給食施設の特徴 ②	児童・障がい者施設			
15	各種給食施設の特徴 ③	学校、産業給食			
教科書及び参考図書					
教科書：「給食経営管理論」第一出版					
参考図書：「八訂 食品成分表 2024」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：教科書・参考図書を用いて、授業範囲の予習を行うこと。					
事後学習（週 2 時間）：教科書・参考図書・配布資料を用いて、授業範囲の復習を行うこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
確認テストの解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
給食経営実習・給食管理実習 1・2・3・栄養指導論・栄養学各論・食品衛生学					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	調理学 [Cookery Science]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	小板 由美子			N-S2040	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食文化・調理操作・食品の調理特性					
授業の目的と概要					
食品から料理へ作り上げていく過程を中心に、食品の調理上での変化、調理と衛生、日本とその他の国の食文化、献立の立て方・考え方、調理操作方法（新調理機器を含む）、人間と嗜好（おいしさの科学）などについて理解することを目的とする。					
学習の到達目標					
調理の目的（衛生的に安全で、栄養効率を高め、嗜好性を向上させ、食文化を理解する）を前提に人間が食物を摂取する最終段階としての調理方法とその体系を関連づけて理解し、調理操作に活かすことができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	人間と食べ物	食文化と歴史の変遷			
2	人間と食べ物	食生活と健康			
3	人間と食べ物	食料と環境問題			
4	美味論①	食物のおいしさとその要因			
5	美味論②	おいしさの評価法：官能評価			
6	調理システム①	調理操作の意義と調理操作：非加熱調理操作、加熱調理操作			
7	調理システム②	調理操作の意義と調理操作：真空低温調理、クックチルシステム			
8	調理システム③	調理システム（厨房設備）及び調理機器			
9	食材の調理機能①	調理機能論、植物性食品の調理機能：穀類/米・小麦他			
10	食材の調理機能②	植物性食品の調理機能：豆類、イモ類			
11	食材の調理機能③	植物性食品の調理機能：野菜類、果実類			
12	食材の調理機能④	動物性食品の調理機能：畜肉類			
13	食材の調理機能⑤	動物性食品の調理機能：魚介類、卵			
14	食材の調理機能⑥	動物性食品の調理機能：乳類およびその加工品			
15	食材の調理機能⑦	抽出性食品、調味料の調理機能			
教科書及び参考図書					
教科書：食べ物と健康 マスター調理学 第4版 西堀すき江 編著 建帛社 参考図書：栄養士実力認定試験過去問題集 全栄施協編 建帛社					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指定したテキストのページ内容よりキーワード及び専門用語について調べた上で授業に臨む。 事後学習（週2時間）：当日の授業で小テストを実施。専門用語及び項目についてノートにまとめる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業内で実施する確認テストを授業時に解説する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 80% 課題 20%					
関連科目					
調理学実習 1, 2, 3					
受講上の注意					
時間内で配布する資料に本時のポイントを記入し、事後学習としてまとめておく。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生化学実験 [Experiments in Biochemistry]		1			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
実験 アクティブ・ラーニング	岡崎 英規		N-S4041			
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
定量分析・酵素活性・消化酵素						
授業の目的と概要						
体内で起こっている栄養素の代謝に関する現象を実験上で再現することにより、細胞の働きについて理解し、説明できるようになることを目的とする。						
学習の到達目標						
中和や定量分析など基礎的な実験を通じて、物事を科学的に捉える基礎を身につけ、応用できる。 栄養管理に関係する栄養素と疾病やからだの関係について理解し、説明できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション	生化学実験における諸注意、実験の基礎、濃度計算の基礎				○
3・4	身近な食品のpH測定	様々な食品のpHを測定し、pHの意味を理解する 次回使用する試薬の濃度を測定				○
5・6	酸と塩基	酸・塩基の意味、そして中和の意味を知ろう ～代表的な酸と塩基を使って中和反応～ スパイ！！の秘密 ～中和による果汁のクエン酸定量～				○
7・8	定量分析の基本	分光光度計を使って、量・反応関係を観察しよう ～分析実験の基礎を学ぶ～				○
9・10	酵素の実験-1	温度依存性って何？ ～温度とグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
11・12	酵素の実験-2	pH依存性って何？ ～pHとグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
13・14	酵素の実験-3	補酵素って何？ ～補酵素の有無とグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
15・16	たんぱく質の実験-1	たんぱく質の熱変性 たんぱく質の等電点沈殿				○
17・18	たんぱく質の実験-2	たんぱく質を食べるとどうなる？ ～たんぱく質と消化酵素の働き～				○
19・20	糖質の実験	でんぷんを食べるとどうなる？ ～炭水化物の種類と消化～				○
21・22	細胞の顕微鏡観察	臓器ごとで細胞が異なる？ ～肝臓、脾臓、血液標本を顕微鏡で観察～				○
23	まとめ	本実験の総まとめ				
教科書及び参考図書						
教科書：生化学実験ノート 岡崎著 参考図書：イラスト 栄養生化学実験 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 (小テスト) 50% 提出物 (レポート) 50%						
関連科目						
生化学						
受講上の注意						
実験は、別紙で指定された服装 (白衣、靴、アクセサリ不可など) で行う。						

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	食品加工実習 [ Food Processing Practice ]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	木元 泰子			N-S5042	
この授業に関する資格					
栄養士免許 フードスペシャリスト					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		○	健康づくりの実践的指導能力	
○	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得	
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力	
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力	
キーワード					
貯蔵・保存・加工原理・容器包装					
授業の目的と概要					
食品加工の基である食品素材の特徴を学び、日常利用されている加工食品について実習を通して具体的に加工の原理と方法を学ぶ。					
学習の到達目標					
食品における貯蔵および加工の目的を知り、加工食品の原材料、製造原理、工程、保存、包装技術また、食品の成分や物性の変化を学び、知識だけでなく栄養士として食生活に役立つ食品加工の基本的な知識を習得し、実生活に活かすことを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	オリエンテーション	食品加工の概念、実習にあたり留意事項の確認			
3・4	穀類の加工①	うどん：小麦粉のグルテン形成について 食塩がうどんの生地と与える影響を学ぶ			○
5・6	穀類の加工②	中華麺：かん水と小麦粉中の成分の反応 中華麺の性質を学ぶ			○
7・8	穀類の加工③	パン：酵母の発酵作用を通して微生物の食品加工への有効利用を学ぶ マフィン：生物的・化学的膨化及び膨化剤の違いを学ぶ			○
9・10	果実類の加工 容器包装	ジャム・マーメイド：ペクチンのゲル化について 貯蔵効果について学ぶ 瓶詰・真空包装：包装容器について学ぶ			○
11・12	野菜類の加工	トマトケチャップ：野菜の加工目的について学ぶ			○
13・14	畜肉類の加工	ソーセージ：肉色素の変化や燻煙作用、ケーシングについて学ぶ			○
15・16	魚介類の加工	かまぼこ・さつま揚げ：魚肉練り製品の物性の変化を学ぶ			○
17・18	豆類の加工	豆腐・がんもどき：大豆たんぱく質と凝固剤の反応について学ぶ			○
19・20	いも類の加工	こんにゃく：こんにゃく粉の成分であるグルコマンナンのゲル化について学ぶ			○
21・22	乳類の加工	ヨーグルト：乳酸菌の作用と乳たんぱく質の変性について学ぶ フレッシュチーズ：乳たんぱく質の変性について学ぶ			○
23	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：食品加工実習テキスト（建帛社） 参考図書：食品加工貯蔵学（東京化学同人）、日本食品大事典（医歯薬出版）、食品学教科書、調理学教科書					
準備学習・事後学習					
準備学習：実習で行う内容の加工食品について情報を収集する。 事後学習：授業プリント、実習内容を復習する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業時間内に講評、解説する時間を設ける。					
成績評価の方法・基準					
課題 70% 実習内容（準備・技術・発表・後片付け） 30%					
関連科目					
応用食品学、食品学、調理学、調理学実習					
受講上の注意					
欠席した授業は、欠席課題を提出すること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ栄養学実習 [Practice in Sports Nutrition]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	N-S5043	
この授業に関する資格					
栄養士免許					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
栄養アセスメント・栄養ケア・スポーツ選手の食事・暑熱環境					
授業の目的と概要					
スポーツや運動を行う人に対する栄養アセスメント・ケアを実践的に学び、その手法を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
身体組成、臨床診査、身体活動量に関するデータを正しく評価できるようになる。 スポーツや運動を行う人に、適切な栄養ケアを行えるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	食事の評価1	食物摂取頻度調査を用いて食事摂取量を算出し、正しい評価手法を身につける			○
3・4	スポーツ選手への食事提供	瞬発系、持久系スポーツ選手に対する食事を考える			○
5・6	食事の評価2	食事調査の特性を理解し、エネルギー調整方法を身につける			○
7・8	体格の評価 身体測定	身体組成、周囲長および皮脂厚の測定を行う			○
9・10	臨床診査1 尿検査	尿を用いて、栄養摂取状況などの評価を行う			○
11・12	臨床診査2 血液検査	血液検査の結果を用いて、貧血や貧血の種類に関して学習する			○
13・14	臨床診査3 血糖値の変化	血糖負荷試験を行い、血糖値の変動について学習する			○
15・16	唾液アミラーゼとストレスホルモン	唾液を用いて、ストレスを評価する			○
17・18	環境の評価	WBGT 計を用いて、暑熱環境の評価を行う			○
19・20	身体活動量の評価	自身の身体活動量を測定し、結果を評価する			○
21・22	高齢者の虚弱を評価	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概念について学習する			○
23	まとめ	本実習のまとめ			○
教科書及び参考図書					
参考資料：教員作成資料（プリント配布） 参考図書：「応用栄養学」羊土社					
準備学習・事後学習					
準備学習：参考図書の学習する内容を読んでキーワードについてまとめておくこと。 事後学習：授業中の内容を復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 60%、レポート 40%として、総合的に評価する。					
関連科目					
解剖生理学、応用栄養学					
受講上の注意					
本授業では、自分のデータを取得し、考察することとする。 そのため、欠席した場合には、教員にその旨を報告し、実施していない内容の実習を行うようにする。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	臨床栄養学実習 [Clinical Nutrition Practice]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	木元 泰子			N-S5044	
この授業に関する資格					
栄養士免許					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
栄養管理・栄養ケア・一般治療食・特別治療食					
授業の目的と概要					
病態別の食事計画（摂取基準・献立作成・食品選択・調理携帯など）に基づき、献立作成、調理実習を行う。 献立作成を通して、形態別・成分別の献立作成の基礎的知識を学び、調理実習を通して、臨床調理と一般調理の違いを体得する。					
学習の到達目標					
治療の一環としての栄養療法の基本を習得し、各疾患に適した食事づくりができるよう既得の知識と実技を活かして、実践即戦力を身につけ、病態別栄養管理ができるようになることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	オリエンテーション 治療食の献立作成とは 献立作成の基本復習	科目説明、実習にあたり留意事項の確認 一般食・治療食の献立作成手順 献立作成のための基礎知識の復習			○
3・4	流動食・嚥下食の調理（演習・実習）	流動食の調理実習 増粘剤の使い方及び			○
5・6	一般治療食の調理（実習）	軟菜食の調理実習			○
7・8	糖尿病の交換表のしくみ（演習）	食品交換表のしくみ・単位計算			○
9・10	エネルギーコントロール食の献立作成（演習）	糖尿病食の献立作成			○
11・12	エネルギーコントロール食の調理実習（実習）	糖尿病食の調理実習			○
13・14	食塩制限食の献立作成（演習）	高血圧食の献立作成			○
15・16	食塩制限食の調理（実習）	高血圧食の調理実習			○
17・18	腎臓病食品交換表のしくみ（演習）	食品交換表のしくみ・単位計算 特殊治療食品について			○
19・20	たんぱく質コントロール食の調理（実習）	腎臓病食の調理実習			○
21・22	展開食の調理（実習）	栄養成分別展開食の調理実習			○
23	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） 腎臓病食品交換表（医歯薬出版） 参考図書：日本人のための食事摂取基準 2020 年版（第一出版） 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） 日本食品成分表					
準備学習・事後学習					
準備学習：シラバスで授業内容を確認し、教科書等で予習を行う。 事後学習：授業内容を復習し、日常生活で実践する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業時間内に講評、解説する時間を設ける。					
成績評価の方法・基準					
課題（献立・レポート） 70% 実習内容（準備・技術・発表・後片付け） 30%					
関連科目					
臨床栄養学、病態科学、調理学実習					
受講上の注意					
欠席した授業は、欠席課題を提出すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食品学実験 [Experimental Food Science]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実験 アクティブ・ラーニング	岡崎 英規・木元 泰子			N-S4045	
この授業に関する資格					
栄養士免許 フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力	
<input type="checkbox"/>	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>		健康生活の知識と技術の修得	
	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>		実社会に役立つ能力	
	運動、スポーツ科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>		社会に貢献できる実践力	
キーワード					
食品成分分析法・食品一般成分・食品成分表					
授業の目的と概要					
栄養士として必要な「食品についての基礎的な知識」を得るために、食品成分分析の基礎について学び、食品成分表の一般成分の分析方法について説明ができるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
食品の一般成分分析に関する実験を通して、化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得し、食品成分分析手法及び結果の解析方法を説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	オリエンテーション	授業の進め方、レポートの書き方、実験器具の説明 等			<input type="checkbox"/>
3・4	食品中の水分・粗灰分の定量①	食品一般成分について 常圧加熱乾燥法について、乾式灰化法について			<input type="checkbox"/>
5・6	食品中の水分・粗灰分の定量②				<input type="checkbox"/>
7・8	中和滴定実験①	中和滴定の原理について、標準液の調整、ビュレットの使い方、食酢中の酢酸の定量			<input type="checkbox"/>
9・10	中和滴定実験②				<input type="checkbox"/>
11・12	脂質の定量実験①	ソックスレー抽出法について			<input type="checkbox"/>
13・14	脂質の定量実験②				<input type="checkbox"/>
15・16	たんぱく質の定量実験	ケルダール法の原理について			<input type="checkbox"/>
17・18	糖の定性実験	呈色反応、還元反応について			<input type="checkbox"/>
19・20	食品の色に関する実験	酵素的褐変反応、非酵素的褐変反応について			<input type="checkbox"/>
21・22	食品の酵素に関する実験	食品中の酸化還元酵素の働き及び存在意義について			<input type="checkbox"/>
23	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：食品学実験書（医歯薬出版株式会社）、八訂 日本食品成分表 2024（女子栄養大出版部） 参考図書：栄養科学イラストレイテッド 食品学 I（羊土社）					
準備学習・事後学習					
準備学習：シラバスを確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。実験操作の流れを整理し、疑問点を整理しておく。 事後学習：実験結果、考察し、レポートにまとめ、理解を深める。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
レポートにコメントを入れて返却する。					
成績評価の方法・基準					
レポート 60%、小テスト 40%					
関連科目					
食品学、応用食品学、調理学、調理学実習、給食経営実習、給食管理実習、栄養学総論、生化学、生化学実験、他					
受講上の注意					
身支度を整えて受講すること。器具、試薬の取扱いには細心の注意を払うこと。実験では危険を伴うことがあるため、事故のないように注意する。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食品衛生学実験 [Experiments in Food Hygiene]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実験 アクティブ・ラーニング	岡崎 英規			N-S4047	
この授業に関する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
細菌検査・鮮度判定・衛生指標					
授業の目的と概要					
食品衛生学で学んだ内容について、実体験により理解を深める。 微生物に関する基礎的実験により、普段は見えない微生物がとて身近なものであることを認識し、衛生管理ができるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
食品の細菌検査法、鮮度判定など品質管理の基礎的知識と技術を身につけ、結果について考察することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション 手指の洗浄消毒効果	食品衛生学実験における諸注意 集団給食における手指の洗浄消毒効果の大切さを体得させる			○
2	手指の洗浄消毒効果観察 様々な消毒方法	手指の洗浄消毒効果について観察をする 様々な消毒方法や滅菌方法について学習する			○
3	細菌観察、グラム染色	グラム染色により細菌の形態に関する知識を高める			○
4	一般生菌数の測定	市販食品を用いて、衛生指標である生菌数測定法を体得する			○
5	生菌数測定の観察・衛生指標菌	市販食品に、生きた細菌や芽胞が存在することや衛生指標菌を学習する			○
6	大腸菌群検査	食品の衛生指標である大腸菌群の測定方法を体得する			○
7	糞便系大腸菌群検査 腸炎ビブリオ検査	大腸菌群の中には、糞便由来のものと環境由来のものが含まれることを理解する 市販魚介類を用い、身近に腸炎ビブリオがいることを認識する			○
8	ブドウ球菌検査 空中落下細菌検査	各人のブドウ球菌汚染実態と検査方法を学ぶ 調理場などの環境衛生指標とされる大気中の細菌について認識する			○
9	魚介類の鮮度判定	短時間で結果の出る鮮度判定の検査法「揮発性ちっ素（VBN）測定」を体得する			○
10	魚介類のヒスタミン検査	アレルギー様食中毒の原因物質ヒスタミンの検査法を体得する			○
11	飲料水検査	水道水の遊離残留塩素濃度を測定し、安全性の確認方法を体得する			○
12	小テスト、まとめ	実験に関する内容の小テスト、本実験の総まとめ			
教科書及び参考図書					
教科書：食品衛生学実験ノート 参考図書：食品衛生検査指針 微生物編・理化学編 2015 日本食品衛生協会					
準備学習・事後学習					
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
添削したレポートを返却する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験（小テスト） 50% 提出物（レポート） 50%					
関連科目					
食品衛生学、給食経営管理論、調理学、食品加工実習					
受講上の注意					
実験は、別紙で指定された服装（白衣、靴、アクセサリ不可など）で行う。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	社会福祉概論 [Social Security Schemes]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	林 和秀		関	N-S2048	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、社会福祉主事					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
社会福祉・社会保障					
授業の目的と概要					
①「社会福祉」の価値や意義、社会保障の基本的な制度である社会保険・公的扶助・社会福祉（制度）について学び、コメディカルとして、その概要を他者に説明できる。②制度や施策と合わせて具体的な社会問題について知り、社会や人間に対する広い視野を持つことができる					
学習の到達目標					
①社会福祉の歴史を学び、その現状と意義を理解し、説明できる。②社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉）のおおよその仕組みを説明できる。③現状の制度の課題や社会問題（障害者差別、児童虐待、健康格差等）について自らの意見を述べる事ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	社会福祉とは何か	栄養を学ぶ学生が社会福祉を学ぶ意味を考える。授業計画・概要、評価方法を確認する			
2	社会福祉の意味と対象	社会福祉の意味と対象について、用語の整理と社会福祉の歴史的な流れを学び、考える			
3	日本の社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史を学び、人間の尊厳や現代の社会福祉への理解を深める			
4	社会保障制度の全体像	私たちの生活を支える仕組みとしての、日本の社会保障の全体像を知る			
5	公的年金保険制度	日本社会の現状を認識するとともに、日本の年金保険制度の仕組みを理解する			
6	医療保険制度	日本の医療保険制度および、医療福祉に関係する課題や専門職について学ぶ			
7	高齢者福祉と介護保険制度Ⅰ	高齢者を取り巻く状況と現状について認識し、高齢者の特性を学ぶ			
8	高齢者福祉と介護保険制度Ⅱ	高齢者福祉と介護保険制度について学ぶ			
9	生活保護制度	生活保護制度の仕組みと課題について学ぶ			
10	児童家庭福祉Ⅰ	少子高齢化の状況や現代の家族の課題について学ぶ			
11	児童家庭福祉Ⅱ	子どもや子育てを支援する施策と課題について学ぶ			
12	障害者福祉	障害のある人の生活を支援する施策と課題について学ぶ			
13	制度ではない社会福祉	映像資料をもとに「福祉と食」との関連や課題について考える			
14	地域福祉	地域福祉とは何か事例と理論を学び、地域における栄養士の役割を考える			
15	授業の振り返りと総括を行う	授業の振り返りと総括を行う			
教科書及び参考図書					
教科書：教科書は使用せず、教員作成資料を毎回配布する。					
参考図書：①岩松珠美・三谷嘉明編『5訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』みらい、2019年					
②鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』講談社、2018年					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：シラバスのテーマに該当する内容について、自分なりに調べる。関連するメディア作品（映画、番組等）に触れる。					
事後学習（週2時間）：各回で配布する授業の資料を再度熟読し、復習する。関連するメディア作品（映画、番組等）に触れる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
リアクションペーパーに対して授業内での返答を行う。E-mail、Google Classroom、オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
期末筆記試験 60% 毎授業のリアクションペーパー20% 課題レポート 20%					
関連科目					
公衆衛生学					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養指導論 2 [Nutrition Education 2]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	小河原 佳子			N-S3049	
この授業に関係する資格					
栄養士免許					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ライフステージ別栄養指導・生活習慣病					
授業の目的と概要					
<p>栄養指導論 1 を基に、ライフステージ・ライフスタイルの特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を理解し、指導方法を説明することができる。また生活習慣病や食環境、国際的動向について理解し、説明できることを目的とする。</p>					
学習の到達目標					
<p>ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を知り、対象者を考慮した指導の説明ができる。様々な環境に対応できるような知識・技術を学び、実践できる応用力を身につけ、指導方法を選択できる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	SDGs について	SDGs と栄養教育について			
2	妊娠・授乳期の栄養指導	妊娠・授乳期の特性に基づく栄養の指導について			
3	乳児期（離乳を含む）の栄養指導	乳児期（離乳を含む）の特性に基づく栄養の指導について			
4	幼児期の栄養指導	幼児期の特性に基づく栄養の指導について			
5	学童期の栄養指導	学童期の特性と学校における食育の取り組みについて			
6	思春期の栄養指導	思春期の特性に基づく栄養の指導について			
7	成人期・更年期の栄養指導	成人期・更年期の特性に基づく栄養の指導について			
8	高齢期の栄養指導	高齢期の特性に基づく栄養の指導について			
9	障がい者などの栄養指導	障がい者などの特性に基づく栄養の指導について			
10	食物アレルギーの栄養指導	食物アレルギーの概要と食物アレルギーの栄養の指導について			
11	生活習慣病の栄養指導	生活習慣病の予防・治療と栄養教育について（運動・休養について含む）			
12	食環境づくりにおける栄養教育	食環境づくり（食物・情報など）における栄養教育について			
13	国際栄養施策、諸外国の取り組み	フードガイド・食育について			
14	栄養指導のまとめ①	栄養指導の取り組みについて、災害時の対応など			
15	栄養指導のまとめ②	栄養教育の総括			
教科書及び参考図書					
<p>教科書：栄養教育論 第2版 光生館  参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「八訂 食品成分表 2023」女子栄養大学出版社</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週 2 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおく。必要な資料を検索し、課題の下調べをする。  事後学習（週 2 時間）：毎回授業の始めに前回の授業内容に関する振り返りテストを行うので、授業の内容をまとめておく。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
<p>授業の振り返りテストの解答を解説する。質問に対して Google Classroom を使用し答える。</p>					
成績評価の方法・基準					
<p>筆記試験 70%、課題・資料などの提出物 10%、小テスト 20%として評価する。</p>					
関連科目					
<p>栄養指導論 1、栄養指導論実習、栄養学各論</p>					
受講上の注意					
<p>予習・復習をしっかりとる。</p>					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養指導論実習 [Practice in Nutrition Education]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習・演習 アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S5050	
この授業に関する資格					
栄養士免許					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アセスメント・学習指導案・媒体					
授業の目的と概要					
<p>栄養指導論 1 および 2 の講義をもとに PDCA サイクルに基づいた計画を立て、食生活実態や栄養状態等の情報収集し、栄養アセスメントから栄養評価まで行い、正しい食生活について指導できる。また、ライフステージ別の対象者に対する指導計画作成方法、実施方法、教材作成の方法、およびそれらの評価方法などについて実践できることを目的とする。</p>					
学習の到達目標					
<p>栄養指導を行うために必要なアセスメントの方法と評価を理解し、実践できる。また、栄養アセスメントの結果分析から、対象者の問題改善、行動変容を促す栄養指導計画を立て、指導し、指導評価（PDCA）ができる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	栄養アセスメント	食事調査・生活活動調査			○
3・4	食生活の問題把握	栄養素の過不足や消費・摂取エネルギーバランスの評価、問題抽出			○
5・6	栄養アセスメント結果による食行動変容計画	食生活の問題改善、食行動変容			○
7・8	ライフステージ別対象者の特性把握	対象者の情報収集・問題抽出・目標設定			○
9・10	ライフステージ別対象者の栄養指導計画の立案	カリキュラム・6W3H1F			○
11・12	学習指導案の作成	学習指導案作成（導入・展開・まとめ）			○
13・14	学習指導案に基づく教材・媒体作成	学習指導案・媒体作成			○
15・16	栄養指導計画に基づく栄養補給計画の立案	対象者の栄養管理・献立作成			○
17・18	栄養指導の実施①グループ毎の栄養指導実施	ライフステージ別対象者の栄養指導（ロールプレイング）、ディスカッション			○
19・20	栄養指導の改善・学習指導案の見直し	ライフステージ別対象者の栄養指導の評価・改善・見直し			○
21・22	栄養指導の実施②グループ毎の栄養指導実施と評価	ライフステージ別対象者の栄養指導（ロールプレイング）と評価			○
23	栄養指導の評価・栄養アセスメントと指導計画・実施後の評価	ライフステージ別対象者の栄養指導のまとめ・評価			○
教科書及び参考図書					
<p>教科書：栄養教育論実習 大山珠美・須永美幸 編 光生館  参考図書：栄養教育論 第2版 光生館 ・「八訂 食品成分表 2023」女子栄養大学出版部 ・日本人の食事摂取基準 2020年版</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習：実習前に指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。実習に必要な情報を収集しておくこと。  事後学習：実習課題をまとめておく。グループでの進捗状況を把握しておく。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
レポートは返却時にコメントを記入する。ロールプレイングは実施後および Google Classroom でコメントをする。					
成績評価の方法・基準					
レポートの提出状況と内容などで 80%、ロールプレイングの発表内容など 20%					
関連科目					
栄養指導論 1, 2					
受講上の注意					
配布プリントの管理をしっかりとすること。レポートなどの提出期限はしっかりと守ること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	給食経営実習 [Food Service Management Practical]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習・演習 アクティブ・ラーニング	三ツ目 彩菜			N-S4051	
この授業に関する資格					
栄養士免許証					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
栄養計画・献立作成アプリケーション					
授業の目的と概要					
栄養計画から給食提供までに必要となる業務や書類作成について網羅的に学ぶことにより、給食提供に関する一連の流れを理解できる。					
学習の到達目標					
1. 献立作成に必要な栄養価計算、廃棄率の計算等について理解し、実際の書類作成に応用できる。					
2. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立を立案できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	給食管理の目的	給食管理計画の概要について			
3・4	栄養計画の立案 1	栄養計画を行う			○
5・6	栄養計画の立案 2	栄養計画をもとに献立を作成し栄養価計算を行う			○
7・8	献立作成アプリケーションの使用方法	PC、献立作成アプリケーションの使用方法を学ぶ			○
9・10	アプリケーションを用いた献立作成 1	アプリケーションを用いて献立を作成し、栄養価計算を行う			○
11・12	アプリケーションを用いた献立作成 2	アプリケーションを用いて作成した献立の栄養価調整を行う			○
13・14	給食提供関連書類の作成 1	レシピ・発注書・作業工程表等の書類作成を行う			○
15・16	給食提供関連書類の作成 2	食材の原価計算・販促媒体の作成を行う			○
17・18	テーマ別献立作成と各種書類作成 1	給食テーマに沿ったメニューの決定、献立表・レシピ・発注書の作成（グループ）			○
19・20	テーマ別献立作成と各種書類作成 2	給食テーマに沿ったメニューの決定、献立表・レシピ・発注書の作成（グループ）			○
21・22	テーマ別献立作成と各種書類作成 3	作業工程表の作成（グループ）			○
23	給食実習室使用のルール説明	衛生管理および給食設備・機器の説明			
参考図書：「八訂 食品成分表 2024」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。「大量調理施設衛生管理マニュアル」について、復習しておく。 事後学習：献立作成に関わる計算（発注量の算出、栄養計算方法）の復習。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
提出された課題を添削して返却する。					
成績評価の方法・基準					
提出物 100%					
関連科目					
給食経営論・給食管理実習 1・給食管理実習 2・給食管理実習 3					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	給食管理実習 1 [Food service Management Practical 1]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習・演習 アクティブ・ラーニング	三ツ目 彩菜			N-S4052	
この授業に関する資格					
栄養士免許証					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
給食実習・調理指導					
授業の目的と概要					
給食提供に関わる一連の作業を繰り返し行うことで、給食運営に必要な書類作成やその他管理業務の内容を理解し、遂行できるようになる。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。					
学習の到達目標					
1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。 2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	オリエンテーションと演習：書類作成①	授業概要の説明・必要書類一式の完成			○
3・4	実習：大量調理体験①	決められた献立をもとに大量調理の流れを体験する			○
5・6	演習：運営書類の作成①	給食運営に関する書類の作成を行う			○
7・8	実習：大量調理体験②	決められた献立をもとに大量調理の流れを体験する			○
9・10	演習：運営書類の作成②	給食運営に関する書類の作成を行う			○
11・12	実習：試作	グループで考案した献立をもとに試作を行う			○
13・14	演習：試作後の検討	提供に向けて試作の結果をもとに献立等書類の修正を行う			○
15・16	実習：給食提供①	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
17・18	演習：書類作成①	献立・各種書類作成			○
19・20	実習：給食提供②	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
21・22	演習：書類作成②	献立・各種書類作成			○
23	演習：まとめ	実施献立(グループ単位)、献立等書類作成課題 (個人) の提出			○
教科書及び参考図書					
参考図書：「八訂 食品成分表 2023」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習前日、実習時間外での検品業務が必要となる場合がある。 事後学習：グループ単位で給食提供後の書類作成を行う。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
提出された課題を添削して返却する。					
成績評価の方法・基準					
提出物 100%					
関連科目					
給食経営管理論・給食経営実習・給食管理実習 2,3・調理学・調理学実習 1,2,3					
受講上の注意					
「給食経営実習」を必ず履修すること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	給食管理実習 2 [Food service Management Practical 2]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習・演習 アクティブ・ラーニング	三ツ目 彩菜			N-S5053	
この授業に関する資格					
栄養士免許証					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
給食実習・調理指導					
授業の目的と概要					
給食提供に関わる一連の作業を繰り返し行うことで、給食運営に必要な書類作成やその他管理業務の内容を理解し、遂行できるようになる。「給食管理実習 1」での経験を踏まえ、栄養士としての立場をより理解し、調理員への指導ができるようになる。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。					
学習の到達目標					
1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。 2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務および調理員への指導を実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	実習：試作	グループで考案した献立をもとに試作を行う			○
3・4	演習：試作後の検討	提供に向けて試作の結果をもとに献立等書類の修正を行う			○
5・6	実習：給食提供①	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
7・8	演習：書類作成①	献立・各種書類作成			○
9・10	実習：給食提供②	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
11・12	演習：書類作成②	献立・各種書類作成			○
13・14	実習：給食提供③	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
15・16	演習：書類作成③	献立・各種書類作成			○
17・18	実習：給食提供④	給食実習・調理指導 (実習グループ) 献立・各種書類作成 (演習グループ)			○
19・20	演習：書類作成④	献立・各種書類作成			○
21・22	実習：実習室の管理	食器や器具類の個数・状態確認や備品・食材在庫の管理について学ぶ			○
23	演習：まとめ	実施献立(グループ単位)、献立等献立課題 (個人) の提出			○
教科書及び参考図書					
参考図書：「八訂 食品成分表 2023」女子栄養大学出版社、「調理・献立作成の基礎」化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習前日、実習時間外での検品業務が必要となる場合がある。 事後学習：グループ単位で給食提供後の書類作成を行う。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
提出された課題を添削して返却する。					
成績評価の方法・基準					
提出物 100%					
関連科目					
給食経営管理論・給食経営実習・給食管理実習 1,3、調理学、調理学実習 1,2,3					
受講上の注意					
「給食経営実習」、「給食管理実習 1」を必ず履修すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	
専門教育科目	給食管理実習 3 [Food Service Management Practical 3]		1			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	三ツ目 彩菜			N-S5054		
この授業に関する資格						
栄養士免許証						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
校外実習セミナー・校外実習報告会						
授業の目的と概要						
<p>特定給食施設において所属の栄養士から指導を受けながら実習を行うことで、社会に対する責任感・行動力の重要性を理解する。実習終了後は学内報告会において発表を行い、実習内容および栄養士という職業に対する説明能力を身につける。</p>						
学習の到達目標						
<p>1. 社会に対する責任感・行動力の重要性を理解し、学外実習を円滑に遂行できる。 2. 栄養士という職業について理解を深め、具体的に説明できる。</p>						
回	テーマ	授業内容			AL	
1・2	校外実習報告会	校外実習報告会へ参加する（1年次）			○	
3	外部講師セミナー	現場で働く栄養士による特別講義（施設の概要、栄養士業務、心構え等）				
4	校外実習事前指導①	校外実習事前準備（書類作成）				
5	校外実習事前指導②	校外実習事前準備・心構え（ノート作成等）				
6～22	校外実習（各実習施設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の概要を知る</li> <li>・業務の内容を知る</li> <li>・現場作業・施設設備及び衛生管理の実際を知る</li> <li>・栄養士の業務の概要を知る</li> <li>・給食の運営・喫食者の意見を知る</li> <li>・実習課題の設定、実行</li> <li>・実習日誌の記録</li> <li>・感想及び反省</li> <li>・レポートの作成</li> </ul>				
23	校外実習報告会	グループ毎に発表資料を作成し実施報告を行う				
教科書及び参考図書						
参考図書：校外実習ノート						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：各実習施設について事前に学習し、実習課題を決定しておく。校外実習前に実施するセミナーやガイダンス等で学んだ内容を再度確認する。 事後学習：実習を振り返り、実習ノートをまとめる。実習報告会資料を作成する。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
提出された校外実習ノートを添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
実習評価表（校外実習先担当者）による評価 50% 実習評価表（本学教員）による評価 40% 校外実習報告 10%						
関連科目						
給食経営管理論、給食経営実習、給食管理実習 1,2、調理学、調理学実習 1,2,3						
受講上の注意						
学生生活ハンドブック「校外実習における健康栄養専攻内規」に準ずる。学外実習という認識を持ち、十分な体調管理を心掛けておく。						



授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	調理学実習 1 [ Food Preparation 1 ]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4055	
この授業に関する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
基本調理・湿式加熱法・乾式加熱法・供応食					
授業の目的と概要					
<p>日常の日本料理の献立を中心に前半は非加熱調理操作 (切り方、和え方など)、加熱調理操作 (ゆで方、煮方、焼き方など) を組み合わせて実習し、後半は更に作業効率を高めるための作業動線を理解し実践できるようになることを目的とする。</p>					
学習の到達目標					
<p>調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な日本料理が作れるような応用力を身に付け、実施することができる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	調理学実習 1 総論	調理学実習の目的・調理と衛生 (身支度含む)、味覚テスト、アレルギーアンケート			○
3・4	包丁法の理論	包丁の種類と用途、扱い方の理論。			○
5・6	包丁法の実習	包丁の種類と用途、扱い方の実習。動物性食品から数種選び切り方について実習を行う。			○
7・8	調理材料の前処理法	前処理としての灰汁抜きの方法について学習する。作業動線についての演習。			
9・10	調理材料の前処理法	前処理としての灰汁抜きの方法及び湿式加熱法：茹で方、だしの種類と取り方を実習する。			○
11・12	課題実習	だしの取り方、切り方の復習を兼ねたみそ汁実習を各自で行う。			○
13・14	非加熱調理	和え方・寄せ方を中心に実習。調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する。			○
15・16	加熱調理・湿式加熱	煮方・炊き方・蒸し方の種類の理論について学習する。			
17・18	加熱調理・湿式加熱	煮方・炊き方を中心に実習。			○
19・20	加熱調理・湿式加熱	蒸し方を中心に実習			○
21・22	加熱調理・乾式加熱	揚げ方・炒め方の種類の理論について学習する。			
23	加熱調理・乾式加熱	揚げ方・炒め方を中心に実習。			○
教科書及び参考図書					
<p>教科書：応用自在な調理の基礎 (日本料理篇) 川端・永島他共著 家政教育社  食べ物と健康 マスター調理学 第4版 西堀すき江 編著 建帛社 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。オンデマンド配信の内容を確認。  事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習につなげる。</p>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
<p>課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。</p>					
成績評価の方法・基準					
<p>単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出。  実習内容 (準備、調理操作、片付け) 50% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 20%</p>					
関連科目					
調理学、食品学、応用食品学					
受講上の注意					
次回実習内容をオンデマンドで確認し実習の準備をしておくこと。実習中は衛生管理・安全管理につとめ意欲的に臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	調理学実習 2 [Food Preparation 2]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4056	
この授業に関する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
供応食・日本料理様式・中国料理					
授業の目的と概要					
前半、日本料理（供応食）について歴史的変遷を背景に理論を確認し、関連づけながら実習を行う。後半は世界三大様式別料理のうち、中国料理について正餐の献立構成を確認しながら実践することができる。					
学習の到達目標					
調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な日本料理及び中国料理が作れるような応用力を身に付け、実施することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	加熱調理	誘電（マイクロ波）加熱の理論と利用法について学習する。			
3・4	加熱調理	誘電（マイクロ波）加熱を利用した官能評価			○
5・6	日本料理	日本料理の種類と歴史について学習する。			
7・8	供応食	本膳料理の献立実習について学習する。			
9・10	日常食	日本料理様式における日常食の献立構成・旬の食材に基づく料理について学習する。			
11・12	日本料理まとめ	ポートフォリオ、調味パーセント			○
13・14	中国料理総論	中国料理様式の理論について学習する。			○
15・16	中国料理①	湯菜の実習 東方系の料理の特徴			○
17・18	中国料理②	炒菜・煎菜の実習 南方系の料理の特徴			○
19・20	中国料理③	搾菜・蒸菜の実習 西方系の料理の特徴			○
21・22	中国料理④	前菜・煨菜の実習 北方系の料理の特徴			○
23	中国料理⑤	点心・飲茶の実習			○
教科書及び参考図書					
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇・中国料理編）川端・永島他共著 家政教育社 食べ物と健康 マスター調理学 第4版 西堀すき江 編著 建帛社 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版社					
準備学習・事後学習					
準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。オンデマンド配信の内容を予習する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習につなげる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。					
成績評価の方法・基準					
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出。 実習内容（準備、調理操作、片付け・実技試験）50% 単元のレポート30% ポートフォリオ20%					
関連科目					
調理学、食品学、応用食品学					
受講上の注意					
次回実習内容を確認し実習の準備をしておくこと。実習中は衛生管理・安全管理につとめグループ内でコミュニケーションをとり作業を進めること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	調理学実習 3 [ Food Preparation 3 ]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-S5057	
この授業に関係する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
<input type="radio"/>	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	<input type="radio"/>	健康づくりの実践的指導能力		
<input type="radio"/>	食、栄養科学の専門的知識	<input type="radio"/>	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	<input type="radio"/>	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	<input type="radio"/>	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
西洋料理、行事食、官能評価					
授業の目的と概要					
西洋料理の献立構成 (オードブル、ポタージュなど) に従って実習を行う。また、今まで実習した内容を行事食 (クリスマス料理) へと展開する。また、調理学実験として、食品の調理上での特性の把握や食品の鑑別法 (食品物性・官能評価) について理解し応用することができる。					
学習の到達目標					
調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な西洋料理が作れるような応用力を身に付け、実施することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	西洋料理総論	西洋料理の種類と歴史について学習する。			
3・4	西洋料理①	フォンとソースの実習			○
5・6	西洋料理②	前菜・スープ・魚介類の実習			○
7・8	西洋料理③	アントルメの理論・獣鳥肉料理・野菜サラダの理論			
9・10	西洋料理④	アントルメの実習			○
11・12	西洋料理⑤・行事食	獣鳥肉料理・野菜サラダの実習・行事食 (クリスマス料理含む)			○
13・14	西洋料理⑥	特別実習			○
15・16	調理学実験①	五味の識別 (閾値)			○
17・18	調理学実験②	調理と計量・食品の色の判定、調理と温度			○
19・20	調理学実験③	調理と物性			○
21・22	調理学実験④	官能評価			○
23	調理学実験⑤	動植物性食品の調理上の特性			○
教科書及び参考図書					
教科書：応用自在な調理の基礎 (西洋料理編) 川端・永島他共著 家政教育社 身近な調理の科学実験 長野・永島他著 地人書館 食べ物と健康 マスター調理学 第4版 西堀すき江 編著 建帛社 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部					
準備学習・事後学習					
準備学習：事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。オンデマンド配信の内容を予習。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習につなげる。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。					
成績評価の方法・基準					
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出。 実習内容 (準備、調理操作、片付け) 50% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 20%					
関連科目					
調理学、食品学、応用食品学					
受講上の注意					
西洋料理、調理学実験等、総仕上げとなる実習である。調理工程作業、調理技術の最終確認として臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S
専門教育科目	分野別栄養実践実習 [Practice of Nutritional Field]			2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	健康栄養専攻 教員			N-S2037		
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
栄養士業務・調理技術・実験原理						
授業の目的と概要						
「給食施設コース」と「食品メーカー・研究機関コース」の2コース制で、希望就職先に応じた2つのコースから一方を選択して実習を行う。これまでに学習した栄養士業務に関して、主に実習面での学び直しにより、実際の業務に対応する力を身につける。						
学習の到達目標						
栄養士としての専門性に対する意識を高め、業務に必要な知識・技術を身につける。						
	給食施設 コース			食品メーカー・研究機関 コース		
回	授業内容	キーワード	授業内容	キーワード	AL	
1	ガイダンス、PCスキル 1	アンケートの作成	ガイダンス、PCスキル 1	アンケートの作成	○	
2	PCスキル 2	献立表の作成	PCスキル 2	献立表の作成	○	
3	PCスキル 3	調査結果のグラフ作成	PCスキル 3	調査結果のグラフ作成	○	
4	大量調理 1	食材の切り方	食品開発・研究 1	実験器具、選択、使用方法	○	
5	大量調理 2	大量調理の特性	食品開発・研究 2	培地、滅菌	○	
6	大量調理 3	調理機器の使い方	食品開発・研究 3	標準寒天培地作成・培養	○	
7	基礎調理 1	調味料の計算	食品開発・研究 4	選択培地作成・培養 1	○	
8	基礎調理 2	加熱調理操作	食品開発・研究 5	選択培地作成・培養 2	○	
9	基礎調理 3	調理特性	食品開発・研究 6	使用済み器具の洗浄・滅菌	○	
10	臨床栄養 調理 1	嚥下食	食品開発・研究 7	ニーズ調査・分析	○	
11	臨床栄養 調理 2	形態別食事療法	食品開発・研究 8	商品企画	○	
12	臨床栄養 調理 3	展開食	食品開発・研究 9	試作 1 回目	○	
13	応用栄養 調理 1	離乳食初期・調乳	食品開発・研究 10	試作 2 回目	○	
14	応用栄養 調理 2	離乳食中期・後期	食品開発・研究 11	官能評価	○	
15	応用栄養 調理 3	幼児食	食品開発・研究 12	製造	○	
教科書及び参考図書						
教科書：なし (適宜プリント配布) 参考図書：八訂 食品成分表 2023、日本人の食事摂取基準 2020 年版 他						
準備学習・事後学習						
準備学習：それぞれの専門科目について復習しておく。 事後学習：課題添削の内容を受け、復習を行う。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
添削した課題を返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート 60% 受講内試験 40%						
関連科目						
栄養士必修科目						
受講上の注意						
事前・事後学習をしっかりと行い、理解を深めて欲しい。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	フードスペシャリスト論 [Theory of Food Specialist]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義				N-S2059	
この授業に関係する資格					
フードスペシャリスト					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
フードスペシャリスト					
授業の目的と概要					
<p>食品(食べ物)に関する資格制度、フードスペシャリストとしての役割、人類と食物の歩み、世界の食と日本の食、現代日本の食生活、環境と食の問題、食品産業の種類と役割、様々な食に関する法律と食の品質の見方、および食情報のとらえ方や消費者の保護の制度などを理解する。</p> <p>現代の日本と世界を取り巻く食環境の中で、安全で豊かな食生活・食文化を推進する役目を担う立場や生産者(加工を含む)と消費者の間を取り持つ役割の魅力について学ぶ。</p>					
学習の到達目標					
食にまつわる文化、歴史や法規等に関する深い教養と専門職であるフードスペシャリストとしての責務と活躍の場を説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	フードスペシャリストとは①	食とは何か、専門職の成立、食の専門職の現状			
2	フードスペシャリストとは②	フードスペシャリストの概念・業務とその専門性、養成と資格、活躍の分野、食育活動			
3	人類と食物	人類の歩みと食物の関係、食品の加工・保存技術の歴史			
4	世界の食	食作法の文化、手食、箸食、ナイフ・フォーク・スプーン食、食の禁忌、世界の食事情			
5	日本の食	日本食物の歴史、食の地域差、郷土食			
6	現代日本の食生活①	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活			
7	現代日本の食生活②	食生活の変化と食産業、食料の供給と自給率、環境と食、フードマイレージなど			
8	食品産業の役割①	フードシステムと食品産業、食品製造業の目的と特徴・規模と動向			
9	食品産業の役割②	食品卸売業、食品小売業の種類と役割、外食産業の特徴・動向			
10	食品品質規格と表示①	食品の品質規格と表示にかかわる法律、JAS法による規格と表示、食品衛生法による表示			
11	食品品質規格と表示②	健康増進法による表示、景品表示法、計量法、コーデックス規格など			
12	食品品質規格と表示③	食品の品質規格の現状と問題点、消費者庁の業務など			
13	食情報と消費者保護①	食情報の発信と受容(インターネット情報など)、食情報の濫用			
14	食情報と消費者保護②	食品の徹底管理(トレーサビリティ等)、食品の安全、消費者保護の制度(国民生活センター等)			
15	まとめ	フードスペシャリスト論のまとめ			
教科書及び参考図書					
教科書：フードスペシャリスト論(四訂・第7版)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習(週2時間)：事前に提示するテキストの内容を熟読し、質問項目を考えてくる。</p> <p>事後学習(週2時間)：授業後に内容をきちんとノートに整理する。特に食のキーワード、年号毎の出来事や法律の内容を理解する。</p>					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 小テスト 30%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食料経済 [Food Economics]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義				N-S3060	
この授業に関係する資格					
フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
フードシステム・食の外部化・マーケティング・食料と環境問題					
授業の目的と概要					
食料について経済学の観点から理解し、説明できるようになることを目的とする。 現在の日本の食料消費・食品流通について、幅広い視野から認識し、豊かな食生活や、環境問題への配慮の実現について考察することができる。					
学習の到達目標					
食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を修得し、現在の食料消費・食品流通の事情を正しく解釈することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	食と経済、食市場、フードシステム	高度経済成長期以降の食市場の変化について、社会背景を踏まえて解説する			
2	少子化、高齢化、品目別食料消費	少子高齢化が食品消費および食生活に与える影響について解説する			
3	PFC 比率、加工食品、調理済み食品	食料消費の変化と加工食品の普及について解説する			
4	食料消費の変化	第1回から第3回までを振り返り、内容を深めて解説する			
5	食の外部化、外食、中食	外食産業と中食産業について解説する			
6	卸売流通、小売流通、市場外流通	卸売流通と小売流通の概要について解説する			
7	食料関連産業の発展	第4回から第6回までを振り返り、内容を深めて解説する			
8	常温流通、恒温流通、冷蔵流通、冷凍流通	温度帯別食品流通について解説する			
9	フードビジネス、フードマーケティング、デジタル・マーケティング	フードマーケティングについて解説する			
10	温度帯別食品流通、技術革新、マーケティング	第7回から第8回までを振り返り、内容を深めて解説する			
11	需要の価格弾力性、食料環境政策	食品の価格と食料消費の課題について解説する			
12	食品ロス、食品廃棄、食品リサイクル	食品ロスについて解説する			
13	プラスチックごみ、バーチャルウォーター	食料消費と環境問題の関係性を解説する			
14	食の外部化、市場外流通、マーケティング	第1回から第13回までの総括とレポート作成に取り組む			
15	WTO、TPP、食料安全保障	食に関連した安全確保等の問題について解説する			
教科書及び参考図書					
教科書：日本フードスペシャリスト協会編 改訂版『四訂 食品の消費と流通』建帛社					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：食品消費や食品流通に関する話題や情報を、新聞やネットニュース、テレビなどを通じて意識して収集する。 事後学習（週2時間）：各回で行う確認問題の内容について、わからなかった内容を調べておく。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、各回講義にて確認問題を実施して解答を解説するほか、ディスカッションにて補足・解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート課題 70% 小テスト 30% として、総合的に評価する。					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	フードコーディネート論 [Theory of Food Coordinate]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S3061	
この授業に関する資格					
フードスペシャリスト					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ホスピタリティ・テーブルウェア・サービス・コーディネート					
授業の目的と概要					
食に関するさまざまな場において活躍できるように、フードコーディネートの基本理念、現代の食事文化と課題、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、フードサービスマネジメントについて学び、フードスペシャリストとしてのフードサービスマネジメントまたは食企画の立案ができるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
フードコーディネートの理念を理解し、食文化、食のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニングを理解し、食企画やフードサービスマネジメントについて説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション（講義と演習の取り組みについて）	フードコーディネート論の概要 食企画の演習のオリエンテーション			
2	フードコーディネートの基本理念	おいしさの本質・ホスピタリティ・アメニティ			
3	食事の文化	日本の食生活・世界の国々の食事			
4	食卓のコーディネート ①日本料理・中国料理	テーブルウェア・日本・中国料理の食卓のコーディネート			
5	食卓のコーディネート ②西洋料理	テーブルウェア・西洋料理の食卓のコーディネート			
6	食卓のサービスとマナー①本料理・中国料理	サービス・マナー・本・中国料理			
7	食卓のサービスとマナー②西洋料理	サービス・マナー・西洋料理・パーティ			
8	メニュープランニング	献立・顧客のニーズ・料理様式			
9	食空間のコーディネート	食空間・インテリア・コーディネート			
10	フードサービスマネジメント	フードサービスビジネス・フードサービスの起業			
11	食企画の実践コーディネート	食企画・コーディネーター・実践例			
12	フードコーディネートのまとめ	資格認定試験対策・まとめ・振り返り			
13	フードコーディネートの食企画①情報収集・計画立案	企画書作成			○
14	フードコーディネートの食企画②資料作成	プレゼンテーション資料作成			○
15	フードコーディネートの食企画③プレゼンテーション・評価	プレゼンテーション実施・評価・まとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：三訂 フードコーディネート論（社）フードスペシャリスト協会 編 建帛社 その他：配布プリント					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。関連資料を調べておくこと。 事後学習（週2時間）：キーワードなどをまとめておくこと。資格試験過去問題集の該当箇所を解いておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業の始めに前回の授業内容の確認プリントを解説する。関連情報や雑誌・展示会などを提示する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70%、食企画作成とプレゼンテーションで 30%として、総合的に評価する。					
関連科目					
フードスペシャリスト論・調理学・調理学実習					
受講上の注意					
教科書をよく読んでおくこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	栄養基礎演習 [Basic Seminar for Nutritionists]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 アクティブ・ラーニング	健康栄養専攻 教員			N-S4063	
この授業に関する資格					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生物基礎・栄養基礎					
授業の目的と概要					
<p>栄養士課程における専門教育は、小・中学校および高等学校における教育内容を基礎に展開される。すなわち確たる基礎が築かれていなければ、より高度な内容を理解することは困難であるため、本授業科目は基礎力を徹底的に補填することを目的とする。</p>					
学習の到達目標					
<p>栄養士課程における専門科目の基礎知識を身につけ、専門科目の理解を深められるようになる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	栄養士について、管理栄養士について 1編 1章・2章			○
2	体の基礎知識	体の構造と働き 3編 1章			○
3	栄養の基礎知識 1	栄養素の働き 2編 2章			○
4	食生活・食文化の基礎知識 1	時代による食生活の変化、食文化と食習慣 4編 1・2章			○
5	栄養の基礎知識 2	食材・調理の基礎知識 5編 3章 2・3			○
6	食生活・食文化の基礎知識 2	食品をめぐる問題 4編 3章 1・2			○
7	身につけたい科学用語	科学用語 5編 3章 1			○
8	身につけたい成分表について	日本食品成分表の見方、使用方法			○
9	身につけたい基礎知識 1	計算の基礎 1			○
10	身につけたい基礎知識 2	計算の基礎 2			○
11	身につけたい基礎知識 3	計算の基礎 3			○
12	身につけたい基礎知識 4	計算の基礎 4			○
13	身につけたい基礎知識 5	献立作成に関わる計算の基礎 1			○
14	身につけたい基礎知識 6	献立作成に関わる計算の基礎 2			○
15	まとめ	これまでの総まとめ			○
教科書及び参考図書					
<p>教科書：めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 小野 章史 編著 第一出版  参考図書：栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル 小野廣紀ら著 化学同人  基礎からのやさしい化学 -ヒトの健康と栄養を学ぶために- 田島 眞 編著 建帛社</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習 (週 0.5 時間) : シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。  事後学習 (週 0.5 時間) : 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。</p>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
<p>オフィスアワーで適宜対応する。</p>					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
栄養士必修科目全般					
受講上の注意					
<p>基礎学力に不安を抱える学生は、積極的に履修し学ぶよう心がけて欲しい。</p>					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	製菓演習 [Pastry Preparation]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 (集中) アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4062	
この授業に関する資格					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
基礎的操作・調理特性・洋菓子・和菓子					
授業の目的と概要					
給食管理実習や調理学実習で扱うデザートに役立つ基礎として、西洋における製菓 (アントルメ) について理解し作成できるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
製菓の基本操作、調理器具を使いこなして調理することができる。応用として西洋におけるアントルメを習得し、デザート作成に活かすことができるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	西洋の製菓の総論 (種類)	温菓、冷菓、凍菓の分類、砂糖の調理特性			○
2	パティスリー (1)	焼き菓子 (基本) スポンジケーキ			○
3	パティスリー (2)	焼き菓子 (基本) クッキー、サブレ等			○
4	パティスリー (3)	焼き菓子 (応用) フィナンシェ、ティグレ			○
5	パティスリー (4)	焼き菓子 (応用) ケークサレ			○
6	チョコレート菓子	チョコレートケーキ、マンディアン			○
7	ゼリー類	ババロア、ムース、プディング等			○
8	和菓子	和菓子 桜餅、八つ橋			○
教科書及び参考図書					
参考資料: プリント・資料等を適宜配布。 参考図書: 新版 お菓子「こつ」の科学 お菓子作りの「なぜ?」に答える 河田昌子 著 柴田書店					
準備学習・事後学習					
準備学習: 事前に配布する単元の授業内容とキーワードを確認する。 事後学習: 授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を再度理解し今後の実習・献立への応用につなげる。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
課題としてのレポートを添削後返却。					
成績評価の方法・基準					
単元ごとにレポートの提出。 実習内容 (計量、調理操作、片付け) 70% 単元のレポート 30%					
関連科目					
受講上の注意					
集中実習です。実習中は計量、温度などのポイント及び製菓材料の扱い方を確認し積極的に参加すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	運動生理学実習 [Practice of Exercise Physiology]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	玉木 啓一・辻 将也		国	NS-S4064	
この授業に関する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
エネルギー代謝・体力測定・血圧・健康に関する医学的知識・スポーツの測定・分析					
授業の目的と概要					
学生相互に測定者・被測定者となり実習を進め、健康と運動について生理学との関連を学んでいく。					
学習の到達目標					
安静および運動中の生理学的変数を実際に測定し、運動生理学の知識を実際に確認すること、その測定方法を体得・理解する。測定結果から、健康づくりや競技力向上への課題を自分で発見し解決する能力を身につける。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	測定方法、分析方法	運動生理学分野の測定意義、スポーツへの応用を学ぶ			
2	生体現象、単位	ヒトにおける生体現象の特徴を知り、それらの測定機器等を知る			
3	体力	新体力テストの測定方法を実習し、そのデータの解釈方法を学ぶ			○
4	酸素摂取量、エネルギー消費量	ヒトのエネルギー消費量を、酸素摂取量から測定する			○
5	測定評価	体力テストの活用を学ぶ。安静代謝から健康について考える			
6	血圧	健康と血圧の関係を学習し、安静時の血圧の測定を実習する			○
7	心電図	運動と心臓の働きを学習し、心臓の動きを捉える心電図を測定する			○
8	循環器	循環器と健康について学ぶ			
9	筋電図	運動が筋の働きによって起こることを筋電図の測定によって学習する			○
10	筋パワー、垂直とび、反動動作	力とパワーの関係を知り、人体のパワー出力について学ぶ			○
11	筋収縮、動作解析	筋の働き、力、パワーについて考え、バイオメカニクスの理解を深める			
12	反応時間、反射運動、随意運動	反射運動、随意運動について学び、スポーツと反応時間について学ぶ			○
13	心拍数、運動強度、定常状態	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する			○
14	運動処方、トレーニング	運動生理学と、健康、スポーツについて学習する			
15	情報処理	スポーツのための情報収集、活用について考える			
教科書及び参考図書					
参考図書：「身体運動の生理学」猪飼道夫編 杏林書院、「コーチと選手のためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店 「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 南江堂					
準備学習・事後学習					
準備学習：次回実習の項目について下調べを行う。 事後学習：測定結果について、分析・考察を行う。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中の対面でのフィードバックを中心として、Google Classroom を通じたフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート100%					
関連科目					
運動生理学					
受講上の注意					
Google Classroom には必ず登録し、定期的にチェックすること。 本実習は、遅刻、服装などの準備をしていない学生は授業を受けることができない。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ医学実習 [Practice of Sport Medicine]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・小泉 和史・板橋 明・田本 育代		実	N-S5065	
この授業に関する資格					
健康運動実践指導者、健康管理士一般指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者共通科目、コーチングアシスタント					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="checkbox"/>	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>	実社会に役立つ能力		
<input type="checkbox"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
救急法・応急処置・コンディショニング・アンチ・ドーピング活動					
授業の目的と概要					
スポーツ指導者はスポーツ活動中に事故・傷害が発生した場合、適切に対応することが求められる。この授業では「命」について真剣に考え、スポーツ活動に伴う事故・傷害に対する正しい救急法の知識と技術を身につけることを目的とする。授業では①一次救命処置、②外傷等に対する予防及び応急処置、③スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動について講義・実習を行う。					
学習の到達目標					
スポーツ活動中に発生した事故・傷害に対し、正しい救急法の知識と技術を身につけ、手当できる。 スポーツ選手に対するコンディショニングの重要性や、アンチ・ドーピング活動の意義を理解し、説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	救急法とは	救急法を学ぶ目的、一次救命処置について			<input type="checkbox"/>
2	止血法	きずの種類と止血法			<input type="checkbox"/>
3	包帯法 1	三角巾 1 枚を用いた包帯法			<input type="checkbox"/>
4	包帯法 2	三角巾 2 枚を用いた包帯法			<input type="checkbox"/>
5	固定法	三角巾を用いた固定法、副子を用いた固定法			<input type="checkbox"/>
6	搬送法	一人または複数名で搬送する方法			<input type="checkbox"/>
7	心肺蘇生法 1	心肺蘇生法の手順			<input type="checkbox"/>
8	心肺蘇生法 2	心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について			<input type="checkbox"/>
9	心肺蘇生法 3	乳児・幼児に対する心肺蘇生法			<input type="checkbox"/>
10	応急処置	傷害発生時の応急処置（RICE 処置）、アイシング			<input type="checkbox"/>
11	コンディショニングの手法 1	テーピングについて			<input type="checkbox"/>
12	コンディショニングの手法 2	スポーツ選手のコンディショニング、コンディショニングに影響する因子			<input type="checkbox"/>
13	コンディショニングの手法 3	ストレッチングについて			<input type="checkbox"/>
14	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングの歴史、世界アンチ・ドーピング規定、ドーピングコントロール			<input type="checkbox"/>
15	全体の総括	全体の総括			<input type="checkbox"/>
教科書及び参考図書					
参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社） Reference Book（日本スポーツ協会） また、プリント・資料を適宜配付する					
準備学習・事後学習					
準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。 事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認し、コメントする。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 60% レポート・課題 40%					
関連科目					
スポーツ医学					
受講上の注意					
実習はバディ（2人組）で進めていく。バディ同士協力し合うこと。 配布された道具（三角巾、ガーゼ、テープなど）は必ず毎時間持参すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ医学実習 [Practice of Sport Medicine]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・小泉 和史・板橋 明・田本 育代		実	S-S5065	
この授業に関係する資格					
健康運動実践指導者、スポーツ指導者共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、 コーチングアシスタント、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士、トレーニング指導者					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
救急法・応急処置・コンディショニング・アンチ・ドーピング活動					
授業の目的と概要					
スポーツ指導者はスポーツ活動中に事故・傷害が発生した場合、適切に対応することが求められる。この授業では「命」について真剣に考え、スポーツ活動に伴う事故・傷害に対する正しい救急法の知識と技術を身につけることを目的とする。授業では①一次救命処置、②外傷等に対する予防及び応急処置、③スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動について講義・実習を行う。					
学習の到達目標					
スポーツ活動中に発生した事故・傷害に対し、正しい救急法の知識と技術を身につけ、手当できる。 スポーツ選手に対するコンディショニングの重要性や、アンチ・ドーピング活動の意義を理解し、説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	救急法とは	救急法を学ぶ目的、一次救命処置について			○
3・4	止血法	きずの種類と止血法			○
5・6	包帯法 1	三角巾 1 枚を用いた包帯法			○
7・8	包帯法 2	三角巾 2 枚を用いた包帯法			○
9・10	固定法	三角巾を用いた固定法、副子を用いた固定法			○
11・12	搬送法	一人または複数名で搬送する方法			○
13・14	心肺蘇生法 1	心肺蘇生法の手順			○
15・16	心肺蘇生法 2	心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について			○
17・18	心肺蘇生法 3	乳児・幼児に対する心肺蘇生法			○
19・20	応急処置	傷害発生時の応急処置（RICE 処置）、アイシング			○
21・22	コンディショニングの手法 1	テーピングについて			○
23・24	コンディショニングの手法 2	スポーツ選手のコンディショニング、コンディショニングに影響する因子			○
25・26	コンディショニングの手法 3	ストレッチングについて			○
27・28	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングの歴史、世界アンチ・ドーピング規定、ドーピングコントロール			○
29・30	全体の総括	全体の総括			○
教科書及び参考図書					
参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社） Reference Book（日本スポーツ協会） また、プリント・資料を適宜配付する。					
準備学習・事後学習					
準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。 事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認し、コメントする。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 80% レポート・課題 20%					
関連科目					
スポーツ医学、テーピング・マッサージ実習					
受講上の注意					
実習はバディ（2 人組）で進めていく。バディ同士協力し合うこと。 配布された道具（三角巾、ガーゼ、テープなど）は必ず毎時間持参すること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]			単位	N	S
専門教育科目	健康スポーツ実習 1 [Healthy Sports Training I] <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span>			1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・福島 邦男・田本 育代			N-S4067		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
<input type="radio"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="radio"/>	健康づくりの実践的指導能力			
<input type="radio"/>	食、栄養科学の専門的知識	<input type="radio"/>	健康生活の知識と技術の修得			
<input type="radio"/>	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
<input type="radio"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
スポーツ・健康・トレーニング・球技・レクリエーション						
授業の目的と概要						
<p>実習を通じて、自分の体力に合わせたスポーツの実施方法を知る。</p> <p>【球技選択者】は、サッカーを行う。基礎理論と基礎技術を学習し、ゲームを楽しめるまでになる。</p> <p>【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを中心に行う。基礎理論と基礎技術を学習し、ゲームを楽しめるまでになる。</p> <p>【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使用に慣れ、セットの組み方、指導法を身につける。</p>						
学習の到達目標						
<p>【球技・レクリエーション選択者】球技（サッカー）、レクリエーションの基礎的理論と技術を活かし、安全にゲームを実践することができる。</p> <p>【トレーニング選択者】トレーニング器具の使い方と安全なトレーニング方法に習熟し、説明をしながらトレーニングができる。</p> <p>レク・球技選択者とトレーニング選択者はそれぞれ、2～7回目と8～13回目でグループを入れ替えて実施する。</p>						
	トレーニング選択者（資格取得希望者）			球技・レクリエーション選択者		
回	テーマ	授業内容	AL	テーマ	授業内容	AL
1	種目選択	オリエンテーション		オリエンテーション	種目選択	
2	ウォームアップとクーリングダウン	マシントレーニング向け	○	コミュニケーションゲーム 1	全体指導型の活動	○
3	マシントレーニング 1	マシンの使用方法	○	コミュニケーションゲーム 2	グループワーク	○
4	マシントレーニング 2	部位別トレーニング方法	○	レク インディアカ 1	ルールと基本の打ち方	○
5	フリーウエイト 1	基本と安全管理	○	レク インディアカ 2	グループ対抗のリーグ戦	○
6	フリーウエイト 2	部位別トレーニング方法	○	レク フライングディスク 1	ディスクの投げ方	○
7	サーキットトレーニング 1	マシンを使用した方法	○	レク フライングディスク 2	ドッジビー	○
8	ウォームアップとクーリングダウン	自重トレーニング向け	○	サッカー 入門	ボール慣れ、ドリブル	○
9	ストレッチの基本と原理	ストレッチ	○	サッカー 基礎技術	ボールコントロール	○
10	部位別ストレッチ	ストレッチ	○	サッカー ゴールを目指す	キック・シュート	○
11	自重トレーニング 1	自重トレーニングの基本	○	サッカー ミニゲーム 1	ゲーム入門	○
12	自重トレーニング 2	部位別自重トレーニング	○	サッカー ミニゲーム 2	得点を目指す	○
13	サーキットトレーニング 2	自重を利用した方法	○	サッカー ミニゲーム 3	リーグ戦方式のゲーム	○
14	ジャイアントセット	ジャイアントセット法を行う	○	ミニゲーム	サッカー、ペタンク	○
15	まとめ					
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：ウイダー・トレーニング・バイブル（森永製菓健康事業部 出版）</p> <p>そ の 他：必要に応じて資料を配布する。</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。</p> <p>事後学習：授業中の内容を復習し、わからない用語は調べて覚えること。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
運動技能 50% 種目の理解 30% 課題・レポート 20%						
関連科目						
受講上の注意						
スポーツウェア、シューズで、積極的に参加すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S
専門教育科目	健康スポーツ実習 2 [Sport for health 2]			1		
授業形態	担当教員名				ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志				N-S5068	
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
健康づくり・ウォーキング・ジョギング・バドミントン						
授業の目的と概要						
<p>自分の関心や能力にあった種目を選択し、基本技術を習得し、ルール、マナーについて学習し、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>ウォーキング&amp;ジョギングは、ウォーキングやジョギングによる体力測定と評価、その結果を活かした運動プログラム作成を学習し、健康づくりの実践的指導能力を身に付けることを目的とする。</p>						
学習の到達目標						
<p>健康づくりのために必要な技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとして選択した種目を継続的に楽しむことができる。健康づくりのための正しいウォーキングやジョギングの方法を学び、実習を通して各自の能力に応じた運動プログラムを作成することができる。</p>						
ウォーキング&ジョギング（資格取得希望者）				バドミントン		
回	テーマ	授業内容	AL	テーマ	授業内容	AL
1	授業計画の作成	ガイダンス		ガイダンス	ガイダンス	
2	ウォーキングの基礎知識を学ぶ	健康づくり ウォーキング	○	ラケットとシャトルに慣れる	バドミントン 基本	○
3	3段階のスピードで歩行テスト	ウォーキング 歩行テスト	○	ストロークの基本	バドミントン ストローク	○
4	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	サービスの基本	バドミントン サービス	○
5	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	スマッシュの基本	バドミントン スマッシュ	○
6	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	シングルスゲーム	バドミントン ゲーム	○
7	健康づくりプログラムの作成と実践	健康づくり ウォーキング	○	シングルス①（リーグ戦）	バドミントン ゲーム	○
8	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	シングルス②（リーグ戦）	バドミントン ゲーム	○
9	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	ダブルス基本練習	バドミントン ゲーム	○
10	ルディックウォーキングイベント	ルディックウォーキング	○	ダブルス応用練習	バドミントン ゲーム	○
11	ジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	ジョギング スロージョギング	○	ダブルス①（リーグ戦）	バドミントン ゲーム	○
12	ジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	ジョギング スロージョギング	○	技能・体力テスト	体力テスト	○
13	スクエアステップエクササイズ	スクエアステップ	○	ダブルス②（リーグ戦）	バドミントン ゲーム	○
14	スクエアステップエクササイズ	スクエアステップ	○	ダブルス③（団体戦）	バドミントン ゲーム	○
15	まとめ	まとめ	○	まとめ	まとめ	○
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実践指導者養成テキスト						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習：授業のキーワードに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておくこと。</p> <p>事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。</p>						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
技能 50% 提出物 50%						
関連科目						
健康スポーツ実習 1						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	水泳 [Basic Swimming]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	高橋 季絵・久保 直也			N-S4066	
この授業に関する資格					
健康運動実践指導者					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
四泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ） ・ 安全管理					
授業の目的と概要					
保健体育の授業や水泳教室の運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を習得して指導法と安全管理を理解し、正しい泳法で泳ぐことができるとともに水中運動の効果を理解する。					
学習の到達目標					
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーが完泳できるとともに、水中運動の基礎技能や安全な水泳指導ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成			○
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ			○
3	泳法確認（1）（講義）	クロール・背泳ぎの泳ぎ方講義：レポート作成			○
4	泳法確認（2）（講義）	平泳ぎ・バタフライの泳ぎ方講義：レポート作成			○
5	4泳法：試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○
6	4泳法：クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳			○
7	4泳法：背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳			○
8	4泳法：背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳			○
9	4泳法：平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）			○
10	4泳法：平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳			○
11	4泳法：バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○
12	4泳法：バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○
13	安全水泳	安全な水泳指導法講義、水中運動プログラム			○
14	水中運動	歩く、走る、レジスタンストレーニングの基礎			○
15	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー			○
教科書及び参考図書					
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフイス					
準備学習・事後学習					
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% レポート課題 30%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	食と栄養 [Dietary habits and nutrition] <b>必修</b>		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	長島 洋介			S-S2103	
この授業に係る資格					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食生活・栄養					
授業の目的と概要					
本授業では、食生活と栄養の関わり、健康と栄養の役割等について講義する。本授業の目的は、私たちの食生活と栄養について理解することである。					
学習の到達目標					
生活科学の基礎知識を身につけ、自然科学を理解し活用できる力をつける。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	私たちの食生活と健康	この講義についての概説			
2	栄養素の基礎 ①	炭水化物について理解する			
3	栄養素の基礎 ②	たんぱく質について理解する			
4	栄養素の基礎 ③	脂質について理解する			
5	栄養素の基礎 ④-1	ビタミンについて理解する			
6	栄養素の基礎 ④-2	ミネラルについて理解する			
7	おいしさと健康のための調理 ①	おいしさの感じ方、温度について理解する			
8	おいしさと健康のための調理 ②	外観、食べ物の成分について理解する			
9	食品の機能性 ①	食品の機能性について理解する			
10	食品の機能性 ②	わが国の制度における食品の分類について			
11	健康づくりと食生活	健康づくりに必要なエネルギー・栄養素について理解する			
12	食生活と安全 ①	食の安全性、狂牛病、食中毒について学習する			
13	食生活と安全 ②	遺伝子組み換え食品、発がん性物質とがんの予防について学習する			
14	日本の伝統的食文化「和食」	日本型の食生活について理解する			
15	総括	この講義で得た知識を活かし、自身の食生活への考えをまとめる			
教科書及び参考図書					
教科書：「大学で学ぶ食生活と健康のまほん」 化学同人 参考書：適宜紹介する。					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : 各回のテーマに該当するニュースを調べる。 事後学習 (週 2 時間) : 講義で解説した内容と普段の自身の食生活内容を比較し理解を深める。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで対応する。					
成績評価の方法・基準					
期末試験 100%にて評価する。					
関連科目					
健康のスポーツ栄養学、競技のスポーツ栄養学					
受講上の注意					
自身の食生活と栄養学に興味を持ち講義に参加すること。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ心理学 2 [Sport Psychology 2]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義 アクティブ・ラーニング	水野 寛太		S-S3022			
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
研究手法・認知情報処理・運動制御・運動学習・フィードバック						
授業の目的と概要						
<p>アスリートの巧みな運動制御、速い状況判断の背景には、優れた脳内情報処理が関与している。ハイパフォーマンスを支える背景メカニズムを理解すれば、その特性をスポーツの実践や指導に活かすことができる。本授業ではそれらの知識を、実験に基づいて体験的に学習する。さらにスポーツ心理学の研究手法にも触れ、実験の妥当性や取得したデータの解釈、現象のメカニズムを議論・考察し、研究的な思考力の習得を目的とする。</p>						
学習の到達目標						
<p>スポーツ心理学の専門知識を身に付け、アスリートの高いパフォーマンスを支える背景メカニズムを理解する。 実験で得たデータを取得・解釈・考察し、自身の主張を展開することができる。</p>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業概要	スポーツ心理学研究とは				
2	脳の構造と機能	脳の構造と機能の理解				
3	心理学的実験手法	研究手法の検討 (実験の妥当性、グラフの解釈)				
4	反応時間と記憶機能	反応時間課題、記憶想起課題の実施				
5	スポーツにおける脳内情報処理	スポーツにおける認知情報処理、実行機能				
6	運動制御	運動制御課題の実施				
7	運動制御の理論	運動制御、タイミング制御のメカニズム				
8	運動学習	運動学習課題の実施				
9	運動学習の理論・実践的手法	運動学習のメカニズム、効果的な練習法				
10	研究論文抄読①	研究論文の基礎、実験手法の批判検討				
11	研究論文抄読②	論文抄読の実践				
12	実験手法検討	オリジナル実験の方法検討				
13	運動課題を用いたオリジナル実験の実施①	オリジナル実験の実施				○
14	運動課題を用いたオリジナル実験の実施②	オリジナル実験の実施				○
15	授業のまとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：スポーツ心理学事典 日本スポーツ心理学会編 (大修館書店) スポーツ精神生理学 山崎勝男編 (西村書店)</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備学習 (週 2 時間) : 参考図書、インターネットなどから予習しておくこと。 事後学習 (週 2 時間) : 配布された資料等と見直しておくこと。</p>						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の方法・基準						
レポート課題 70%、毎授業の確認テスト 30%						
関連科目						
スポーツ心理学 1						
受講上の注意						
毎授業で確認テストを実施する。						

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
専門教育科目	野外活動論 [Outdoor Activity]		2			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー			
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男		SM-S2028			
この授業に関する資格						
キャンプインストラクター						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
野外活動・野外教育・アウトドア・キャンプ						
授業の目的と概要						
この授業では野外活動を安全に楽しむために必要な基礎的知識や指導法について学び、さらに組織キャンプを中心とした野外での危険予知や危険回避の具体的方法についての知識を身につけることで、豊かな人間性を備えたキャンプインストラクターを目指す。 なお本授業はキャンプインストラクター資格取得のための必修科目となっている。						
学習の到達目標						
野外活動の基礎的理論的を理解し、キャンプインストラクターに求められる知識を身につけ実践できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	野外活動とは	授業概要 用語の定義と「屋外」スポーツとの違いについて				
2	人間と自然	自然とのかかわり 野外活動の目的と意義について				
3	さまざまな野外活動	野外で親しまれる、さまざまな活動について				○
4	野外活動の基礎知識	野外活動のルールとマナー 環境への配慮について				
5	野外活動と健康	野外活動の健康への効果について				
6	基礎技術 読図	地図の種類と読図について				○
7	基礎技術 ロープ	ロープワークの理論と実際				○
8	野外活動とキャンプ	キャンプの意義と目的、その歴史について				
9	組織キャンプ	教育キャンプについて民間団体の活動や環境教育をとりあげる				○
10	教育キャンプ	キャンプにおけるコミュニケーションスキル				
11	指導者の役割と機能	キャンプを中心とした、野外活動における指導者の役割				
12	水辺活動の安全管理	水辺活動中の事故を事例として着衣泳について学ぶ				
13	山岳活動の安全管理	登山活動やキャンプ中の事故を事例として				
14	冬季活動の安全管理	冬季の活動を事例として				
15	まとめ	この講義で取り上げた内容のまとめと課題作成				
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社) 日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：授業のテーマに関する情報を新聞や雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポート（提出課題）に生かせるようにしておく。 事後学習（週 2 時間）：授業の資料と返却されたミニレポートを保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
関連科目						
受講上の注意						
日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター資格取得には本授業と、夏季アウトドア実習または冬季アウトドア実習の単位が必要である						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生涯スポーツ論 [Theory of life-long sports]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男		SM-S2069			
この授業に関係する資格						
初級パラスポーツ指導員、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
生涯・ライフステージ・ライフサイクル論・生きがい						
授業の目的と概要						
エリクソンのライフサイクル論を参考に各ライフステージにおける発達課題達成のためにスポーツがどのような役割、機能を持っているかを理解する。さらに、人生のそれぞれのライフステージにおいてスポーツが自己実現や健康維持、身体的発達とかかわっていることを学び、健康生活に役立つ知識を身につける。						
学習の到達目標						
生涯スポーツの基本的な意義を理解し、健康生活への応用力となる知識を身につけることで、各自が話し合い活動において、生涯スポーツや生きがいについての意見を述べるができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業概要	用語の定義（生涯 ライフステージ）				
2	ライフサイクル論	エリクソンのライフサイクル論の概要 乳児期～成人後期				
3	乳児期	乳児期における発達課題と運動				○
4	歩行期	幼児・児童の身体発達の特性				
5	幼児後期	幼児・児童の運動指導のポイント				○
6	学童期	運動が苦手な幼児・児童の指導について				○
7	青年期	青年期における発達課題とスポーツについて				
8	成人前期	成人前期における発達課題とスポーツについて				
9	成人中期	成人中期における発達課題とスポーツについて				○
10	成人後期	高齢期におけるスポーツと生きがいについて				
11	スポーツフォーオール	障がい者スポーツ実施上の注意点や意義				
12	スポーツの安全管理	障がいの有無に関わらず、スポーツを安全に行う方法について				
13	ユニバーサルスポーツ	障がい者スポーツの施策とみんなのスポーツについて				
14	スポーツ大会の意義	オリンピックとパラリンピックの課題について				○
15	まとめ	この講義で取り上げた内容のまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：「生涯スポーツの理論と実際」大修館書店 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週2時間）：毎時間の資料と返却されたミニレポートは保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
関連科目						
受講上の注意						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ解剖学 1 [Functional Anatomy 1]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		実	S-S2070	
この授業に関する資格					
健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、JATI-ATI					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
運動器・基礎解剖・運動					
授業の目的と概要					
健康・体力づくりの指導者として必要なスポーツ解剖学の基本（骨格、筋、関節構造）と各関節の機能について知識を身につける。					
学習の到達目標					
骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚えることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション・概論	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明			
2	運動器の解剖と機能概論①	体表の区分・全身の骨格と筋の学習			
3	運動器の解剖と機能概論②	運動の表し方の学習			
4	運動器の解剖と機能概論③	運動器の構造と機能の学習			
5	運動器の解剖と機能概論④	関節の構造と機能の学習			
6	運動器の解剖と機能概論⑤	靭帯の構造と機能の学習			
7	運動器の解剖と機能概論⑥	筋・腱の構造と機能の学習			
8	運動器の解剖と機能概論⑦	骨格筋の神経支配の学習			
9	確認とまとめ	運動の表し方、運動器・関節・靭帯・筋・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配についての復習			○
10	体幹の基礎解剖と運動①	脊柱、頸椎の運動の学習			
11	体幹の基礎解剖と運動②	胸椎と胸郭、腰椎、仙椎、骨盤の運動の学習			
12	上肢の基礎解剖と運動①	上肢帯、肩関節の運動の学習			
13	上肢の基礎解剖と運動②	肘関節、手関節の運動の学習			
14	下肢の基礎解剖と運動①	股関節、膝関節の運動の学習			
15	下肢の基礎解剖と運動②	膝関節、足関節・足部の関節の学習			
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週2時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ解剖学 2					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指す学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ解剖学 2 [ Functional Anatomy 2 ]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		関	S-S3071	
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
運動器・基礎解剖・機能解剖・スポーツ外傷・障害					
授業の目的と概要					
身体 of 全ての関節に関連する筋肉や靭帯について、その特性と機能を学ぶとともに、各関節の可動性とスポーツ外傷・障害との関連についての知識を学ぶ。					
学習の到達目標					
スポーツ解剖学 1 をベースに、関節や筋の機能についてさらに理解を深め、スポーツにおける障害や外傷についてその発生の原因などを考え、予防することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論			
2	機能概論①	体表の区分・全身の骨格と筋、運動の表し方の学習			○
3	機能概論②	運動器の構造と機能、関節の構造と機能の学習			○
4	機能概論③	靭帯の構造と機能の学習			○
5	機能概論④	筋・腱の構造と機能の学習			○
6	体幹の基礎解剖と外傷・障害①	脊柱・頸椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
7	体幹の基礎解剖と外傷・障害②	胸椎と胸郭・腰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
8	体幹の基礎解剖と外傷・障害③	仙椎・骨盤の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
9	上肢の基礎解剖と外傷・障害①	上肢帯・肩関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
10	上肢の基礎解剖と外傷・障害②	肘関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
11	上肢の基礎解剖と外傷・障害③	手関節・手の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
12	下肢の基礎解剖と外傷・障害①	股関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
13	下肢の基礎解剖と外傷・障害②	膝関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
14	下肢の基礎解剖と外傷・障害③	足関節・足部の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害			
15	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 2 時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ解剖学 1					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	トレーナー測定評価実習 [Clinical Test of Physical Strength and Fitness]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		関	S-S5072	
この授業に係る資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
測定・評価・外傷・障害予防・パフォーマンス向上					
授業の目的と概要					
スポーツ選手のコンディショニングに必要な各種測定について、それぞれの目的、測定方法（理論と技術）を正しく理解し実施できるようになる。また測定結果から選手の現状を的確に評価できる能力を身につける。					
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーにとって必要とされる各種測定の技法を学び、測定者としての正確な測定技術と測定値についての分析ができるようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション・概論①	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明（測定評価の目的・意義、測定項目）			
2	概論②	測定評価に必要な能力、体力分類、テスト条件、評価基準			
3	姿勢・身体アライメント①	姿勢・静的アライメントについて学び→測定→分析・評価			○
4	姿勢・身体アライメント②	姿勢・動的アライメントについて学び→測定→分析・評価			○
5	スポーツ動作の観察と分析①	歩行、走動作についてについて学び→測定→分析・評価			○
6	スポーツ動作の観察と分析②	跳躍動作、投動作についてについて学び→測定→分析・評価			○
7	スポーツ動作の観察と分析③	方向転換動作、あたり動作、押し動作についてについて学び→測定→分析・評価			○
8	身体組成の測定・評価	身体組成、形態測定について学び→測定→分析・評価			○
9	関節弛緩性および筋タイトネスの測定・評価	関節弛緩性・筋タイトネスについて学び→測定→分析・評価			○
10	関節可動域の測定・評価	関節可動域について学び→測定→分析・評価			○
11	徒手筋力の測定・評価	徒手筋力について学び→測定→分析・評価			○
12	筋パワー・筋持久力の測定・評価	筋パワー・筋持久力について学び→測定→分析・評価			○
13	全身持久力の測定・評価	全身持久力について学び→測定→分析・評価			○
14	新体力テストの測定・評価	新体力テストについて学び→測定→分析・評価			○
15	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ外傷・障害 1 スポーツ外傷・障害 2 コンディショニング論 検査・測定と評価実践実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論 [Principles of Exercise Rehabilitation]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	小島 丈治 ・ 小島 真由美		国	S-S3073	
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックリハビリテーションプログラムの手順・各種療法					
授業の目的と概要					
アスレティックリハビリテーションをプログラムするにはリハビリ知識や各種療法についての理解が必要である。そのために必要な基礎知識を学び、アスレティックリハビリテーションの意義や範囲を理解した上で、選手にプログラムの目的を問われたときに的確に答える事が出来るようにする。					
学習の到達目標					
アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、段階的アスレティックリハビリテーションプログラムを立てることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	アスレティックリハビリテーションとは			
2	概要 1	アスレティックリハビリテーションの意義			
3	概要 2	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理			
4	運動療法 1	可動域回復・拡大エクササイズ			○
5	運動療法 2	神経筋協調性回復・向上エクササイズ			○
6	運動療法 3	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方			○
7	傷害評価	傷害評価の考え方			○
8	機能評価	機能評価の考え方			○
9	足関節疾患	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法			○
10	膝関節疾患 1	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法			○
11	膝関節疾患 2	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法			○
12	肉離れ	肉離れに対する評価およびプログラミング方法			○
13	腰部疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法			○
14	肩関節疾患	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法			○
15	まとめ	アスレティックリハビリテーションのまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習（週 2 時間）：事後に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業初めの約 10 分を利用し解説や説明を行う					
成績評価の方法・基準					
実技試験 50% 口答試験 30% 小レポート 20%					
関連科目					
アスレティックリハビリテーション論実習					
受講上の注意					
配布資料等は最小限にする為、授業内容はノートに書き留める。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論実習 [Principles of Exercise Rehabilitation]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	小島 文治 ・ 小島 真由美		国	S-S5074	
この授業に係る資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
外傷・障害特性・競技特性					
授業の目的と概要					
アスレティックリハビリテーションは外傷・障害の特性や競技特性に応じたプログラムデザインをしなければいけない。そのため、その怪我は身体にどのようなストレスが加わると損傷するのか、身体がどのような状態であると怪我をしないかを知ることが大前提となる。そのため、怪我の評価が出来る事も重要となる。そして、競技特性に応じた全ての能力を高めるためのアスレティックリハビリテーションを作成出来るようにする。					
学習の到達目標					
外傷・障害、競技特性に応じたアスレティックリハビリテーションを作成、指導出来る。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	アスレティックリハビリテーションとは			
2	概要 1	各種リハビリテーションの意義			
3	概要 2	アスレティックリハビリテーションのリスク管理			
4	運動療法 1	各種ストレッチなど			○
5	運動療法 2	各種エクササイズについて			○
6	運動療法 3	外傷・再発予防に応じたプログラム			○
7	傷害評価	怪我の評価			○
8	機能評価	機能評価			○
9	足関節疾患	足関節アスレティックリハビリテーション			○
10	膝関節疾患 1	膝関節アスレティックリハビリテーション ACL			○
11	膝関節疾患 2	膝関節アスレティックリハビリテーション MCL など			○
12	肉離れ	肉離れアスレティックリハビリテーション			○
13	腰部疾患	腰部アスレティックリハビリテーション			○
14	肩関節疾患	肩関節アスレティックリハビリテーション			○
15	競技特性、まとめ	各種競技に合わせたアスレティックリハビリテーション			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション					
準備学習・事後学習					
準備学習：事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習：事後に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業開始約 10 分で解説などをする。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% 小レポート 30%					
関連科目					
アスレティックリハビリテーション論					
受講上の注意					
グループワークや発表を多くに行うと思うので、協力して積極的に発言する。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	衛生学及び公衆衛生学 [Hygiene and Public Health]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義	岩井 秀明		SM-S2075			
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、社会福祉主事						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
社会・環境と健康・保健統計・生活習慣病の予防と健康増進・主要疾病の疫学と対策・保健行政・母子・学校・成人保健・産業保健						
授業の目的と概要						
広く健康に関連する諸問題を理解し、予防・解決するための技術と科学的根拠について学ぶ。予防医学である本学科目の内容は幅広く、社会と健康、疫学、保健統計、環境と健康、生活習慣病の予防、栄養と運動、学校保健等と多岐にわたる。						
学習の到達目標						
衛生学及び公衆衛生的思考を身に付け、最新の統計資料・学問内容から健康、疾病に関する現状および各々のライフステージごとの健康問題を理解し、さらに変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題に対応できる。併せて健康に関する基礎的教養を身につけ説明できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	社会と健康（第1章）	A.健康・公衆衛生の概念 B.衛生・公衆衛生学そして健康科学 C.歴史				
2	感染症の疫学・予防対策（第8章）	A.病原微生物 B.感染・生体防御 C.感染防止～E.日本・世界の感染症				
3	環境と健康-1（第2章）	A.人間と環境の相互作用 B.地球規模の環境の変化				
4	環境と健康-2（第2章）	C.環境汚染と健康影響 D.公害 E.環境衛生				
5	人口統計と健康・疾病統計(第3章)	A.保健統計 B.人口静態統計 C.人口動態統計 D.生命表 E.統計調査				
6	健康状態・疾病の測定方法と疫学(第4章)	A.概念 B.疫学指標 C.疫学方法論 D.スクリーニング検査				
7	生活習慣病の予防と健康増進-1(第5章)	栄養と生活習慣 A.生活習慣 B.栄養素 C.栄養と健康～E.給食				
8	生活習慣病の予防と健康増進-2(第6章)	運動と生活習慣 A.運動と健康 B.メタボ C.特保 D.喫煙～I.事故と自殺				
9	主要疾患の疫学と対策-1（第7章）	A.病気発生と予防 B.老化と動脈硬化 C.高血圧 D.精神衛生 E.難病				
10	主要疾患の疫学と対策-2（第7章）	虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、骨・関節（ロコモ）、その他疾患				
11	地域保健・保健・医療・福祉の行政(第9章)	A.社会保障 B.国民皆保険制度 C.介護保険制度 D.国際保健				
12	母子保健と学校保健（第10章）	A.母子保健 B.妊娠・出産 C.新生児・乳児期・幼児期 D.学校保健				
13	成人保健（第11章）	A.成人保健 B.青年期 C.中年期 D.熟年期-がんと闘い E.高齢者保健				
14	産業保健-1（第12章）	A.労働と健康 B.労働災害 C.安衛法・労働安衛対策 D.産業保健従事者				
15	産業保健-2（第12章）	E.職業と健康障害 F.職業病各論				
教科書及び参考図書						
教科書：『21世紀の予防医学・公衆衛生・社会・環境と健康-』町田・岩井・木村・扇原編著「杏林書院」2022年 第4版 必ず購入すること。参考図書：『国民衛生の動向 2023/2024 第70巻 第9号』厚生労働統計協会編						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週2時間）：教員作成の資料未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題の質問、感想についてフィードバックし分かち合う。						
成績評価の方法・基準						
期末試験（60%）、毎回の講義振り返り課題提出（必須）及びその内容（40%）を統合して判断・評価する。 授業中の他教科の内職、スマホゲーム、課題のスマホ丸写し等は減点の対象とする。						
関連科目						
健康管理論						
受講上の注意						
教科書は必ず購入すること。1週間毎の準備学習、講義、事後学習を一步一步怠りなく頑張ってください。15回積み重ねると大きく実るでしょう。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	学校保健 [School Health]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	内藤 郁芳		国	S-S2077	
この授業に関する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ヘルスプロモーション・学校保健安全法・学校組織・健康問題の変化					
授業の目的と概要					
学校教育の中で、児童生徒への保健・安全教育と学校全体の保健・安全管理がどのように展開されるべきかを学び、様々な事例を考察することにより、学校現場における実践的活動のための基礎的な知識を身につける。					
学習の到達目標					
健康・体育・スポーツのスペシャリストとして、学校全体の保健・安全のための組織や活動について理解し、自分が実際の場面でどのような行動をとるべきか説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	学校保健とは	オリエンテーション・健康の定義・学校保健とは・学校保健の目的			
2	学校保健の構造・関係法令	学校保健の3領域・学校保健安全法			○
3	学校現場における現状	学校現場での活動、保健主事、健康診断 等			
4	子どもの心と体	学校における子供の心のケア・発育・発達			
5	健康観察・健康相談	健康観察、健康相談の意義・方法			
6	心の健康問題	心の健康問題とは・心の健康問題における教職員の対応			
7	学校における感染症の予防と対応	関係法令、感染症予防の3原則			○
8	学校における感染症の予防と対応 (事例演習)	新型コロナウイルス感染症への学校としての対応			○
9	特別支援教育と学校保健	特別支援教育の理念と動向・体制整備			
10	保健室と養護教諭	保健室の機能・養護教諭の役割			
11	学校安全とは	学校安全の構造・東日本大震災			○
12	体育活動中の事故防止	種目別安全対策の作成			○
13	危機管理	体育活動時における事故対応、突然死			○
14	これから求められる学校保健	今後の学校保健の充実、チーム学校、健康問題の変化			
15	まとめ・振り返り	ヘルスプロモーション、全体の総括			○
教科書及び参考図書					
参考図書：柳園順子 編著「学校保健」ミネルヴァ書房 2019年 文部科学省HP 学校保健・学校安全・食育のサイト ( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm</a> ) ※ その他、講義中の配付プリント					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週2時間) : 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習 (週2時間) : 授業内容を復習するとともに、新聞、テレビなどで今回のテーマに関連したニュースや話題などを調べてまとめる。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
各回のレポートについては、次回にコメント等を付し返却する。					
成績評価の方法・基準					
各回に課すレポートの内容 75% 全体総括のレポートの内容 25% として総合的に判断する。					
関連科目					
教職概論・教育原理・特別支援教育・教育相談					
受講上の注意					
毎回必ず出席し、各回のテーマについてのレポートと全体総括のレポートを必ず提出すること。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	体育原理 [Sports Philosophy]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S2078	
この授業に関係する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
スポーツの歴史・スポーツの現在・スポーツの未来					
授業の目的と概要					
体育やスポーツに関する歴史的な推移や意味をふまえ、現代の領域における諸問題を哲学的、倫理的に考察し、スポーツ関係者として望ましい実践に貢献できるような価値観の形成を目指す。					
学習の到達目標					
古代から現代までのスポーツや体育の歴史を理解し、それをふまえて社会における体育やスポーツの持つ意味や現代における課題と哲学的な考え方を理解し、体育・スポーツの指導者としての各自の考えを明確にし、実際の指導に活かすことができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス、授業計画	スポーツの定義、スポーツの意義と価値、社会におけるスポーツの価値、スポーツ宣言日本			
2	古代スポーツの歴史	歴史を学ぶ意味、ギリシャのスポーツと古代オリンピック			○
3	ヨーロッパのスポーツ史	古代ローマから中世ヨーロッパのスポーツの歴史			○
4	近代ヨーロッパの体育	ヨーロッパにおける体操教育			○
5	近代イギリスのスポーツ教育	イギリスのパブリックスクールのスポーツ教育			○
6	近代オリンピックの意義	オリンピックの歴史とその意義			○
7	日本の体育・スポーツの歴史	日本の体育およびスポーツの歴史			○
8	スポーツとジェンダー(1)	女性の体育・スポーツへの参加とその意義			○
9	スポーツとジェンダー(2)	女性のスポーツ参加を阻害する要因、多様化する性について、性的マイノリティとスポーツ			○
10	スポーツマンシップを考える	スポーツマンシップやフェアプレーの精神、スポーツの価値を考える			○
11	スポーツとハラスメント(1)	スポーツと暴力、スポーツと暴言、スポーツにおけるインテグリティの確保			○
12	スポーツとハラスメント(2)	スポーツとセクシュアルハラスメント、暴力・暴言・ハラスメント根絶のために			○
13	パラリンピックの意義	障がい者や障がいの理解、パラスポーツの現状と課題、パラリンピックの歴史			○
14	保健体育教師論(1)	体育教師と暴力問題			○
15	保健体育教師論(2)	体育教師と体育・スポーツ哲学			○
教科書及び参考図書					
参考図書：体育哲学原論、大橋道雄編、不昧堂出版、2011 スポーツと教育の歴史、成田十次郎編、不昧堂出版、1988					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習 (週 2 時間) : 授業中の内容を復習すること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
理解度確認レポート 70% 筆記試験 30%					
関連科目					
スポーツ指導論					
受講上の注意					
体育・スポーツに関する情報を、書籍や新聞・雑誌・インターネット等で自主的に学ぶ姿勢が求められる。また、それらの諸問題について自らの考えを文章化することや、グループやクラス全体に発信し共有できることが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	バイオメカニクス [Sports Biomechanics]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	玉木 啓一		国	S-S3079	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
スポーツ分析					
授業の目的と概要					
バイオメカニクスの基礎学問である、力学、解剖学、生理学について学びながら、バイオメカニクスを利用して、スポーツや動作を自分で解説できるように学んでいく。自ら問題意識を持って解決策を考える意欲が必要な科目である。					
学習の到達目標					
バイオメカニクスの基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かす指導ができるようになることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	力学	バイオメカニクスと各種学問の関係について学習する			
2	関節、多関節筋	身体を構成する骨格や筋肉について学習する			
3	重心、動作、負荷	重心と運動の関わりについて考える			○
4	筋力、重力、慣性	ヒトの動きを起こす力について考える			
5	パワー	力とパワーについて理解し、これを高めるトレーニングについて学習する			
6	反動動作	巧みな動き、パワフルな動きと反動動作について理解する			
7	力学的エネルギー、効率	運動の力学的エネルギーと効率について理解する			
8	流体力学	スポーツにおける、空気抵抗や水の抵抗について理解する			
9	情報量	スポーツ理解のための情報収集と測定・分析について学習する			
10	歩行、走行	これまで学習した知識を利用して、歩行・走運動について考える			○
11	位置エネルギー	これまで学習した知識を利用して、跳躍運動について考える			○
12	直線運動、円運動	これまで学習した知識を利用して、投動作について考える			○
13	打撃、打突、衝突	これまで学習した知識を利用して、打動作について考える			○
14	スキル、動作制御	運動の技術について考える			○
15	健康・スポーツへの応用	スポーツにおける課題を、バイオメカニクスを利用して考える			
教科書及び参考図書					
資料を配布					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週1時間) : 日常動作、スポーツ動作についての疑問を授業で発表できるように、課題を持つ。					
事後学習 (週3時間) : 授業で学習したことをもとに、動作についての課題解決にチャレンジする					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業中の対面でのフィードバックも予定しているが、Google Classroom を通じてのフィードバック、E-mail を利用した個別対応を行う					
成績評価の方法・基準					
課題 60%、授業中の発表・討論の内容 40%					
関連科目					
運動生理学、運動生理学実習、スポーツ解剖学					
受講上の注意					
Google Classroom には必ず登録し、定期的にチェックすること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	トレーニング科学 [Training Science]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	辻 将也・川井 明・長島 洋介			NS-S2140	
この授業に係る資格					
コーチングアシスタント、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、トレーニング指導者、スポーツ栄養士共通Ⅲ					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
スポーツ科学、トレーニング、各種トレーニングプログラム、栄養補給					
授業の目的と概要					
科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成および指導法について学び、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
目的に応じた運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる知識を身につけ、適切な指導方法を説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	スポーツトレーニングの基本的な考え方	授業ガイダンス、トレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論、トレーニング目標論、トレーニングの手段と方法論、トレーニング計画論（川井）			
2	スポーツトレーニングの理論体系	試合行動論、トレーニングアセスメント、トレーニングと休養のバランス、トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件（川井）			
3	体力学総論	体力の概念、体力の要素と体力モデル、体力の個人特性、一般的体力と専門的体力、体力トレーニング（辻）			
4	バイオメカニクス1 基礎理論	運動の記述、運動の分析（辻）			
5	バイオメカニクス2 スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	スポーツ動作、トレーニング動作（辻）			
6	トレーニング計画の立案	トレーニングの原理と原則、トレーニング計画の立案、ピリオダイゼーション（辻）			
7	筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングの効果、筋力トレーニングのプログラムの条件設定（辻）			
8	パワー向上トレーニングの理論	パワーの基本概念、スポーツや日常生活におけるパワー、短時間に大きな力を発揮する能力、パワーに類似する用語、パワー発揮様式の種類、パワーの測定と評価（辻）			
9	パワー向上トレーニングのプログラム作成	パワー向上トレーニングのプログラム戦略、トレーニングプログラム変数、反動動作における生理学的基礎、プライオメトリクスのプログラム変数、パワー向上トレーニングの長期的な計画、フィットネス分野におけるパワートレーニング（辻）			
10	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	持久力に関する基礎理論、有酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応、無酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応、持久力向上トレーニングのプログラム作成の基本、持久力向上トレーニングのプログラム作成の実際（辻）			
11	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	スピード、アジリティ、スピードを向上させる要因、基礎筋力、最大筋力、パワーの向上、コアの重要性、スピードにおける動作テクニックの獲得、アジリティ強化、オープンスキルアジリティの強化、スピード、アジリティトレーニングのプログラムデザイン、トレーニング変数（辻）			
12	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム作成	柔軟性向上のトレーニング、ストレッチング、ウォームアップとクールダウン（辻）			
13	栄養・食事計画の立案	栄養・食事計画の立案（長島）			
14	スポーツ選手の競技力向上と栄養 1	種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事（長島）			
15	スポーツ選手の競技力向上と栄養 2	目的別の食事管理、栄養サポートの実践（長島）			
教科書及び参考図書					
教科書：なし（適宜資料を配布する）					
参考図書等：「トレーニング指導者テキスト【理論編】【実践編】改訂版 大修館書店、「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。					
事後学習（週2時間）：授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
レポート課題 80% 提出物 20%					
関連科目					
トレーニング実習					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	トレーニング実習 [Practice of Training]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S4141	
この授業に関する資格					
健康運動実践指導者、トレーニング指導者、中高老年期運動指導士、スポーツインストラクター					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
各種トレーニング・ウォームアップ・クールダウン・測定と評価					
授業の目的と概要					
科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成および指導法について学び、効果的かつ安全に配慮して指導できる能力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
目的に応じた運動プログラムを作成し、効果的かつ安全に配慮して指導できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際	スタティックストレッチング、パートナーストレッチング、ダイナミックストレッチング、器具を使用したストレッチング、ウォームアップ			○
3・4	筋力トレーニングの実際① 実施方法と上半身のエクササイズ	胸部・背部・肩部・上腕部・前腕部のエクササイズ			○
5・6	筋力トレーニングの実際② 下肢及び体幹部のエクササイズ	大腿部及び股関節周辺部・下腿部・体幹部のエクササイズ			○
7・8	スピード向上トレーニングの実際① 基本動作	スピードの概念、スピード向上トレーニングの基本動作			○
9・10	スピード向上トレーニングの実際② エクササイズとドリル	スピード向上トレーニングのエクササイズ、ドリルの運用			○
11・12	パワー向上トレーニングの実際① クイックリフトとジャンプ系エクササイズ	クリーン&ジャーク、スナッチ、スクワットジャンプ			○
13・14	パワー向上トレーニングの実際② 下肢のプライオメトリクス	ジャンプ、ホップ、バウンド、リープ			○
15・16	パワー向上トレーニングの実際③ 上肢・体幹・複合体のプライオメトリクス、フィットネス分野のパワートレーニング	メディシンボールスロー、プッシュアップ、シットアップ、座位からのエクササイズ			○
17・18	持久力向上トレーニングの実際① 持久力向上トレーニング実施のガイドライン	安全に実施するガイドライン、トレーニング手段、トレーニング方法、持久力に関連するトレーニング及び環境			○
19・20	持久力向上トレーニングの実際② 各種持久力向上トレーニング	ロング・ミドル・ショートインターバルトレーニング			○
21・22	トレーニング効果の測定と効果の評価の実際	測定と評価の意義と目的、測定の一般的な注意点			
23・24	測定データの活用とフィードバックの実際① 測定データの活用と評価	測定データの活用、記述統計、ランキングや得点化による評価			
25・26	測定データの活用とフィードバックの実際② データの分析と検定、フィードバック	相関分析、回帰分析、統計的仮説検定、フィードバック			
27・28	トレーニングの運営	トレーニング機器・器具、トレーニング環境			
29・30	まとめ	まとめ			
教科書及び参考図書					
教科書：なし（適宜資料を配布する）					
参考図書等：「トレーニング指導者テキスト【実践編】改訂版 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習：授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習：授業内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
指導案 70% 課題 30%					
関連科目					
トレーニング科学					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	テーピング・マッサージ実習 [Taping and Sports Massage]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・田本 育代・佐藤 浩平			S-S4080	
この授業に関係する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
<input type="checkbox"/>	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	<input type="checkbox"/>	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	<input type="checkbox"/>	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	<input type="checkbox"/>	実社会に役立つ能力		
<input type="checkbox"/>	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
関節の構造・スポーツ傷害					
授業の目的と概要					
<p>スポーツマッサージでは、スポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技を体験することを目的とする。</p> <p>テーピングでは、基本的なテーピングの理論と技術を習得することを目的とし、関節の基本的構造と動きを理解するとともに、テーピングの理論と技術を身につける。</p>					
学習の到達目標					
<p>スポーツマッサージ：スポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項、基本的な手技について説明できる。</p> <p>テーピング：関節の基本的構造と動きを理解し、スポーツ傷害の特徴と発生機序について説明できる。</p> <p>足関節内反捻挫をはじめ、様々な部位におけるスポーツ傷害別のテーピングについて、正しい知識と技術を身につけ実施できる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	ガイダンス 定義、概要、基本的な手技	受講上の注意など スポーツマッサージの理論や注意点、基本手技の紹介			○
3・4	伏臥位のマッサージ	腰背部、臀部、下肢のマッサージ			○
5・6	伏臥位、仰臥位のマッサージ	下肢、上肢、頸部のマッサージ			○
7・8	仰臥位のマッサージ	上肢、頸部、下肢のマッサージ			○
9・10	側臥位のマッサージ	上肢、下肢、臀部のマッサージ			○
11・12	側臥位のマッサージ、伏臥位のマッサージ復習	腰背部、肩背部のマッサージ、伏臥位のマッサージを通して			○
13・14	仰臥位、側臥位のマッサージ復習	仰臥位、側臥位のマッサージをそれぞれを通して			○
15・16	まとめ	全体の総復習			○
17・18	テーピングの目的、基本的な巻き方、 足関節内反捻挫予防（基本1）	テーピングの目的、役割、種類、基礎技術 足関節の構造と動き、アンダーラップ			○
19・20	足関節内反捻挫予防（基本2）	基本の巻き方（アンカー、スターアップ、ホースシュー、ヒールロック）			○
21・22	足関節内反捻挫予防（基本3）	基本の巻き方（フィギュアエイト、オーバーラップ）			○
23・24	足関節内反捻挫予防（応用）	足関節底屈制限・足関節背屈制限			○
25・26	足部・下腿のテーピング	足部・下腿の構造と動き、足底筋膜炎・扁平足、外反母趾、アキレス腱炎			○
27・28	膝関節・大腿部のテーピング	膝関節・大腿部の構造と動き、内側側副靭帯損傷、肉離れ			○
29・30	手関節・手指のテーピング	手部・手関節の構造と動き、手関節捻挫			○
教科書及び参考図書					
<p>教科書：いちばんわかりやすいテーピング（成美堂出版）</p> <p>参考図書：改訂版 ボディ・ナビゲーション（医道の日本社）、アナトミー・トレン徒手運動療法のための筋筋膜経線（医学書院）</p> <p>また、必要に応じて資料等を適宜配付する。</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習：スポーツマッサージについては、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。</p> <p>テーピングについては、次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。</p> <p>事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業内で毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験（スポーツマッサージ・テーピング） 60% 実技試験（テーピング） 40%					
関連科目					
スポーツ解剖学 1、スポーツ医学、スポーツ医学実習					
受講上の注意					
<p>スポーツマッサージ：必ず爪を切り、ジャージ等、マッサージしやすい、されやすい服装で参加すること。適切でない場合、授業の参加を認めない。</p> <p>テーピング：テープは毎時間、必要な量を配布するので袋等を準備し、毎時間持参すること。また、無駄遣いしないこと。</p>					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	アスレティックトレーナー論 [Principles of Athletic Training]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3081	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナー・具体的業務 (任務、役割)					
授業の目的と概要					
アスレティックトレーナーの歴史からその業務内容およびスポーツドクターやコーチ、監督との連携についても学習する。					
学習の到達目標					
スポーツ活動現場におけるアスレティックトレーナーの具体的な役割を理解し、業務が遂行できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	アスレティックトレーナーとは①	アスレティックトレーナーの歴史、資格制度、業務内容			
2	アスレティックトレーナーとは②	諸外国のアスレティックトレーナーの状況と日本との違い			○
3	アスレティックトレーナーの業務①	アスレティックトレーナーの任務と役割			
4	アスレティックトレーナーの業務②	スポーツ外傷・障害の予防			
5	アスレティックトレーナーの業務③	スポーツ現場における救急処置			
6	アスレティックトレーナーの業務④	アスレティックリハビリテーション			
7	アスレティックトレーナーの業務⑤	コンディショニング			○
8	アスレティックトレーナーの業務⑥	測定と評価			○
9	アスレティックトレーナーの業務⑦	健康管理と組織運営			
10	アスレティックトレーナーの業務⑧	教育的指導			
11	コーチ・ドクターとの連携協力	サポートスタッフの役割とスポーツドクターとの連携・協力			
12	組織運営と管理①	スポーツの組織運営とアスレティックトレーナーの組織運営			○
13	組織運営と管理②	健康管理と法的諸問題			○
14	アスレティックトレーナーと倫理	アスレティックトレーナーの社会的立場と倫理			
15	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週2時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週2時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ外傷・障害 アスレティックリハビリテーション論 コンディショニング論 トレーナー測定評価実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ生理学 [Sports Physiology]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	辻 将也			S-S3082	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生理学・トレーニング・競技力向上					
授業の目的と概要					
スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技力向上に役立てることができる知識を習得することを目的とする。					
学習の到達目標					
スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技力向上に必要な情報を説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	生理学と競技力向上との関連とその応用について学習する	生理学、スポーツ、競技力向上			
2	スポーツに重要な体力要素について学習する	体力要素、体力の構成			
3	筋へのエネルギー供給の観点からスポーツについて学習する	筋、エネルギー供給機構			
4	スポーツに重要な骨格筋機能について学習する	骨格筋、筋線維組成			
5	スキル・戦術が重要なスポーツ種目について学習する	スキル・戦術、神経系			
6	スポーツ活動における呼吸循環器系の応答について学習する	呼吸循環器系			
7	体カトレーニングの原理・原則およびトレーニングについて学習する	体カトレーニングの原理・原則、			
8	環境がスポーツに及ぼす影響について学習する	環境、高地、暑熱環境、熱中症、寒冷環境			
9	疲労の生理学的意味を知り、スポーツとの関連について学習する	中枢性疲労、抹消性疲労			
10	運動やスポーツと酸化ストレスとの関連について学習する	酸化ストレス、抗酸化機能			
11	ウォームアップの生理学的意味について学習する	ウォームアップ、一般的ウォームアップ、専門的ウォームアップ			
12	クールダウンの生理学的意味について学習する	クールダウン			
13	競技力向上と栄養・サプリメントとの関連について学習する	5 大栄養素、サプリメント			
14	競技力向上のための研究・ドーピングについて学習する	研究、ドーピング			
15	まとめ	総括			
教科書及び参考図書					
教科書：なし (適宜資料を配布する)					
参考図書等：「選手とコーチのためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店、「新・スポーツ生理学」村岡編著 市村出版 日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : 授業内容に関する情報 (参考図書、インターネット等) を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習 (週 2 時間) : 授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 100%					
関連科目					
運動生理学 運動生理学実習					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	健康管理とスポーツ医学 [Health Care Administration]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 (集中) アクティブ・ラーニング	荒川 崇・太田 眞		国	S-S3084	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスリート・内科的疾患・感染症対策・海外遠征・特殊環境					
授業の目的と概要					
海外遠征時や国内での遠征時の注意点、死亡事故につながる暑熱環境についておよびドーピングコントロールなどについて幅広く、スポーツ医学の中でも特に内科系の内容を理解する。					
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーにとって必要な内科的知識を修得し、スポーツ活動現場において知識を活用できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	アスリートにみられる疾患 (1)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて			
2	アスリートにみられる疾患 (2)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて			
3	感染症対策 (1)	注意すべき感染症の種別、業態、症状と対応策			
4	感染症対策 (2)	海外遠征時における感染症対策			
5	アスリートにみられる 病的現象 (1)	病的現象の病態、症状、原因と対応策について			
6	アスリートにみられる 病的現象 (2)	摂食障害、減量障害への対応策と飲酒・喫煙などの問題について			
7	特殊環境のスポーツ医学 (1)	高所、低圧及び高圧に対する生体の反応とその環境での障害について			
8	特殊環境のスポーツ医学 (2)	暑熱環境、低温環境に対する生体の反応とその環境での障害について			
9	特殊環境のスポーツ医学 (3)	時差に対する生体の反応と海外遠征時の諸問題について			○
10	性別による特徴	性別による内科的疾患の特徴			○
11	年齢による特徴	年齢による内科的疾患の特徴			○
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの目的とその内容について			
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的とその内容について			
14	ドーピングコントロール	ドーピングコントロールについて (禁止薬物、倫理、チェック)			
15	まとめ	今までに学習したすべての領域の総復習を行い、理解度を確認する			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 健康管理とスポーツ医学 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 50% 課題提出 50%					
関連科目					
運動生理学 スポーツ医学 コンディショニング論					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ外傷・障害 1 [Acute and Chronic Sports Injuries 1]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田 睦雄		国	S-S3083	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
外傷・障害・受傷機転・病態・診断方法・応急処置・アスレティックリハビリテーション					
授業の目的と概要					
頭頸部を中心とした重篤な外傷・障害、全身の各パートにおけるスポーツ活動現場で多発する各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法について専門的に学び、理解する。					
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーの知識として、重篤な外傷・障害および多発しやすい外傷・障害についての受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法を理解し、予防と適切な処置ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	総論	講義の展開について、外傷と障害の違いについて			
2	重篤な外傷・障害①	頭頸部外傷 (頭部附坐創、頭蓋骨骨折)			
3	重篤な外傷・障害②	頭頸部外傷 (脳損傷)			
4	重篤な外傷・障害③	頭頸部外傷 (脳振とう①)			
5	重篤な外傷・障害④	頭頸部外傷 (脳振とう② SCAT3 の利用方法)			○
6	重篤な外傷・障害⑤	頭頸部外傷 (脊髄損傷)			
7	重篤な外傷・障害⑥	胸腹部外傷			
8	重篤な外傷・障害⑦	心停止、大出血			○
9	顔面の外傷・障害	目、鼻、耳、歯の外傷・障害			
10	女性に特徴的なスポーツ外傷・障害	女性に特徴的な受傷しやすいスポーツ外傷・障害			
11	多発しやすい外傷・障害①	足関節捻挫			
12	多発しやすい外傷・障害②	膝関節前十字靭帯損傷、膝関節内側側副靭帯損傷			
13	多発しやすい外傷・障害③	腰椎分離症、腰椎椎間板ヘルニア			
14	多発しやすい外傷・障害④	大腿部肉離れ			
15	多発しやすい外傷・障害⑤	コンパートメント症候群			
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 2 時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ解剖学 1・2 コンディショニング論 救急処置 スポーツ医学 アスレティックリハビリテーション論実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ外傷・障害2 [Acute and Chronic Sports Injuries 2]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田 睦雄		国	S-S3083	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
スポーツ活動・受傷機転・病態・診断方法・応急処置・アスレティックリハビリテーション					
授業の目的と概要					
全身の各パートにおいて発生する各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学び、理解する。					
学習の到達目標					
体幹・上肢・下肢のスポーツの外傷・障害について、受傷機転、病態、診断、治療方法、予防方法を理解することで、トレーナー現場での活動に活かすことができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	概論 (復習)	外傷と障害の違いについて			○
2	重篤な外傷・障害①	頭部挫創、頭蓋骨骨折、脳損傷、脳振とう			○
3	重篤な外傷・障害②	脊髄損傷、胸腹部外傷、心停止、大出血、顔面			○
4	体幹のスポーツ外傷・障害①	頸部のスポーツ外傷・障害			
5	体幹のスポーツ外傷・障害②	胸腹部、腰背部のスポーツ外傷・障害			
6	体幹のスポーツ外傷・障害③	股関節のスポーツ外傷・障害			
7	上肢のスポーツ外傷・障害①	肩部のスポーツ外傷・障害			
8	上肢のスポーツ外傷・障害②	肘関節のスポーツ外傷・障害			
9	上肢のスポーツ外傷・障害③	手・手指のスポーツ外傷・障害			
10	下肢のスポーツ外傷・障害①	大腿部のスポーツ外傷・障害			
11	下肢のスポーツ外傷・障害②	膝関節のスポーツ外傷・障害			
12	下肢のスポーツ外傷・障害③	下腿部のスポーツ外傷・障害			
13	下肢のスポーツ外傷・障害④	足関節・足部のスポーツ外傷・障害			
14	年齢による特徴	年齢によるスポーツ外傷・障害の特徴			
15	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 2 時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ解剖学 1・2 コンディショニング論 救急処置 スポーツ医学 アスレティックリハビリテーション論実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	コンディショニング論 [Conditioning]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3085	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
コンディショニング・マネジメント・スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンス向上					
授業の目的と概要					
この授業では一般的な体力の向上のみならず専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を学ぶ。また、トレーニングメニューの作成を行うために必要なスポーツ生理学などの知識を理解する。					
学習の到達目標					
専門的競技種目におけるパフォーマンスの向上のために必要な各種理論およびトレーニングメニューの作成ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション 概論	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明			
2	概論	コンディション・コンディショニングの定義			
3	コンディショニング マネジメント①	コンディショニング マネジメントとは			
4	コンディショニング マネジメント②	コンディショニングにおける身体的因子			
5	コンディショニング マネジメント③	コンディショニングにおける環境的因子			
6	コンディショニング マネジメント④	コンディショニングにおける心因的因子			
7	トレーニング計画①	トレーニングの原則			
8	トレーニング計画②	ピリオダイゼーション			
9	様々なコンディショニング①	性差における違い（女性アスリート・男性アスリート）			
10	様々なコンディショニング②	成長期、高齢者におけるコンディショニング			
11	トレーニング環境	傷害予防と環境整備			
12	競技特性とコンディショニング①	球技系競技におけるコンディショニング			○
13	競技特性とコンディショニング②	記録系、採点系競技におけるコンディショニング			○
14	競技特性とコンディショニング③	格闘系・コンタクトスポーツにおけるコンディショニング			○
15	コンディショニング プログラム作成	競技種目別コンディショニング プログラム作成			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 2 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 70% 課題 30%					
関連科目					
スポーツ解剖学 1・2 運動生理学 トレーニング科学 スポーツ医学					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	コンディショニング論実習 [Strength Training & Conditioning]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		関	S-S5086	
この授業に係る資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
コンディショニング・アスレティックトレーニング・スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンス向上					
授業の目的と概要					
アスリートのコンディショニングに必要な各種トレーニングの方法を理解し、自らが正しく安全に実施できるようになる。またアスレティックトレーナーとして正しく安全なコンディショニング指導ができる実践的指導能力を身につける。					
学習の到達目標					
各種トレーニング、ウォーミングアップ・ダウンなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラムを作成および指導することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション ウォーミングアップ・ダウン/マシントレーニング	本講義の学習内容・成績評価等に関する説明/ウォーミングアップ・ダウンの意義・目的の説明/マシントレーニングの説明・実践			
2	スタティックストレッチ/フリーウェイトトレーニング①	スタティックストレッチ、ベアストレッチ/ベンチプレスの説明・実践			
3	ダイナミックストレッチ/パルスタティックストレッチ/フリーウェイトトレーニング②	ダイナミックストレッチ、パルスタティックストレッチ/スクワットの説明・実践			
4	スタビリティトレーニング/フリーウェイトトレーニング③	スタビリティトレーニング説明・実践/テッドリフトの説明・実践			
5	アジリティ・トレーニング①/フリーウェイトトレーニング④	ラダーを用いたアジリティ・トレーニングの説明・実践/チンニングの説明・実践			
6	アジリティ・トレーニング②/部位別フリーウェイトトレーニング①	コーンを用いたアジリティ・トレーニングの説明・実践/胸部、肩部のトレーニング説明・実践			
7	クイックネス・トレーニング/部位別フリーウェイトトレーニング②	クイックネス・トレーニングの説明・実践/腰背部、上腕部のトレーニング説明・実践			
8	スピードトレーニング/部位別フリーウェイトトレーニング③	スピードトレーニングの説明・実践/臀部、大腿部のトレーニング説明・実践			
9	プライオメトリクストレーニング (基礎) /部位別フリーウェイトトレーニング④	プライオメトリクストレーニングの説明・実践 (基礎) /大腿部、下腿部のトレーニング説明・実践			
10	プライオメトリクストレーニング (発展) /レジスタンストレーニング (自重)	プライオメトリクストレーニングの説明・実践 (発展) /自重を利用したレジスタンストレーニングの説明・実践			
11	パワー系トレーニング	パワークリーン、パワースナッチ、ジャンプ系、メディスンボールトレーニングの説明・実践			
12	サーキットトレーニング/代謝系トレーニング	サーキットトレーニングの説明・実践/代謝系トレーニングの説明・実践			
13	トレーニングプログラム作成	目的別のトレーニングプログラムを作成、指導練習			○
14	トレーニングプログラム指導実践①	作成したトレーニングプログラムを指導・実践			○
15	トレーニングプログラム指導実践②	作成したトレーニングプログラムを指導・実践			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング 参考図書：日本トレーニング指導者協会 ストレngth&コンディショニング I 理論編・II エクササイズ編 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
指導実践試験 50% 課題提出 50%					
関連科目					
コンディショニング論					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生は教科書を購入することが望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	救急処置 [Emergency Treatment]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	小島 丈治 ・ 小島 真由美		国	S-S3087	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
心肺蘇生法・外傷・障害の評価・処置					
授業の目的と概要					
スポーツ現場で発生する様々な傷病に関する基礎知識、現場での評価、およびリスク管理について学び、状態に応じた正しい救急処置の手順を理解する。また、傷病発生の予防と発生時の対応計画についても理解する。					
学習の到達目標					
傷病者に対して状態の評価と適切な救急処置の方法が出来る。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	救急処置とは			
2	概要	スポーツ現場における救急処置の意義			
3	創傷の処置	創傷の種類と処置			
4	止血法	出血の種類と処置			
5	固定法	固定（テーピング、包帯など）			○
6	外傷・障害の評価	外傷の発生機序、評価手順			○
7	外傷時の処置	炎症の徴候、処置方法			○
8	内科的疾患の処置 1	熱中症の発生機序、分類、処置、予防			
9	内科的疾患の処置 2	ショック、呼吸困難の発生機序と対処			
10	内科的疾患の処置 3	その他の緊急を要する内科疾患			
11	心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義と基礎知識			○
12	心肺蘇生法	心肺蘇生法の実技			○
13	頭部外傷の処置	頭部外傷の発生機序、評価、処置			○
14	頸部外傷の処置	頸部外傷の発生機序、評価、処置			○
15	運搬法	頭頸部外傷における運搬法、留意点			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。 事後学習（週 2 時間）：事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業開始約 10 分間は解説、説明を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% 小レポート 30%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	見学実習 [Practical Observation]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習(集中) アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5088	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連					
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナーの活動現場・コミュニケーション・連携・具体的役割					
授業の目的と概要					
アスレティックトレーナーが実際に働いている姿をみることによって、具体的な仕事の内容、コーチやドクターとの関係および選手との接し方を学ぶ。得た知識を活動現場でどのように活かすのかを理解する。					
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーの仕事の実際を見学することにより、具体的な仕事の内容理解を深め、選手・チームのサポート計画を立てる能力を身につけて実務を遂行できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ~ 15	アスレティックトレーナーの具体的役割の現状を知る	アスレティックトレーナーの具体的役割の現状を知る 見学実習予定先 学内部活動 各種大会 など  実習先においてアスレティックトレーナーの活動の様子を学ぶ ○選手とのコミュニケーション ○コーチ・監督とのコミュニケーション ○スポーツドクターとの連携 ○当日の仕事の流れ ○アスレティックリハビリテーション ○現場での応急処置 ○トリートメントの様子			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をしますので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示しますので、次回実習開始時に提出すること。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート 80% 毎回のコメントシート 20%					
関連科目					
アスレティックトレーナー必修全科目					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生のための履修科目(実習)である。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	検査・測定と評価実習 [Special Test and Clinical Assessment of Injury]		2		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
講義・実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		関	S-S5089	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナー・検査・測定・客観的評価・スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンス向上					
授業の目的と概要					
レンジオブモーション（ROM）の測定、徒手筋力検査法（MMT）、各種反射試験、代謝系の測定、筋力・筋パワー測定ほか、測定と評価を行う。					
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーとして必要な検査および測定の各種項目についての理論を学び、測定手技を正確に行うことができる。またデータについて評価できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	競技者対応の検査・測定基礎	HOPSにおける競技者に関する情報収集→評価→発表			○
2	アライメント測定	身体アライメントの観察→評価→発表			○
3	関節弛緩性検査	関節弛緩性検査の手技を反復→評価→発表			○
4	関節可動域測定	関節可動域測定の手技を反復→評価→発表			○
5	筋タイトネス検査	筋タイトネス検査の手技を反復→評価→発表			○
6	筋力測定①	徒手筋力測定→評価→発表			○
7	筋力測定②	器具等を用いた筋力測定、筋パワー測定→評価→発表			○
8	持久力測定	全身持久力の測定→評価→発表			○
9	敏捷性・協調性測定	敏捷性および協調性の測定→評価→発表			○
10	身体組成検査	身体組成検査の手技と測定結果の解釈・活用→評価→発表			○
11	一般的体力測定	新体力測定→評価→発表			○
12	ダイナミックアライメント①	歩行動作の観察→分析・評価→発表			○
13	ダイナミックアライメント②	走動作の観察→分析・評価→発表			○
14	ダイナミックアライメント③	運動連鎖→分析・評価→発表			○
15	総合解釈	全測定についての総復習を行う→実技・発表			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート 80% 毎回のコメントシート 20%					
関連科目					
トレーナー測定評価実習 コンディショニング論実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生のための履修科目である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スポーツ現場実習 [Internship of Athletic Training]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5090	
この授業に関する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナー・現場活動・具体的役割					
授業の目的と概要					
トレーナー業務の遂行において必要な処置方法、記録・データ処理方法、コミュニケーション方法を学び、アスレティックトレーナーの職務を全うできる。					
学習の到達目標					
スポーツの現場におけるトレーナー活動を通して、トレーナー業務を適切に実践できる。また選手との円滑なコミュニケーションができる能力を獲得する。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの現場活動における経験を積む	チームへの帯同により日々のトレーナー業務を遂行 準備（水、アイス） テーピング ウォーミングアップのリードアップ リハビリテーション指導補助 ケガの応急処置 コンディショニングメニューのリードアップ クールダウン 運動後のトリートメント トレーナー日誌の記入 ヘッドトレーナーへの報告			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をしますので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート 80%      毎回のコメントシート 20%					
関連科目					
アスレティックトレーナー必修全科目					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生のための履修科目である。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション実践実習 [Clinical Therapeutic Exercise and Rehabilitation Technique]		2		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
講義・実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5091	
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナー・リハビリテーション・予防・回復・連携					
授業の目的と概要					
OKC、CKC プログラム、心臓循環系のプログラム、可動域訓練、徒手抵抗運動、無酸素系の運動、スピードトレーニング、アジリティトレーニングなどの各種アスレティックリハビリテーションプログラムを実践する。					
学習の到達目標					
アスレティックリハビリテーションの実践を通し、各スポーツ外傷・障害からの復帰に必要なアスレティックリハビリテーションのメニュー、進行方法を理解し、症状に適した指導ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション、アスリハ概論	本実習の学習内容・成績評価等に関する説明			
2	リハビリテーション マネジメント	SOAP ノートの書き方を学ぶ			
3	組織運営①	アスレティックトレーニングルームでの各種業務内容の確認、ミーティング			○
4	組織運営②	アスレティックトレーニングルームでの各種業務の遂行、ミーティング			○
5	メニュー作成①	各種傷害別リハビリテーションメニューの検討			○
6	メニュー作成②	各種傷害別リハビリテーションメニューの作成実践			○
7	再発予防のコンディショニング①	予防トレーニングの検討 (肩関節、肘関節)			○
8	再発予防のコンディショニング②	予防トレーニングの検討 (股関節、膝関節、足関節)			○
9	アスレティックトレーナーの役割①	アスレティックリハビリテーション/スポーツドクターとの連携			○
10	アスレティックトレーナーの役割②	スポーツドクターとの連携/SOAP ノートの作成			○
11	アスレティックトレーナーの役割③	アスレティックリハビリテーション/ヘッドトレーナーとの連携			○
12	アスレティックトレーナーの役割④	ヘッドトレーナーとの連携/SOAP ノートの作成			○
13	アスレティックトレーナーの役割⑤	アスレティックリハビリテーション/監督・コーチとの連携			○
14	アスレティックトレーナーの役割⑥	コーチ監督との連携/SOAP ノートの作成			○
15	総合解釈	これまでに実施した内容についての確認とまとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する口頭試問を実施するので復習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% 課題提出 30%					
関連科目					
スポーツ外傷・障害 1・2 アスレティックリハビリテーション論 アスレティックリハビリテーション論実習					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生のための履修科目である。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	トレーナー総合実習 [Athletic Training]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習・実習 アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5092	
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アスレティックトレーナー・現場実務・プレゼンテーション・コミュニケーション					
授業の目的と概要					
アスレティックトレーナーとして必要な各種業務を遂行できる能力を身につけるために、必要な知識と技能およびコミュニケーション能力を高める総合的な実習をおこなう。					
学習の到達目標					
フィールドにおける実習およびリハビリ室での実習を通し、応急処置、けがの予防、コンディショニング、選手の教育、アスレティックリハビリテーション、測定と評価などが総合的にできる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション・概論	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明			○
2~5	測定・評価実践①~④	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、測定・評価実践			○
6~9	応急処置①~④	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、スポーツ外傷・障害別応急処置			○
10~13	アスレティックリハビリテーション実践①~④	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践			○
14・15	総括①・②	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、前学期のまとめ (プレゼンテーション)			○
16~19	コンディショニング①~④	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、競技スポーツ種目別コンディショニング実践			○
20~23	アスレティックリハビリテーション実践⑤~⑧	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践			○
24~27	測定・評価実践⑤~⑧	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、測定・評価実践			○
28・29	総括③・④	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、後学期のまとめ (プレゼンテーション)			○
30	ディスカッション	ミーティング (スケジュール確認、インジュリレポート、アセスメント→アクション)、アスレティックトレーナーについてのディスカッション			○
教科書及び参考図書					
参考図書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻 その他：教員作成資料					
準備学習・事後学習					
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので資料を作成しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時にレポート課題を指示するので作成し、次回の実習開始時に提出すること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
プレゼンテーション 50% 課題提出 50%					
関連科目					
アスレティックトレーナー必修全科目					
受講上の注意					
アスレティックトレーナーを目指している学生のための履修科目である。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	陸上競技 1 [Basic Track & Field]		1		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	辻 将也		S-S4093		
この授業に関する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
陸上競技・トラック種目・フィールド種目					
授業の目的と概要					
陸上競技（走・跳・投種目）の基本的な技術を習得し、各種目がよりよく実践することができる力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
陸上競技に必要な基礎動作を学び、走・跳・投の基本的な技術を身につけ、よりよく実践することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業の概要（展開方法、評価方法）を説明する			
2	ウォーキングの特性と基本動作を学ぶ	ウォーキング 基本動作			○
3	正しいウォーキングフォームを習得する。ウォーキングの正しい指導法を学ぶ	ウォーキング 指導法			○
4	ジョギングの特性と基本動作を学ぶ	ジョギング 基本動作			○
5	正しいジョギングフォームを習得する。ジョギングの正しい指導法を学ぶ	ジョギング 指導法			○
6	短距離走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する	短距離走 基本動作			○
7	スプリントドリル、スタート動作を学ぶ。50m 走のタイム計測	短距離走 スプリントドリル タイムトライアル			○
8	バトンパスの方法を学ぶ。2人1組でバトンパスの練習を行う	リレー バトンパス			○
9	2人1組でのバトンパスを用いた100mリレーのタイム計測	リレー バトンパス			○
10	集団ペース走を行う	長距離走 集団走			○
11	ハードル走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する。	ハードル走 基本動作			○
12	ハードルドリルを学ぶ。50m ハードル走のタイム計測	ハードル走 ハードルドリル タイムトライアル			○
13	走り高跳びの助走（短～全助走）、踏切動作および空中動作を学ぶ	走り高跳び 踏切動作 空中動作			○
14	走り幅跳びの助走（短～全助走）および踏切動作から着地動作を学ぶ	走り幅跳び 踏切動作 着地動作			○
15	砲丸投の立ち投げとグライド投法および円盤投の立ち投げとターン投げを学ぶ	砲丸投 円盤投 立ち投げ グライド投法 ターン投げ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 健康運動実践指導者養成テキスト					
準備学習・事後学習					
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を理解し、事後学習に活用できるようにしておく。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% 運動技能 30%					
関連科目					
陸上競技 2					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	陸上競技 2 [Advance Track & Field]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S5094	
この授業に関係する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
陸上競技・指導法・トラック種目・フィールド種目					
授業の目的と概要					
短距離走、リレー、ハードル走、中・長距離走、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げの指導を行い、実践力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
陸上競技の指導法を学び、将来指導者となるために必要な指導技術を身につけ、安全に指導することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する			
2	陸上競技 1（短距離走、リレー）の復習	短距離走 リレー			○
3	短距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	短距離走 指導実践			○
4	リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	リレー 指導実践			○
5	陸上競技 1（長距離走）の復習	長距離走			○
6	長距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	長距離走 指導実践			○
7	陸上競技 1（ハードル走）の復習	ハードル走			○
8	ハードル走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	ハードル走 指導実践			○
9	陸上競技 1（走り高跳び）の復習	跳躍種目 走り高跳び			○
10	陸上競技 1（走り幅跳び）の復習	跳躍種目 走り幅跳び			○
11	走り高跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	走り高跳び 指導実践			○
12	走り幅跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	走り幅跳び 指導実践			○
13	陸上競技 1（投てき）の復習	投てき種目 砲丸投			○
14	砲丸投げの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）	砲丸投げ 指導実践			○
15	全体の総括	まとめ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：陸上競技指導教本アンダー-13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー-16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
指導実践での指導内容（指導案を含む）70% 運動技能 30%					
関連科目					
陸上競技 1					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	体操・器械運動 1 [Basic Gymnastics]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	馬場 亮輔		国	S-S4095	
この授業に関する資格					
教員免許（中学校 2 種・保健体育）、子ども身体運動発達指導士					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
器械運動・体操競技					
授業の目的と概要					
器械運動で用いられる種目に触れ、技を習得するために必要な「技術」の獲得を目的とする。 また、他者との競争や記録の向上だけを目指すのではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それらを克服する楽しさを体感する。					
学習の到達目標					
本授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達する。 教員や指導者として、模範演技や見本を見せられる技能を獲得することを到達目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業計画、内容、評価方法等の説明			
2	マット①	前転系 & 後転系			○
3	マット②	倒立技の習得（背倒立、三点倒立、二面倒立、倒立、倒立前転）			○
4	マット③	側方系（側方倒立回転 側方倒立回転とび）			○
5	マット④	実技テスト対策練習			○
6	マット⑤	実技テスト			○
7	鉄棒①	入り技（膝掛け上がり 逆上がり支持）			○
8	鉄棒②	中技（支持振動、後ろ回り支持、前回り支持）			○
9	鉄棒③	下り技（片足踏み越し下り 支持振動下向きひねり下り グライダー 振りとび下り）			○
10	鉄棒④	実技テスト対策練習			○
11	鉄棒⑤	実技テスト			○
12	跳び箱①	切り返し系（1 型開脚とび・閉脚とび）			○
13	跳び箱②	切り返し系（1 型屈身とび、2 型開脚とび・閉脚とび） & 実技テスト対策練習			○
14	跳び箱③	実技テスト			○
15	まとめ	本授業のまとめ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：「体操競技のバイオメカニクス」 著者：土屋純 講談社 「教師のための運動学」 監修：金子明友 編者：吉田茂 三木四郎 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業終了後や E-mail や Google Classroom 等で適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
実技テスト 60% 技の修得・課題解決方法への理解 40%					
関連科目					
体操・器械運動 2					
受講上の注意					
本授業が教員免許取得のための必修科目であることをよく理解の上、受講すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	体操・器械運動 2 [Advanced Gymnastics]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	馬場 亮輔		国	S-S5096	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
器械運動・体操競技					
授業の目的と概要					
主に器械運動で用いられるマット運動種目に触れ、技を実施するために必要な「技術」の獲得を目的とする。 また、マット運動において必要とされる空中感覚を養うために、トランポリンを用いた練習を行う。					
学習の到達目標					
本授業ではマット運動種目において、応用技（ハンドスプリング、バック転）の習得を目指す。 また、トランポリンを用いた練習で空中感覚を養い、自身の身体をコントロールできる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業計画、内容、評価方法等の説明			
2	マット①	前転系 & 後転系 & 倒立技の復習			○
3	マット②	側方系の復習、ハンドスプリングの導入			○
4	マット③	ハンドスプリングの習得練習① 回転時の姿勢について			○
5	マット④	ハンドスプリングの習得練習② 立ち上がり方について			○
6	マット⑤	ハンドスプリングの完成			○
7	マット⑥	後転とび（バック転）の導入			○
8	マット⑦	後転とび（バック転）習得練習① 跳び方、跳ぶ方向について			○
9	マット⑧	後転とび（バック転）習得練習② 回転時の姿勢について			○
10	マット⑨	後転とび（バック転）習得練習③ 着手、立ち方について			○
11	マット⑩	後転とび（バック転）完成			○
12	トランポリン①	基礎技（レギュレーション）			○
13	トランポリン②	応用技①（レギュレーション）空中局面でひねり動作を行う			○
14	トランポリン③	応用技②（レギュレーション）接地局面で姿勢を変化させて行う			○
15	まとめ	本授業のまとめ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：「体操競技のバイオメカニクス」 著者：土屋純 講談社 「教師のための運動学」 監修：金子明友 編者：吉田茂 三木四郎 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業終了後や E-mail や Google Classroom 等で適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
技の修得・課題解決方法への理解 70% 実技試験 30%					
関連科目					
体操・器械運動 1					
受講上の注意					
上記記載の関連科目を受講済みが望ましい。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	水泳1 [Basic Swimming]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	久保 直也			S-S4097	
この授業に関する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育）、健康運動実践指導者					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
四泳法（クロール／背泳ぎ／平泳ぎ／バタフライ）・安全管理					
授業の目的と概要					
保健体育の授業や水泳教室の運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を習得して指導法と安全管理を理解し、正しい泳法で泳ぐことができるとともに水中運動の効果を理解する。					
学習の到達目標					
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーが完泳できるとともに、水中運動の基礎技能や子どもの安全な水泳指導ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成			○
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ			○
3	4泳法：試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○
4	4泳法：クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成			○
5	4泳法：背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳			○
6	4泳法：背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○
7	4泳法：平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）			○
8	4泳法：平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成			○
9	4泳法：バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳			○
10	4泳法：バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成			○
11	水中運動	歩く、走る、レジスタンストレーニングの基礎プログラム			○
12	安全水泳(1)安全水泳の理論	安全な水泳指導法講義、水中運動プログラム			○
13	安全水泳(2)子どもの安全水泳指導	安全な子どもの水泳指導法実技練習			○
14	安全水泳(3)	子どもプール教室実習			○
15	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー			○
教科書及び参考図書					
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス					
準備学習・事後学習					
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 70% レポート課題 30%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	水泳2 [Advanced Swimming]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	高橋 季絵・久保 直也			S-S5098	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
水泳指導・安全指導					
授業の目的と概要					
クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の指導法と水中運動指導の指導法を学び、健康づくりや安全な水泳指導法を身につける。					
学習の到達目標					
保健体育や授業や水泳教室運営が可能となるように各泳法の段階的指導法を理解し、指導計画、実践、点検し、改善する能力を修得し実践できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	個人カード作成、能力判定表の作成	ガイダンス			○
2	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ	プール清掃			○
3	指導案の作成、プール管理のルールを学ぶ	指導案の作成/プールの維持管理			○
4	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習	クロールの指導法			○
5	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習	クロールの指導法			○
6	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習	背泳ぎの指導法			○
7	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習	平泳ぎの指導法			○
8	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習	バタフライの指導法			○
9	スタート、ターン、タッチ等の練習と指導	個人メドレー（スタート、ターン、タッチ等）の練習、指導			○
10	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習	模擬授業：クロール			○
11	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習	模擬授業：背泳ぎ			○
12	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習	模擬授業：平泳ぎ			○
13	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習	模擬授業：バタフライ			○
14	泳法テスト、100m 個人メドレー、10 分間泳	実技まとめ			○
15	模擬授業資料振り返り、レポート作成	授業まとめ			○
教科書及び参考図書					
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス					
準備学習・事後学習					
準備学習：テキストの泳法指導法に目を通して、指導段階を理解しておくこと。 事後学習：毎時の授業内容を学習ノートにまとめておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う					
成績評価の方法・基準					
実技試験 60% 指導レポート 40%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	球技 1 (バレーボール) [Basic Volleyball]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S4099	
この授業に関する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
バレーボールの基本的技術・ゲーム・ルール					
授業の目的と概要					
バレーボールの基本的技術 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク) を習得し、ゲームを楽しむことが出来る様にする。					
学習の到達目標					
バレーボールの特性にふれ、バレーボールの基本的な技能を身につけることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業展開についての説明 評価についての説明			
2	基礎技術 パス	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得			○
3	基礎技術 パス	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得			○
4	基礎技術 レシーブ	対人パスからレシーブ技術の習得			○
5	基礎技術 レシーブ 連携	複数人でのレシーブ技術の習得			○
6	基礎技術 スパイク	スパイクの技術習得			○
7	基礎技術 スパイク 連携	パス及びレシーブからのスパイク技術の習得			○
8	基礎技術 サーブ	サーブの技術習得			○
9	基礎技術 サーブ レシーブ	サーブからのレシーブ技術習得			○
10	基礎技術 サーブレシーブ 連携	複数人でのサーブレシーブからの攻撃展開			○
11	連携技術 ゲーム ルール	ゲームを行う際の基本的なルール解説			○
12	連携技術 ゲーム	6 人制バレーボールのゲーム			○
13	連携技術 ゲーム	6 人制バレーボールのゲーム			○
14	連携技術 ゲーム	6 人制バレーボールのゲーム			○
15	技術の確認	まとめ			
教科書及び参考図書					
参考図書：バレーボールの学習指導 小鹿野友平、朽堀申二 著 (不昧堂出版) ルールブック (財) 日本バレーボール協会					
準備学習・事後学習					
準備学習：楽しくゲームが行えるようにルールブック等を参照し、理解しておく。 事後学習：技術習得が不十分な場合には、時間外に個別で練習を行い、習得に心がける。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
技術習得状況を授業の初めに確認する。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) 80% 授業への取り組み態度 20%					
関連科目					
その他実技科目					
受講上の注意					
身体の障害・外傷について、授業前に申し出ること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	球技2 (バレーボール) [Advanced Volleyball]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S5100	
この授業に関する資格					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
バレーボール指導・プログラム・指導実践					
授業の目的と概要					
バレーボール指導に必要な技術を習得し、指導プログラムを作成する。指導プログラムに則って指導を実践する。					
学習の到達目標					
バレーボールの基本技術を確認し、指導するために必要な技術と知識を習得する。 バレーボールの基本技術を活かし、練習プログラムの作成方法を習得する。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業展開の方法及び評価方法について説明			
2	指導法 サーブ	バレーボール指導技術を習得する。(サーブ)			○
3	指導法 ディグ	バレーボール指導技術を習得する。(ディグ)			○
4	指導法 スパイク	バレーボール指導技術を習得する。(スパイク)			○
5	指導法 連携	バレーボール指導技術を習得する。(連携)			○
6	指導法 練習プログラム	バレーボール指導を想定し、練習プログラムの作成方法を習得する			○
7 ～ 14	指導法 練習プログラム 作成 実践	バレーボール指導に必要なプログラムを各自で作成し、そのプログラムに則って、展開する			○
15	レポート作成	まとめ・レポート作成			
教科書及び参考図書					
参考図書：バレーボール指導教本 (財) 日本バレーボール協会編 大修館					
準備学習・事後学習					
準備学習：事前にバレーボールの指導書を熟読し理解をして授業に取り組む。 事後学習：自分が楽しむだけでなく、指導することを考え技術の習得、ルールの理解に励む。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業の初めに技術習得状況の確認を行う。					
成績評価の方法・基準					
指導プログラムの内容と指導内容 (レポート含む) 80% 授業への取り組み態度 20%					
関連科目					
スポーツ指導論					
受講上の注意					
身体のスポーツ障害・外傷については、事前に報告すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	球技 1 (ハンドボール) [Basic Handball]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			S-S4099	
この授業に関する資格					
教員免許 (保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ハンドボール・ジャンプシュート・ルール					
授業の目的と概要					
本授業では歴史・ルールを理解することで、よりハンドボールというスポーツへの理解を深め、ハンドボールの基本的な技術を修得することを目的とする。また、授業を通して各チーム内での公正性・協調性を養い、マナー等を身につけることによって、指導者としての態度を育てる。					
学習の到達目標					
ハンドボールの歴史・ルールを理解し、説明できる。 ハンドボールの基本的な技術を修得し、実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス・ハンドボールの歴史・ルール	授業についての注意事項、ハンドボールの歴史、ルール説明			
2	基本技術 1	パス・キャッチ技術の修得 動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (ハーフコート→オールコート)			○
3	基本技術 2	動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (練習方法) 基本的なシュート技術の修得① (ステップシュート・ジャンプシュート)			○
4	基本技術 3	基本的なシュート技術の修得② (シュートコースを意識する)			○
5	基本技術 4	各ポジションにおけるシュート技術の修得、ゴールキーパー技術の解説			○
6	基本技術 5	速攻 2 : 1 での攻撃 (縦 1/2 コート) と防御			○
7	基本技術 6	速攻 1 : 0、1 : 1 での動きの修得、パスカット			○
8	グループ戦術 1	遅攻 3 : 2 (パラレルプレー) での攻撃と防御			○
9	グループ戦術 2	遅攻 3 : 2 (クロスプレー) での攻撃と防御			○
10	グループ戦術 3	遅攻 4 : 3 (ポストプレー) での攻撃と防御			○
11	ゲーム 1	簡易ゲーム (ハーフコート) における個人技術の修得とルール解説と審判法			○
12	ゲーム 2	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得			○
13	ゲーム 3	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアのつけ方			○
14	ゲーム 4	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアの活用法			○
15	まとめ	全体の総括			○
教科書及び参考図書					
参考図書 : ハンドボール指導教本 (大修館書店)、ハンドボール競技規則					
準備学習・事後学習					
準備学習 : ルールについて、競技規則や映像などで確認しておくこと。 事後学習 : 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。 ルールについての確認テストを実施し、採点して返却するとともに授業時に解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 50% ルール確認テスト 40% レポート 10%					
関連科目					
球技 2 (ハンドボール)					
受講上の注意					
体育館用のシューズ・運動ができる服装 (ジャージ) で参加すること。 爪は短く切り、アクセサリ (ネックレス・時計・指輪など) はすべて外すこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	球技2 (ハンドボール) [Advanced Handball]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			S-S5100	
この授業に関する資格					
教員免許 (保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ハンドボール・指導法・ルールの工夫					
授業の目的と概要					
この授業では、球技1 (ハンドボール) で修得した技術、戦術をもとに授業を発展させる。特に「指導法」を意識し、課題に対するグループでの発表等を通して、指導法を理解し、実践することを目的とする。そのため、授業ではグループでの取り組みを重視し、グループ活動を中心に授業を展開させていく。					
学習の到達目標					
グループで指導計画を立て、指導できる。 グループでチーム戦術を立て、実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業展開・評価についての説明 授業における注意事項とルール説明			
2	基本技術	様々なパスの練習方法の解説 1:1 突破 (フェイント) の動きづくりと防御技術の修得			○
3	グループ戦術1	様々なシュートの練習方法の解説 遅攻 2:2→4:4 の攻撃と防御			○
4	グループ戦術2	様々なディフェンスの練習方法の解説 速攻 2:2→4:4 の攻撃と防御			○
5	指導法1	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)			○
6	指導法2	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)			○
7	指導法3	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)			○
8	指導法4	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)			○
9	指導法5	与えられた課題に対するグループ発表 (指導案を作り、実際に指導する)			○
10	チーム戦術	速攻での6:6の攻撃と防御 遅攻での6:6の攻撃と防御			○
11	ゲーム1	各グループでの基本技術修得 ミニゲームにおける個人技術の修得			○
12	ゲーム2	さまざまなルールの工夫とそのルールに対応したチーム戦術の国立の組み立て			○
13	ゲーム3	ゲームにおけるチーム戦術の修得			○
14	ゲーム4	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得			○
15	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
参考図書: ハンドボール指導教本 (大修館書店)、ハンドボール競技規則、誰でも教えられる! ハンドボール (梓書院)					
準備学習・事後学習					
準備学習: 課題に対する教材研究をしておくこと。 事後学習: 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
ルールについての確認テストを実施し、採点して返却するとともに授業時に解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
グループ発表 (指導実践) 50% グループ活動記録 30% ルール確認テスト 20%					
関連科目					
球技1 (ハンドボール)					
受講上の注意					
体育館用のシューズ・運動ができる服装 (ジャージ) で参加すること。 爪は短く切り、アクセサリ (ネックレス・時計・指輪など) はすべて外すこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	球技 1 (バスケットボール) [Basic Basketball]		1		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	川井 明・新 順		S-S4099		
この授業に関する資格					
教員免許状 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
エンジョイ・バスケットボール・ファンダメンタルスキル					
授業の目的と概要					
<p>授業のテーマに「たのしい授業！うれしい上達！」を掲げ、ゲームを中心に行う。バスケットボール競技の初心者から、専門的にプレーをした経験者まで行うことができる授業である。競技経験や性別、年齢、国籍、障害の有無を問わず、すべての受講生がユニバーサルな視点で競技を楽しむことを目指す。</p>					
学習の到達目標					
<p>バスケットボール競技の基本的なスキルである、シュート・パス・ドリブルを習得し、クラスメイトと協力しながら作戦や戦術を考えて、ゲームを楽しむことが出来るようになる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	コロナ対策、授業の進め方、評価に関する説明 チーム編成			
2	レイアップシュート 1	アンダーハンドのレイアップ			○
3	レイアップシュート 2	オーバーハンドのレイアップ、レイバック			○
4	セットシュート 1	セットシュートの基本 (ボールの持ち方、姿勢、膝の使い方)			○
5	セットシュート 2	セットシュートの基本 (ゴール下のシュート、フリースロー)			○
6	パス 1	チェストパス、サイドハンドパス			○
7	パス 2	スクウェアパス			○
8	ドリブル 1	ボールハンドリング、ドリブルの基本			○
9	ドリブル 2	ボールハンドリング、状況に応じたドリブル			○
10	速攻 1	ツーマン速攻			○
11	速攻 2	スリーメン速攻			○
12	速攻 3	2 対 1、3 対 2 のアウトナンバーでの攻防			○
13	コーディネーショントレーニング	バスケットボールにおけるコーディネーショントレーニングの紹介			○
14	基礎技能の確認	シュート、パス、ドリブル等、基礎技能の確認、スキルテスト			○
15	まとめ	バスケットボール競技特性の確認			○
教科書及び参考図書					
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習：バスケットボールに関する情報を新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通じて収集すること。          事後学習：授業中の内容を復習すること。          ※授業時間外に、バスケットボールに関するさまざまな問題に関心を持つことや、自身が日常的に運動やスポーツに親しむ習慣が授業の助けとなる。</p>					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
運動技能 60% 競技特性の理解度 20% スキルテスト 20%					
関連科目					
球技 2 (バスケットボール)					
受講上の注意					
<p>基本的な競技規則や、競技特有の動き、競技用語などに興味をもち、自主的に理解をしようとする態度がのぞまれる。インターネットの動画検索サイトなどを、積極的に活用し競技の理解を深めること。体調の管理等を含め、事前に準備・学習ができる学生を歓迎する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールをプレーする上で機能的なウェアとシューズを着用し、装飾品は身に付けない。</li> <li>・ジーンズなどでの参加は認めない。運動靴で構わないが、怪我の予防の為、素足は不可とする。</li> <li>・グループやチーム活動の妨げになるので遅刻厳禁。</li> </ul>					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	球技 2 (バスケットボール) [Advanced Basketball]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	川井 明・新 順			S-S5100	
この授業に関する資格					
教員免許状 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
エンジョイ・バスケットボール・ティーチング・コーチング					
授業の目的と概要					
授業の前半は指導方法の実践、後半はゲームを行う。グループでの話し合いにより、与えられた課題に対する練習メニューを決定し、実際に指導することにより、指導方法に対する理解を深める。競技経験や性別、年齢、国籍を問わず、すべての受講生が競技を楽しめるような環境づくりを意識しながら行う姿勢が求められる。					
学習の到達目標					
球技 1 (バスケットボール) で習得した基本的な個人の技術・戦術を確認し、さらにグループやチーム戦術の応用へと発展させていくことができるようになる。また、グループごとに課題を決定し、基本的なバスケットボールの指導が出来るようになる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業の進め方 評価に関する説明			
2	基礎技能の確認	球技 1 で学んだ内容のふりかえり			○
3	1 対 1	オフェンスの考え方 アウトサイド インサイド			○
4	1 対 1	ディフェンスの考え方 アウトサイド インサイド			○
5	チームオフェンス 1	ハーフコートバスケットにおける基本的なポジショニング			○
6	チームオフェンス 2	パス&ゴー			○
7	チームオフェンス 3	スクリーンプレイを用いた攻防			○
8	ファストブレイク 1	ツーマン			○
9	ファストブレイク 2	状況に応じたスリーメンの作り方 アーリーオフェンス			○
10	チームディフェンス 1	シェルディフェンス			○
11	チームディフェンス 2	ヘルプディフェンス			○
12	チームディフェンス 3	ゾーンディフェンス			○
13	模擬授業 1	上記の内容をふまえた模擬授業の展開 1			○
14	模擬授業 2	上記の内容をふまえた模擬授業の展開 2			○
15	模擬授業 3	上記の内容をふまえた模擬授業の展開 3			○
教科書及び参考図書					
参考図書: バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習: バスケットボールに関する情報を新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通じて収集すること。 事後学習: 授業中の内容を復習すること。 ※授業時間外に、バスケットボールに関するさまざまな問題に関心を持つことや、自身が日常的に運動やスポーツに親しむ習慣が授業の助けとなる。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
技能・指導力 70% 競技特性の理解度 30% 特に、実技試験は行わないが、授業中の積極的な態度や模擬授業の内容について総合的に評価する。					
関連科目					
球技 1 (バスケットボール)					
受講上の注意					
基本的な競技規則や、競技特有の動き、競技用語などに興味をもち、自主的に理解をしようとする態度が求められる。インターネットの動画検索サイトなどを、積極的に活用し競技の理解を深めること。体調の管理等を含め、事前に準備・学習ができる学生を歓迎する。 ・バスケットボールをプレーする上で機能的なウェアとシューズを着用し、装飾品は身に付けない。 ・ジーンズなどでの参加は認めない。運動靴で構わないが、怪我の予防の為、素足は不可とする。 ・グループやチーム活動の妨げになるので遅刻厳禁。					



授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	球技 1 (サッカー) [ Basic Soccer ]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 アクティブ・ラーニング	田本 育代			S-S4099	
この授業に関する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
サッカー・ドリブル・パス・コントロール・ゲーム					
授業の目的と概要					
世界でもっとも愛され親しまれているサッカー (フットボール) を知り、仲間と共にプレーし、サッカー (フットボール) の楽しみを実践できることを目的とする。					
学習の到達目標					
サッカー (フットボール) の魅力に迫るとともに、基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールの理解を通してサッカーに対する造詣を深め、修習した技術と戦術をゲームに活かすことを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	ガイダンスとアセスメントゲーム			
2	ドリブル	スキル：様々なドリブル、ミニゲーム			○
3	コントロール	スキル：様々なコントロール、ミニゲーム			○
4	キック・パス	スキル：様々なキック、ミニゲーム			○
5	フェイント	スキル：6 種類のフェイントの習得、ミニゲーム			○
6	ターン	スキル：スクリーンと 6 種類のターン技術の習得、ミニゲーム			○
7	ポジション	テクニク：2 対 1、3 対 1、ミニゲーム			○
8	ポジション	テクニク：3 対 1、4 対 2、ミニゲーム			○
9	ポジション	テクニク：5 対 3、5 対 5、ミニゲーム			○
10	試合・チーム戦術	テクニク：11 対 11 の試合、リーグ戦			○
11	歴史	講義：サッカーの歴史			
12	ルール	講義：競技規則①			
13	ルール	講義：競技規則②			
14	システム	講義：システムの変遷			
15	振り返り	講義：振り返りとまとめ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：サッカー指導の教科書 (日本サッカー協会)					
準備学習・事後学習					
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う					
成績評価の方法・基準					
実技テスト 50%、受講意欲 50%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	武道 (柔道) [Judo]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 (集中) アクティブ・ラーニング	竹澤 稔裕・杉山 仁志・川井 明			S-S4101	
この授業に関する資格					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
柔道・受け身・投げ技・固め技					
授業の目的と概要					
柔道の創始者である嘉納治五郎師範が唱えた精力善用・自他共栄とは何かを知り、身体・精神への影響及び対人的スポーツとしての柔道の内容を理解する。技能としては、受け身、投げ技、固め技における基本動作の指導法を理解し、技術習得を目指す。					
学習の到達目標					
中学校教員として授業を行う際の基本的な技術と指導方法を身につけ、説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業を進める上での諸注意やルールの確認			
2	柔道の歴史、理念と特性	柔道の歴史を学習し、嘉納師範の考えや、柔道の特性を理解する			○
3	礼法、受け身	礼をすることの考え方や作法を学ぶ。受け身については後受け身と横受け身についての指導方法ならびに技術を学習する			○
4	受け身、基本動作	前受け身と前周り受け身についての指導方法ならびに技術を学習する			○
5	投げ技の基本動作	投げ技の基本動作における原理と指導方法について学習する			○
6	膝車、支え釣り込み足	膝車、支え釣り込み足の段階別指導方法ならびに技術を学習する			○
7	大腰、体落とし	大腰、体落としの段階別指導方法ならびに技術を学習する			○
8	固技の基本動作、袈裟固め	袈裟固めの抑え方と逃れ方の指導法ならびに技術を学習する			○
9	横四方固め、上四方固め	横四方固め、上四方固めの抑え方と逃れ方の指導法ならびに技術を学習する			○
10	大外刈り	大外刈りの段階別指導方法ならびに技術を学習する			○
11	かかり練習、約束練習、自由練習	柔道における練習方法を理解し、既習の技にて実践する			○
12	連絡技、変化技	連絡技と変化技を正しく理解すると共に、既習の技にて実践する			○
13	裸絞、送り襟絞、片羽絞	絞め技の基本的な知識の習得と実践をする			○
14	実技テスト	既習した技術の評価を行う			○
15	まとめ	これまでの授業の振り返りを行う			
教科書及び参考図書					
参考図書：中学校学習指導要領解説 保健体育編、Q&A 中・高校柔道の学習指導 大修館書店					
準備学習・事後学習					
準備学習：寒い中での活動になるので、体調管理を整え、実技に取り組めるよう努める。 事後学習：運動量が多いので、家でもストレッチ等を行うなど、疲れを残さないように努める。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
実技に関するフィードバックはその都度口頭で行い、必ず理解をしてから次のステップに進むようにする。必要に応じてレポートを課す場合は、グループワークルームにて評価を行い、フィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 50% 運動技能 50%					
関連科目					
受講上の注意					
体調・衛生管理を徹底すること。体調が悪い場合には、無理をして参加しないこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	ダンス・表現運動 [Beginning Dance Exercise]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	岡本 恵子		国	S-S4102	
この授業に関する資格					
教員免許（中学校2種・保健体育）・子ども身体運動発達指導士					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ダンス・表現					
授業の目的と概要					
ステップ・フリーズ練習や、いろいろな課題による表現、フォークダンス、キッズダンス、日本民踊、創作ダンスなどを学び、人間の表現についての理解を深めることを目的とする。また、指導者として必要な、ダンスの基礎を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
自らの体験を通して踊る楽しさを知り、ダンス学習に積極的に取り組むことができる。表現について深く理解し、お互いの個性や表現を認め合い、ダンスを通じた表現ができる。指導者として必要な、ダンスの基礎を身につけ、実践し、説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス（授業概要の説明）	ダンスの基礎知識 レポート課題			
2	ステップ・フリーズ練習 いろいろな課題による表現 1	布を使って表現 シャドーとミラー 即興			○
3	フォークダンス 1	フォークダンス基礎知識 シングルサークルのダンス ジェンカ			○
4	フォークダンス 2	ダブルサークルのダンス パティケーキポルカ			○
5	キッズダンス いろいろな課題による表現 2	英語の歌 リズムダンス			○
6	日本民踊 1	炭坑節 春駒 八木節			○
7	日本民踊 2	花笠音頭			○
8	アジアのダンス	中国 採茶舞曲			○
9	いろいろな課題による表現 3 グループ創作 1	課題表現 曲選び イメージ			○
10	いろいろな課題による表現 4 グループ創作 2	大きな布を使って表現 テーマ モチーフ			○
11	グループ創作 3	全体の流れを考える モチーフからの発展			○
12	グループ創作 4	音楽に合わせて			○
13	グループ創作 5	1つの作品にまとめる			○
14	グループ創作作品発表会	創作作品発表 ビデオ撮影 レポート提出			○
15	全体のまとめ	グループ創作作品鑑賞 全体の総括			
教科書及び参考図書					
参考図書：「ダンスの教科書」（成美堂出版） * 授業中に必要に応じて、プリント資料を配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習：日頃から身体表現・ダンスに関心を持ち、関連した番組や映像・舞台などを鑑賞し、積極的にふれるよう心がけること。 事後学習：授業内容の復習と、グループ創作作品の個人練習・グループ練習					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の授業の自己評価、レポートにコメントを入れ、返却する。					
成績評価の方法・基準					
運動技能 50%、実技試験（創作作品） 30%、レポート 20% として総合的に評価する。					
関連科目					
受講上の注意					
毎回積極的に授業に参加できるよう、体調を整えること。配布資料は、各自しっかり管理すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	グループエクササイズ実習 [Group Exercise]		1		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ		NS-S5104		
この授業に関する資格					
GFI					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
グループエクササイズ・自重負荷法・スタティックストレッチング					
授業の目的と概要					
グループエクササイズについての理解を深め、指導者としての役割を学び、実際の指導法について学習する。また、骨格筋に関する基礎知識を身につけ、安全で効果的なレジスタンスエクササイズ、ストレッチングエクササイズの知識と実技を身につける。					
学習の到達目標					
講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、レジスタンスエクササイズ、ストレッチングエクササイズを中心に指導を経験し、自分たちで対象者に合ったプログラムを組み立てて指導できるようにする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	運動実施の準備			
2	レジスタンス・ストレッチング 基本	骨格筋に関する基礎知識			○
3	レジスタンス 規定動作の実演 1	実技 レジスタンスエクササイズの基礎知識			○
4	レジスタンス 規定動作の実演 2	" 基本の動き			○
5	レジスタンス 実演及び指導	" プログラミング			○
6	レジスタンス 指導法	" 指導法			○
7	ストレッチング 規定動作の実演 1	ストレッチングエクササイズの基礎知識			○
8	ストレッチング 規定動作の実演 2	" 基本の動き			○
9	ストレッチング 実演及び指導	" プログラミング			○
10	ストレッチング 指導法	" 指導法			○
11	グループエクササイズ指導実習 1	グループエクササイズ指導の準備			○
12	" 2	グループエクササイズ指導の実際			○
13	" 3	指導者の動き			○
14	" 4	グループエクササイズのクラス運営			○
15	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
参考図書：グループエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 レジスタンスエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 ストレッチングエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会					
準備学習・事後学習					
準備学習：授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：積極的に指導実践に参加できるよう、練習しておくこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。					
成績評価の方法・基準					
実技試験 (グループ課題含む) 50% 演習ノート 25% レポート課題 25%					
関連科目					
受講上の注意					
資格取得に関わる授業も確認すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]			単位	N	S
専門教育科目	エアロビクス 1 [Basic Aerobics]			1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
実技 アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S4103		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、GFI(ADI・ADBI)、スポーツインストラクター						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力			
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力			
キーワード						
健康・体力づくり・エアロビクス						
授業の目的と概要						
フィットネスについての基本的概念とエアロビクスについての基礎知識を学ぶ。特にエアロビクスダンスについて取り上げ、今までの歴史的背景と現在の状況を理解した上で、実際に指導者になっていくためには何が必要であるかを演習形式で学ぶ。グループで実習課題に取り組みながら指導者として必要な最低限の知識と実技を身につける。						
学習の到達目標						
講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビクスダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につけ、動きを見せることができるようにする。また、基本的プログラムを理解して覚え、指導(キューイング)できるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	運動実施の準備				
2	有酸素性運動の基本	実技 エアロビクス基礎	1	アライメント	○	
3	有酸素性運動の基礎知識	"	2	目標心拍数	○	
4	エアロビクスダンスエクササイズの特徴	"	3	健康・体力づくり	○	
5	エアロビクスダンスエクササイズの基本の動き	"	4	基本のステップ	○	
6	エアロビクスダンスエクササイズの基本構成	エアロビクスダンス基本	1	ウォームアップ	○	
7	エアロビクスダンスエクササイズにおける運動強度の考え方	エアロビクスダンス基本	2	メインエクササイズ	○	
8	指導法 インストラクターの役割	エアロビクスダンス基本	3	クールダウン	○	
9	指導の循環	エアロビクスダンス応用	1	動きの指示	○	
10	キューイング	エアロビクスダンス応用	2	確認・動機づけ	○	
11	エアロビクスダンスグループ指導実習 1	プログラム作成・指導	1	構成	○	
12	" 2	プログラム作成・指導	2	展開	○	
13	" 3	プログラム作成・指導	3	完成	○	
14	" 4	プログラム作成・指導	4	発表	○	
15	まとめ	全体の総括				
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビクスダンスエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 参考図書：エアロビクスダンス基礎理論ハンドブック 池田美知子等 (有)教育インフォメーションサービス						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを日常生活に取り入れ、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキスト等で確認しておくこと。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の方法・基準						
実技試験(グループ課題を含む)50% 筆記試験 25% 演習ノート 25%						
関連科目						
受講上の注意						
資格取得に関わる授業の履修も確認すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	エアロビクス2 [Advanced Aerobics]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S5104	
この授業に関する資格					
GFI (ADI)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
グループエクササイズ・プログラミング					
授業の目的と概要					
現在フィットネスの現場で要求される「グループエクササイズインストラクター」として、最低限必要な知識及び技術の獲得を目指す。さらに目的に合ったプログラム作成、安全性を考慮した、明確で分かりやすく楽しい指導を目標に実技技能をステップアップしていく。					
学習の到達目標					
講義及び実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビクダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につけ、動きを見せることができるようにする。また、自分で目的に合った基本的なプログラムを組み立て、指導できるようにする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	運動実施の準備			
2	グループエクササイズとは	実技 指導者の役割			○
3	プログラム作成 1	運動強度を変化させる要因の活用			○
4	プログラム作成 2	動きを学習させるための学習法			○
5	プログラム作成 3	動きの組み合わせ、コンビネーション			○
6	指導法 1	指導の循環			○
7	指導法 2	動きの指示、バーバルキュー、ノンバーバルキュー			○
8	プログラム指導 1	全身運動としての調和			○
9	プログラム指導 2	確認と修正			○
10	プログラム指導 3	動機づけ・雰囲気づくり			○
11	プログラム指導 4	指導チェック			○
12	エアロビクダンスプログラム指導実践 1	エアロビクダンスエクササイズのプログラミング			○
13	エアロビクダンスプログラム指導実践 2	動きの変化要素の活用			○
14	エアロビクダンスプログラム指導実践 3	運動環境の整備			○
15	まとめ	全体の総括			
教科書及び参考図書					
教科書：エアロビクダンスエクササイズ指導理論 (公社)日本フィットネス協会 フィットネス基礎理論 (公社)日本フィットネス協会					
準備学習・事後学習					
準備学習：指導者になる意識を持って、明るく元気に休まずに出席すること。 事後学習：授業で学んだことを振り返り、指導法を実践する機会を持つこと。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。					
成績評価の方法・基準					
実技試験(指導課題含む)50% レポート課題 25% 演習ノート 25%					
関連科目					
受講上の注意					
資格取得に関わる授業も確認すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	ゴルフ1 [Basic Golf]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	江原 清浩		関	S-S4105	
この授業に関係する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生涯スポーツ・健康・体力					
授業の目的と概要					
本授業では、ゴルフの基本的な技術、ルール、マナーおよび安全への配慮の習得を目的に学習する。					
学習の到達目標					
ゴルフの基本的な知識・技能の習得し、ショートコースをラウンドできる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール			
2	ゴルフの基礎知識	用具の取扱い、グリップの握り方、安全確保の留意点			○
3	基本技術 ①	グリップ、アドレス、スタンス			○
4	基本技術 ②	スイング軸、スイング軌道			○
5	基本技術 ③	ハーフウェイバック、トップ、切り返し、インパクト、フォロー			○
6	アプローチショット	基本的なアプローチショット、ピッチショット			○
7	アイアンの打ち方 ①	クラブの特徴、番手別クラブの共通性と相違点			○
8	アイアンの打ち方 ②	打球の打ち分け方、ドローボール、フェードボール			○
9	アイアンの打ち方 ③	傾斜での打撃、左足上がり、右足下がり			○
10	ウッ드의打ち方 ①	フェアウェイウッ드의打ち方			○
11	ウッ드의打ち方 ②	ドライバーの打ち方			○
12	総合実践 ①	ショートホールを利用した実践練習			○
13	総合実践 ②	ショートコースのラウンドの仕方			○
14	総合実践 ③	ルールやマナー・エチケットの重要な確認			○
15	まとめ	上達、目標達成の確認			○
教科書及び参考図書					
参考図書：PGA 基本ゴルフ教本 公益社団法人 日本プロゴルフ協会、ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全3枚セット NHK エンタープライズ					
準備学習・事後学習					
準備学習：学習予定の内容を参考図書より学習しておく 事後学習：学習した内容を復習する					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中に適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
運動技能 50% 実技試験 50%					
関連科目					
受講上の注意					
運動のできる服装で受講すること（ジャージ、運動靴） サンダルなどは怪我防止のため禁止					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	ゴルフ2 [Intermediate Golf]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実技 アクティブ・ラーニング	江原 清浩		関	S-S5106	
この授業に関係する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生涯スポーツ・健康・体力					
授業の目的と概要					
<p>本授業では、ゴルフに対する知識および技能を発展させ、実際にコースをラウンドできる能力を身に付けることを目的とする。そのため、技術の安定性を高め、ルールや安全への配慮についても学ぶ。詳しい解説と実践を重ね、全員が上達できるように進めて行く。</p>					
学習の到達目標					
ゴルフコースをラウンドすることのできる正しい技術と、マナーとエチケットを身に付け、理想的な同伴競技者となることを目標に学習する。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	授業目標、スケジュール			
2	ゴルフの基本確認	正しいグリップ、アドレス、スイング、ゴルフの危険性			○
3	基本スイング①	アイアンでのショートスイング、腕の使い方			○
4	基本スイング②	アイアンでのハーフスイング、上半身の使い方			○
5	基本スイング③	アイアン、ウッドでのフルスイング、下半身の使い方			○
6	基本スイング④	ターゲットの捉え方、距離感と方向性			○
7	基本スイング完成に向けて①	ゴルフクラブの特性の理解、番手別クラブの共通点と相違点			○
8	プレショットルーティン	プレショットルーティンの習得、自分の癖を知る			○
9	基本スイング完成に向けて②	スイング軌道、インパクトのポイント			○
10	応用技能への発展とドリル	ゴルフ上達のためのドリル			○
11	中庭特設のショートホールを利用した実践練習	ルール解説、OB、ペナルティに対する対処法			○
12	総合実践① 技能を統合する	動画による長所・弱点の自己理解			○
13	総合実践② 実践練習	実践練習			○
14	総合実践③ 効果的なラウンドの仕方	実践練習、ルールやマナー・エチケット			○
15	まとめ	上達と目標達成の確認			○
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：PGA 基本ゴルフ教本 公益社団法人 日本プロゴルフ協会、ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全3枚セット NHK エンタープライズ</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習：学習予定の内容を参考図書より学習しておく。 事後学習：学習した内容を復習する。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
運動技能 50% 技術試験 50%					
関連科目					
受講上の注意					
運動のできる服装で受講すること（ジャージ、運動靴） サンダルなどは怪我防止のため禁止					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	サッカー・フットサル [Soccer・Futsal]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 アクティブ・ラーニング	田本 育代			S-S4108	
この授業に関係する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
サッカー・ドリブル・パス・コントロール・ゲーム					
授業の目的と概要					
世界でもっとも愛され親しまれているサッカー（フットボール）を知り、仲間と共にプレーし、サッカー（フットボール）の楽しみを実践できることを目的とする。					
学習の到達目標					
サッカー（フットボール）の魅力に迫るとともに、基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールを理解を通してサッカーに対する造詣を深め、修習した技術と戦術をゲームに活かすことを目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	ガイダンスとアセスメントゲーム			
2	ドリブル	スキル：様々なドリブル、ミニゲーム			○
3	コントロール	スキル：様々なコントロール、ミニゲーム			○
4	キック・シュート	スキル：様々なキック、シュート、ゲーム			○
5	連動	テクニク：攻撃①、ゲーム			○
6	連動	テクニク：攻撃②、ゲーム			○
7	ポゼッション	テクニク：守備①、ゲーム			○
8	ポゼッション	テクニク：守備②、ゲーム			○
9	ポゼッション	テクニク：リスタート、サインプレー			○
10	マッチゲーム	実技まとめ・試合①			○
11	マッチゲーム	試合②			
12	ルール	講義：競技規則①			
13	ルール	講義：競技規則②			
14	ゲーム	まとめゲーム①			
15	振り返り	まとめゲーム②			○
教科書及び参考図書					
参考図書：フットサルルール（日本サッカー協会編）					
準備学習・事後学習					
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う					
成績評価の方法・基準					
実技テスト 50%、受講意欲 50%					
関連科目					
サッカー・フットサル、上級サッカー、サッカー指導法					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	プログラム体験 [experience of exercise program]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・田本 育代			S-S4153	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
プログラム体験					
授業の目的と概要					
対象者別のプログラムや種目別のプログラムを体験することで、指導者として必要な能力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
さまざまな運動プログラム体験を行うことにより、指導に必要な知識や指導技術を理解し、具体的に説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ~ 15		<p>さまざまな運動プログラムについて、実施前に指導者から</p> <p>①プログラムの対象者</p> <p>②プログラムの目的</p> <p>③プログラムのポイント・注意点</p> <p>について説明を受けた上でプログラムを体験する。体験後は気づいたこと、感想等をまとめ提出する。</p> <p>運動プログラムの内容によっては、2つのグループに分かれて実施する。</p> <p>プログラム内容：ヨガ・ピラティス、高齢者運動プログラム、各種競技など</p>			○
教科書及び参考図書					
プリント・資料を適宜配付する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：次に体験する運動プログラムについて、各自で調べておくこと。 事後学習（週2時間）：授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
毎時間、プログラム体験の感想を提出し、それに対してコメントを返却する。					
成績評価の方法・基準					
提出物 100%					
関連科目					
プログラム指導・指導実践・授業研究					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	プログラム指導 [practice of exercise program instruction]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・川井 明・辻 将也			S-S4154	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
プログラム作成・運動指導					
授業の目的と概要					
対象者別のプログラムや種目別のプログラムを自ら作成して指導することで、指導者として必要な能力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
運動プログラムの作成・指導を行うことにより、指導に必要な知識や指導技術を習得し、実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ~ 15		<p>対象者に合わせた運動プログラムを作成し、指導する。          教員免許の取得を希望する学生は、中学生へ授業を意識した指導案を作成し、指導する。          インストラクターを希望する学生は、自分が希望する種目でプログラム内容を作成し、指導する。          指導後は指導内容・展開等について、参加者及び担当者と意見交換をし、課題と改善策を検討する。</p> <p>プログラム内容：エアロビクス、ヨガ・ピラティス、各種（レジスタンス）トレーニング、ストレッチング、各種競技など</p> <p>可能な限り、全員に1人で指導する機会を作るが、場合によっては複数で指導を行う場合もある。          指導担当者以外は、他の学生の指導を見学し、授業後に意見交換をする機会を持つ。</p>			○
教科書及び参考図書					
プリント・資料を適宜配付する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指導する種目について、調べておくこと。 事後学習（週2時間）：指導後の意見交換の内容をまとめておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
作成・実施した運動プログラムについて、助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
指導案（プログラム内容）50% 提出物50%					
関連科目					
プログラム体験・指導実践・授業研究					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	指導実践 [Internship of exercise program]		1		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美			S-S4155	
この授業に関する資格					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
プログラム体験・運動指導					
授業の目的と概要					
短期大学で学んだ知識や指導技術を活かして、実際の運動指導現場で実習的・研修的な指導体験を行い、実社会で必要な能力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
実習的・研修的な指導体験を行うことにより、実際の知識や指導技術を習得し、実施できる。 指導者としての自覚を高め、進路を具体的に説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ～ 15	実際の運動指導現場で指導体験を行う。 実習時期：7月下旬～9月上旬 実習回数：原則として、 実習日程：実習受け入れ先と検討して決定  高齢者運動指導、幼児体育指導、部活動指導、イベントでの指導				○
教科書及び参考図書					
プリント・資料を適宜配付する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：実習先で指導する種目について、調べておくこと。 事後学習（週2時間）：実習先での指導後の内容をまとめておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
実習報告書の内容をふまえ、課題解決にむけた指導・助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実習施設の指導担当者による評価 50% 提出物 50%					
関連科目					
プログラム体験・プログラム指導・授業研究					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	ビジネス文書 [Business Documents]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	八板 将明			S-S4143	
この授業に関係する資格					
MOS (Microsoft Office Specialist)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
マイクロソフトオフィス(Word,Excel,Powerpoint) ・ MOS (マイクロソフトオフィススペシャリスト) 検定					
授業の目的と概要					
Microsoft office のうち、特に Word を中心とした操作方法を学び、文書作成の様々な機能の習得を目的とする。					
学習の到達目標					
パソコンスキルの評価基準の一つである MOS 検定出題レベルのスキルの習得と検定合格を目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	目標、スケジュール、授業方法の共有			○
2	MOS word 模擬試験 (第一回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認①			○
3	MOS word 模擬試験 (第一回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認②			○
4	MOS word 模擬試験 (第一回)	確認テスト・タッチタイピング演習			○
5	MOS word 模擬試験 (第二回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
6	MOS word 模擬試験 (第二回)	確認テスト・タッチタイピング演習			○
7	MOS word 模擬試験 (第三回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
8	MOS word 模擬試験 (第三回)	確認テスト・タッチタイピング演習			○
9	MOS word 模擬試験 (第四回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
10	MOS word 模擬試験 (第四回)	確認テスト・タッチタイピング演習			○
11	MOS word 模擬試験 (第五回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
12	MOS word 模擬試験 (第五回)	確認テスト・タッチタイピング演習			○
13	MOS excel 模擬試験 (第一回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
14	MOS ppt 模擬試験 (第一回)	模擬試験回答・採点・正誤の確認			○
15	まとめ	学習成果の確認			
教科書及び参考図書					
参考図書・模擬試験問題：よくわかるマスター MOS Word/Excel/Powerpoint 365&2019					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : 次週のテーマについての課題紹介・自習 事後学習 (週 2 時間) : 授業の内容の反復学習					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
授業・Googleclassroom・オフィスアワーにて指導・対応。					
成績評価の方法・基準					
授業課題 90%、レポート 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)					
関連科目					
受講上の注意					
個別に準備するもの：USB メモリー (8GB 以上推奨) ・MOS 検定受験レベルの学習内容となります。受験希望者の履修が望ましい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書 2 [Business Documents 2]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習 アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S3144		
この授業に関する資格						
MOS (Microsoft Office Specialist)						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
マイクロソフト Office(Word,Excel,Powerpoint) ・ MOS 検定						
授業の目的と概要						
Microsoft office のうち、特に Excel, Powerpoint を中心とした操作方法を学び、文書作成の様々な機能の習得を目的とする。						
学習の到達目標						
ビジネス社会においてパソコンスキルの評価基準の一つである MOS 検定出題レベルのスキルの習得と検定合格を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	目標、スケジュール、授業方法の共有				○
2	Excel・表の作成・計算	データの入力、変換、保存方法、簡単な計算				○
3	Excel・文字の入力	文字の入力・変換、文章の変換、保存方法				○
4	Excel・表の計算	関数を用いて高度な計算をする				○
5	Excel・文書の作成	文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定				○
6	Excel・グラフ作成	データをもとにした様々なグラフ作成				○
7	Excel・表の作成	表の作成・レイアウト、書式				○
8	MOS 模擬試験 1	ここまでの学習範囲を踏まえ、定着度を確認する。				○
9	Ppt・ファイル管理	スライド・配布資料・ノート・オプション・表示変更・印刷				○
10	Ppt・スライドの管理	スライドの挿入・削除・変更				○
11	Ppt・スライドの管理	並べ替え・グループ化・設定				○
12	Ppt・書式設定	テキスト・リンク・図・グラフィック要素の挿入				○
13	Ppt・書式設定	表、グラフの挿入・Smart art の挿入				○
14	MOS 模擬試験 2	ここまでの学習範囲を踏まえ、定着度を確認する。				○
15	まとめ	学習成果の確認				
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS Word/Excel/Powerpoint 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 2 時間) : タイピング練習 & 次週のテーマについての課題紹介・自習 事後学習 (週 2 時間) : 授業の内容の反復学習						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
授業・Googleclassroom・オフィスアワーにて指導・対応。						
成績評価の方法・基準						
授業課題 90%、レポート 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
関連科目						
受講上の注意						
個別に準備するもの : USB メモリー (8GB 以上推奨) ・MOS 検定受験レベルの学習内容となります。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	和文化と作法 [Japanese culture and Courtesy]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習 アクティブ・ラーニング	髙 洋子		国	M-S3118		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
和文化・作法・伝統・通過儀礼・年中行事・和食文化						
授業の目的と概要						
現代社会にまで連続と引き継がれている日本文化を学ぶことによって、日本独自の生活文化をより深く理解し、実生活で役立つ豊かな知識や教養を身につける。国際社会、実社会において役立つ日本独自の作法とスタイル、その成り立ちや、国内外を問わない発信力を伴った文化理解を深める。						
学習の到達目標						
日本独自の文化を学ぶことにより、その中で培われてきた協調性や配慮、思いやりなど社会人として必要な素養をさらに高め、より良い社会生活を実現することができる。国際人として知っておきたい日本文化、衣食住の知識、技能が習得でき、なおかつ自ら説明と行動ができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など				○
2	和の文化について	和の文化とは				○
3	和室における作法	和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方等				○
4	日本の伝統的な衣服	着物文化、浴衣、作務衣など				○
5	和食について①	日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類				
6	日本料理の特徴と和食器	日本料理の陰と陽、和食器（やきもの、漆器等）				
7	和食について②	「和食」と伝統的な嗜好品（和菓子、日本茶）、和食文化考察（テーマ決め、レポート作成）				○
8	和食について③	和食文化考察、提案				○
9	道の世界	茶道、華道、書道、香道、武道とは				
10	伝統的な娯楽	歌舞伎、能、狂言とは、お抹茶のいただき方				○
11	日本の季節と節句	和の季節の感じ方、節句と二十四節季				○
12	日本の行事について	通過儀礼、日本独特の行事、祭事				○
13	日本料理店での作法	会席、茶懐石、寿司屋でのマナー				○
14	和装での立ち居振る舞い	浴衣着装、立ち居振る舞い実践、茶話会テーマ決め				○
15	総復習	テーマに沿った茶話会（抹茶を点てる、浴衣での振る舞い等）				○
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：事前に、新聞、インターネット等で情報収集しておく。生活の中で関連する項目を認知し、考察する 事後学習（週2時間）：学んだことが日常生活の中に根付いていることを意識し、疑問点等調べ、確認しながら生活を送る						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 50%、課題発表 30%、課題提出 20%などを総合的に評価する。						
関連科目						
マナー・プロトコル、ホテルビジネス概論						
受講上の注意						
身だしなみを整えたうえで臨むこと。						

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S	M
専門教育科目	マナー・プロトコル [ Manners and Protocol ]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義・演習 アクティブ・ラーニング	髙 洋子		国	M-S3119		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
マナー・プロトコル・作法・社会人に必要な技能・儀礼と節句・日本の年中行事						
授業の目的と概要						
マナー・プロトコル検定の内容を踏まえながら、就職活動と実社会で有用な基本的マナーを身につける。 また社会の国際化に伴い、他国の文化やその差異をも理解し、活動に生かせるようにする。 さらに、豊かな人間性を培い、社会に貢献できる実践力を身につけ、就職への実技訓練とともに知識と技術を精錬する。						
学習の到達目標						
社会人・国際人として必要である基本的な知識が修得でき、なおかつ自ら率先して修得した知識をもとに実践することができる。 ビジネスマナー、コミュニケーションスキルなど社会人としての基本的な知識や技術を身につけることで、就職活動、社会活動、さらには自らの生活に生かすことができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	マナー・プロトコルとは何か、授業の進め方、評価の仕方、検定試験について、受講上の注意など				○
2	基本姿勢	～第一印象について、挨拶、態度、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀、返答、滑舌、表情				○
3	言葉遣いと話し方	～正しい敬語や丁寧な話し方、クッション言葉、会話～				○
4	自己紹介と会話	～自己紹介をしてみる（笑顔、歩き方、姿勢、話し方、敬語の総練習・実践）～				○
5	プロトコルとは	～5原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～				○
6	洋食文化と作法	～料理の種類、カトラリーの使い方、会話の進め方～				○
7	和食文化と作法	～お箸、和食器、日本料理と文化～				○
8	社会人に必要なマナー	～会社とは何か、社会人意識、礼装、贈答、手紙など～				○
9	電話応対とビジネス文書	～電話応対の心得、電話の取り次ぎ方、かけ方、名刺交換～				○
10	来客応対とトラブル対応	～来客応対、茶菓応対、トラブル対応、文書の書き方～				○
11	儀礼と節句①「冠」	～知識の確認、誕生から亡くなるまでの人生における儀礼としきたり～				○
12	儀礼と節句②「婚」	～知識の確認、祝儀袋とふくさ～				○
13	儀礼と節句③「葬」	～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方～				○
14	儀礼と節句④「祭」	～知識の確認、神社の参拝の仕方～				○
15	日本の年中行事	～知識の確認、法令、待遇、その他～ まとめ				○
教科書及び参考図書						
授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。 教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会）」						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：事前にテキストの該当箇所を読み、予習しておく。生活の中で関連する項目を認知し考察する。 事後学習（週2時間）：課題で復習、授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実践してみる。疑問点等調べ、確認しながら生活する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、問題集も使用して理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の方法・基準						
筆記試験 70%、課題発表 15%、課題提出 15%などを総合的に評価する。						
関連科目						
和文化と作法						
受講上の注意						
身だしなみを整えたうえで臨むこと。						



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	ホテル概論 [Outline of Hotel]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	杉浦 康広		国	S-S2121	
この授業に関する資格					
ホテルビジネス実務検定					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ホテル・ カテゴリー・ 運営形態・ ホスピタリティ					
授業の目的と概要					
ホテル領域に関する基礎的知識を習得することを目的とする。					
学習の到達目標					
観光業界を支える重要な因子である「宿泊産業」の構造とその運営形態を理解し、その説明ができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意	オリエンテーション			○
2	観光と旅行産業	世界と日本の観光・旅行産業の現状			○
3	ホテル史①	世界のホテルの歴史			○
4	ホテル史②	日本のホテルの歴史			○
5	ホテルブランド①	日系ホテルのブランド研究			○
6	ホテルブランド②	海外ブランドホテルの研究			○
7	ホテルの経営形態①	所有直営型、賃貸借型の経営形態に関する研究			○
8	ホテルの経営形態②	マネジメントコントラクト、フランチャイズの経営形態に関する研究			○
9	近年のホテルトレンド	メガホテルチェーン、スモールラグジュアリー、ライフスタイルホテルなど			○
10	ホテルのホスピタリティ	ホテルエのホスピタリティに関して実例をもとに検討する			○
11	ホテルの部門①	宿泊部門について			○
12	ホテルの部門②	料飲部門について			○
13	ホテルの部門③	宴会部門について			○
14	ホテルの部門④	その他の部門について			○
15	ホテル研究のまとめ	プレゼンテーションなど			○
教科書及び参考図書					
参考図書：「宿泊産業論」創成社 国土交通省「観光白書」 ホテルビジネス（ベーシックレベルテキスト：基礎編）（財）ホテル教育センター 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週2時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート提出 35%、リサーチレポート提出 30%、リアクションレポート 20%、プレゼンテーション 15%					
関連科目					
受講上の注意					
常に変動する社会情勢に対しホテル業界がどのように対応できるかという好奇心・探究心をもって授業に臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	映像コミュニケーション [visual communication]		2			
授業形態	担当教員名			ナンバリング		
講義・演習 アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4145		
この授業に関係する資格						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
撮影機材（カメラ・照明・音響）・編集機材（アプリ・デバイス）・映像鑑賞						
授業の目的と概要						
撮影機材、動画編集ソフトの操作方法について演習を通じて学習する。また、SNS 動画、CM、ドラマ、映画など様々な映像コンテンツを鑑賞し、映像の構成について学習することで、映像製作ができることを目的とする。						
学習の到達目標						
スマートフォンなどのカメラ機材の特徴の説明、操作ができる。任意の動画編集ソフトの特徴について説明、操作ができる。指定されたテーマに基づいて、ストーリー構成、撮影、演出、編集ができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、受講者の興味・関心のヒアリング				○
2	映像表現の技法	作品の視聴を通して、さまざまな映像表現や手法を学ぶ				○
3	映像撮影	撮影に必要な機材の知識				○
4	映像編集① 編集アプリ	映像編集アプリの種類、特徴				○
5	映像編集② シナリオ構成	著名な作品を鑑賞し、シナリオ構成、特徴を考察する				○
6	映像編集③ 作品制作	決められたテーマに沿って作品を制作する				○
7	課題発表	作品鑑賞・ディスカッション				○
8	グループ作品制作①企画	与えられたテーマを元に企画を立てる。				○
9	グループ作品制作①制作1	企画に従って、撮影、編集作業を進める。				○
10	グループ作品制作①制作2	企画に従って、撮影、編集作業を進める。				○
11	グループ作品制作①発表	制作した作品の発表・ディスカッションを行う。				○
12	グループ作品制作②企画	与えられたテーマを元に企画を立てる。				○
13	グループ作品制作②制作1	企画に従って、撮影、編集作業を進める。				○
14	グループ作品制作②制作2	企画に従って、撮影、編集作業を進める。				○
15	グループ作品制作②発表	制作した作品の発表・ディスカッションを行う。				○
教科書及び参考図書						
参考図書：絵を見る技術 名画の構造を読み解く						
準備学習・事後学習						
準備学習（週2時間）：自身のスマートフォンやデバイスを用いた撮影練習 事後学習（週2時間）：テーマに関連する映像の鑑賞						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
オフィスアワー・Google Classroom を活用した情報共有、ディスカッションの実施						
成績評価の方法・基準						
課題 70%、レポート 30%（未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
関連科目						
受講上の注意						
自身のスマートフォンや撮影機材（カメラ・パソコン）などの使用が必要となる						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	医療事務 1、2 【Medical office work I、II】		各2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義	野木 祐子			S-S2111	
この授業に関係する資格					
メディカルーク (医科) 【主催：一般財団法人 日本医療教育財団 医療事務技能審査試験】					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
医療機関と診療報酬					
授業の目的と概要					
医療機関で従事するにあたり必要な医療保険制度、公費負担医療、診療報酬請求業務に係わる事項を学び、実社会に役立つ能力を身につける事を目的とする。					
学習の到達目標					
医療事務に必要な受付業務、会計業務、診療報酬請求業務などの知識を習得し、国公立病院、大学病院、診療所などで働くための実践的スキルをマスターする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	点数算定	【医療事務1】 オリエンテーション・初再診料			
2	点数算定	【医療事務2】 医学管理・在宅医療			
3	点数算定	【医療事務3】 処置・手術			
4	点数算定	【医療事務4】 手術・麻酔			
5	点数算定	【医療事務5】 検査			
6	点数算定	【医療事務6】 検査・病理診断			
7	点数算定	【医療事務7】 リハビリテーション・入院料			
8	点数算定	【医療事務8】 投薬			
9	点数算定	【医療事務9】 注射			
10	点数算定	【医療事務10】 画像			
11	医療保険制度	【医療事務11】 医療保険制度			
12	明細書作成	【医療事務12】 診療報酬明細書の作成			
13	明細書作成	【医療事務13】 診療報酬明細書の作成			
14	修了試験・試験対策	【医療事務14】 修了試験・技能審査問題集			
15	試験対策	【医療事務15】 技能審査問題集			
教科書及び参考図書					
・テキスト1、2、3、4 ・スタディブック ・ハンドブック ・医科診療報酬点数表 ・しっかりわかる基礎ドリル ・受験対策問題集					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週2時間) : 次回のテキスト該当ページを読む。 事後学習 (週2時間) : しっかりわかる基礎ドリル、練習問題。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
前回の内容について的小テストを実施。採点してコメントを入れ返却する。					
成績評価の方法・基準					
修了試験 60%。課題 20%。小テスト 20%。					
関連科目					
受講上の注意					
毎時間資料を配布するため、各自でしっかり管理する事。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	医療事務3 【Medical office workⅢ】		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習	島田 季代子			S-S3112	
この授業に関係する資格					
・メディカルオペレータ 【主催：一般財団法人 日本医療教育財団 医事オペレータ技能認定試験】 ・調剤報酬請求事務技能認定 【主催：一般財団法人 日本医療教育財団】					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
医事オペレータ・調剤報酬					
授業の目的と概要					
<医療事務コンピュータ>	医療機関特有のレセプトコンピュータの入力ルールや操作方法を医事ソフトで学習しながらカルテや伝票の症例をもとに実践力を身につける事を目的とする。				
<調剤報酬事務>	保険薬局特有の算定や調剤技術料の加算のしくみを知る事を目的とする。				
学習の到達目標					
<医療事務コンピュータ>	国公立病院、大学病院、診療所などで必要なコンピュータ会計システムのスキルを習得する。				
<調剤報酬事務>	調剤薬局事務員としての基礎知識を習得する。				
回	テーマ	授業内容			AL
1	医事システム	【医療事務コンピュータ1】 オリエンテーション・新患登録			
2	医事システム	【医療事務コンピュータ2】 病名登録・外来診療入力			
3	医事システム	【医療事務コンピュータ3】 外来診療入力			
4	医事システム	【医療事務コンピュータ4】 外来診療入力			
5	医事システム	【医療事務コンピュータ5】 外来診療入力・外来修正会計			
6	医事システム	【医療事務コンピュータ6】 入院基本登録・入院診療入力			
7	医事システム	【医療事務コンピュータ7】 入院会計入力			
8	医事システム	【医療事務コンピュータ8】 入院修正会計・エラー対処			
9	医事システム	【医療事務コンピュータ9】 請求書発行・レセプト発行			
10	医事システム・修了試験	【医療事務コンピュータ10】 修了試験・医事オペレータ試験対策			
11	薬学一般	【調剤報酬事務1】 薬剤の基礎知識・調剤技術料			
12	点数算定	【調剤報酬事務2】 薬剤計算・薬学管理料			
13	明細書作成	【調剤報酬事務3】 調剤報酬明細書作成			
14	明細書点検	【調剤報酬事務4】 調剤報酬明細書点検			
15	修了試験	【調剤報酬事務5】 修了試験			
教科書及び参考図書					
◆医療事務コンピュータ：・コンピュータテキスト・参考資料 ◆調剤報酬事務：・テキスト（調剤報酬編）・保険薬早見表・マイベストノート					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）： 次回のテキストを確認。 事後学習（週2時間）： <医療コンピュータ> テキストなどにて算定方法を復習しコード表にまとめる。 <調剤報酬事務> 処方箋の薬剤計算。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
<医療事務コンピュータ>	コード表まとめのチェック。修了試験での誤った箇所のサポート。				
<調剤報酬事務>	薬剤計算。明細書作成のチェック。				
成績評価の方法・基準					
<医療事務コンピュータ>	修了試験 70%。メディカルオペレータ試験合格 30%。				
<調剤報酬事務>	修了試験 70%。調剤報酬請求事務技能認定資格取得 30%。				
関連科目					
受講上の注意					
コンピュータ入力練習は毎回積み上げが大切なので、しっかりまとめを行う事。					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
専門教育科目	インターンシップ [Internship]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・八板 将明			NS-S9130	
この授業に関する資格					
レクレーション・インストラクター					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
企業研究・就業体験					
授業の目的と概要					
短期大学で学んだ知識や指導技術を活かして、企業や団体において、健康福祉や健康産業、生涯スポーツ、サービス業に関する実習的・研修的な就業体験を行い、実社会で必要な能力を身につけることを目的とする。					
学習の到達目標					
実習的・研修的な就業体験を行うことにより、実際的な知識や指導技術を習得し、実施できる。 指導者やサービス提供者としての自覚を高め、就業意識を涵養して、進路を具体的に説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1 ~ 15	<p>実習時期：12月下旬から3月下旬  実習期間：原則として、1週間（実質5日間以上）  実習日程：実習受け入れ先と検討して決定</p> <p>1回目：ガイダンス、希望調査  2・3回目：業界調査  4回目：実習先調査  5・6回目：個人調書、誓約書の作成、書類提出  7回目：コミュニケーショントレーニング  8回目：人工心肺蘇生法講習会  9回目：まとめ動画作成方法について  10回目：まとめ動画作成  11回目：授業の総括  12～3月：実習（就業体験）</p> <p>実習終了後：お礼状発送、実習日誌（含む最終レポート）提出、まとめ動画の提出、最終指導  原則として短期大学が紹介する施設の中から選択する。他に実習を希望する施設がある場合は相談に応じる。実習施設は以下のとおりである</p> <p>1. フィットネス・スポーツクラブ業務（ア）フィットネス・スポーツクラブ（イ）サッカー学校（ウ）公的スポーツ施設（エ）総合型地域スポーツクラブ（オ）スポーツ少年団（カ）その他健康フィットネス産業やプロチーム  2. 野外活動団体 3. 学童保育所 4. 福祉施設（介護施設、知的障害者授産施設など） 5. スポーツショップ  6. その他（ホテル・レストラン業務、販売業務、農業就業など）</p>				○
教科書及び参考図書					
参考図書：インターンシップの手引き、インターンシップ実習日誌（無料 授業時に配布）					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：実習の手引き、事前研修で配布される資料を読んで学内事前授業や実習の内容を確認しておくこと。 事後学習（週2時間）：実習日誌の指導コメントを読み返し、次回の課題を解決する方策や情報を確認しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
実習日誌の内容をふまえた課題解決に向けた指導助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の提出物（実習日誌） 40% 準備学習の提出物 20%					
関連科目					
社会環境とキャリア、キャリアデザイン					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	レクリエーションスポーツ実習 [Recreational Sports]		1			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
実習 アクティブ・ラーニング	福島 邦男		SM-S4131			
この授業に関係する資格						
レクリエーション・インストラクター、初級パラスポーツ指導員、子ども身体運動発達指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
レクリエーションスポーツ・みんなのスポーツ・コミュニケーションワーク						
授業の目的と概要						
現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について理解し、対象にあわせて実践する能力と、実践場面で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。						
学習の到達目標						
種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果と関連づけて実践することができる。単に種目を実践することにとどまらず、コミュニケーションをとりながら、参加することができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業の進め方	レクリエーションスポーツの特性とその目的				
2	信頼関係づくり1	課題解決活動（導入段階の活動）とホスピタリティについて実践して理解する				○
3	信頼関係づくり2	小集団活動（交流段階の活動）について体験を通して理解する				○
4	信頼関係づくり3	小集団活動（発展段階の活動）について体験を通して理解する				○
5	良好な集団づくりの方法1	アイスブレイキングについて体験を通して理解する				○
6	良好な集団づくりの方法2	アイスブレイキング要素の高いレクリエーションゲームを、体験を通して学ぶ				○
7	良好な集団づくりの方法3	アイスブレイキングの支援技術について体験を通して理解する				○
8	楽しむ力を高める方法1	課題解決型グループワークを体験する				○
9	楽しむ力を高める方法2	体験学習プログラムとしての活用方法について学ぶ				○
10	楽しむ力を高める方法3	イニシアティブゲームの展開方法について学ぶ				○
11	レクリエーション支援のプログラム1	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係わらず、誰もが楽しめるスポーツの展開				○
12	レクリエーション支援のプログラム2	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず誰もが楽しめる身体活動 歌やゲーム				○
13	パラスポーツ1	誰もが楽しめるスポーツ				○
14	パラスポーツ2	障がいの程度別の指導について				○
15	まとめ	授業で取りあげたスポーツのまとめ				
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり（財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎（財）日本レクリエーション協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業内容とキーワードに関する情報（新聞、雑誌、インターネットなど）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。 事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。						
成績評価の方法・基準						
運動技能 50% 提出物・レポート 30% 課題発表 20%						
関連科目						
受講上の注意						
スポーツウェア、シューズで、積極的に参加すること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	夏季アウトドア実習 [Summer Outdoor Activity]		1			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
実習(集中) アクティブ・ラーニング	福島 邦男		NSM-S5133			
この授業に関係する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連						
○	豊かな人間性(広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
アウトドア・夏季の自然・キャンプ						
授業の目的と概要						
夏季休業中(8月)に3泊4日の実習を行う。本実習では、アウトドアキャンプを実施する上で必要となる基礎知識および技術について実習を通して修得する。集団生活を通して参加者相互のコミュニケーションを深めながら、豊かな人間性を育み、課題を解決する自立心と創造力を身につける。併せて災害時に役立つ生活方法についても学習する。						
学習の到達目標						
3泊4日のアウトドアキャンプをやり遂げる。キャンプの基礎知識と技術を実践できる。集団生活へコミュニケーションを取りながら参加し、諸問題への解決に向けて自ら取り組むことができる。						
回	授業内容					AL
1 ~ 15	<p>学内事前授業(6月から合計3回実施する) ※感染症対策により、内容を大きく変更する可能性がある 授業概要と参加費等の説明および用具の取り扱い方法を学ぶ</p> <p>集中授業 グループを編成し、テントと寝袋を使用した簡便な方法を用いた宿泊を行う。 テント設営と環境整備、用具の安全な使用法を学習し、野外炊事による合宿を体験する。</p> <p>課題解決活動としての野外ゲーム、ハイキング、キャンプクラフト、アウトドアクッキング、自然観察、キャンプファイヤーなどの野外活動を行う。 最終日には、撤収と用具管理とについて実践を通じて学ぶ。 講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業であるため実習費(20,000円)が必要である他、雨着(レインウェア)、リュックサック等が必要となる。</p>					○
教科書及び参考図書						
<p>参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社)日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する。</p>						
準備学習・事後学習						
3泊4日の合宿形式の集中授業である。キャンプ初心者でも参加可能である。キャンプ生活に支障がないよう、日頃から運動を心がける。その日の実習の内容をふりかえり、翌日の活動に生かせる様に、体調を整えて翌日の講習に備えること。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法						
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
キャンプ技能 50% 課題解決方法の理解 30% 記録記載内容・レポート 20%						
関連科目						
受講上の注意						
夏季の自然と、野外活動での危険を理解して、工夫した生活を楽しむことを心がけること。						

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	冬季アウトドア実習 [Winter Outdoor Activity]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 (集中) アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-S5133	
この授業に関する資格					
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
アウトドア・冬季の自然・スキー					
授業の目的と概要					
3泊4日の合宿形式の授業を体験することで、共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に冬の自然を楽しむ基本技術を身につける。初心者指導法を学ぶことで、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する初心者指導法を修得する。集団生活を通して参加者相互のコミュニケーションを深めながら、豊かな人間性を育み、課題を解決する自立心と創造力を身につける。併せて指導者として必要な知識・技術も身につける。					
学習の到達目標					
3泊4日の集中授業をやりとげる。共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、楽しみながら安全に配慮した滑走ができる。初心者指導法を学習し、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する指導法で初心者指導ができる。					
回	授業内容				AL
1 ~ 15	<p>学内事前授業 (10月から合計3回実施する) ※感染症対策により、内容を大きく変更する可能性がある 授業概要と参加費等の説明および用具合わせと取り扱い方法を学ぶ</p> <p>集中授業 参加者のスキー技術レベルに応じてグループを編成し、練習する ここでは「超・スキー練習法」に基づく指導体系により、初心者は初日からブルークローゲンができる様にし、リフトを使いながら、安全に確実に滑れる様になる。経験者はスキーと身体の操作能力を高める練習をし、技術のレベルアップを図る また、個人の欠点の矯正も行い、より安全で確実な技術を身につける なお、技術指導だけでなく、スキー場での行動規則を学び、安全に配慮したマナーのある行動を身につける さらに、指導者として身につけておくべき指導法についても学習し、最終日には学生同士による模擬指導を実施する 宿舎での講義で「スキーと安全」「スキーが上手になるために」「スキー指導法」を行い、スキー技術と安全管理について学ぶ</p> <p>講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業であるため実習費 (30,000円) が必要である他、別途レンタル料、リフト券代が必要となる</p>				○
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社) 日本キャンプ協会、超・スキー練習法 野沢巖監修・指導 山海堂 その他：必要に応じて資料を配付する。</p>					
準備学習・事後学習					
3泊4日の合宿形式の集中授業である。初心者でも参加可能である。実技練習に支障がないよう、日頃から運動を心がける。実技講習の内容をふりかえり、翌日の講習に生かせる様に、体調を整えて翌日の講習に備えること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
運動技能 50% 指導法の理解 30% 記録記載内容・レポート 20%					
関連科目					
受講上の注意					
冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解して、自己の技術に則した安全な滑走を心がけること。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
専門教育科目	スクーバダイビング実習 [Scuba diving]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
実習 (集中) アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-S130	
この授業に関する資格					
スクーバダイビング Cカード (オープンウォーター)、レクリエーションインストラクター					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識		社会に貢献できる実践力		
キーワード					
スクーバダイビング					
授業の目的と概要					
<p>クーバダイビング指導団体 (DACS) の教程に従って、安全潜水のための講義講習とプール実習を学内集中授業で受講した後、2泊3日の海洋実習を行う。教材や実習にかかる経費の負担がある (8万円程度交通費・宿泊費込み)。</p>					
学習の到達目標					
スクーバダイビングの知識と知識を身につけ、希望者はオープンウォーターのCカードを取得することをめざす。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	ガイダンス	ガイダンス: Cカード取得に必要な書類の作成			
2	ダイビング、環境	講義講習 1: ダイビングと身体、ダイビングと環境			
3	スキンドайビング、スクーバ	講義講習 2: スキンドайビング、スクーバダイビング			
4	ダイビング、安全	講義講習 3: ダイビングと障害と症状、ダイビングと安全			
5	水中生物	講義講習 4: ダイビングの実際、水中生物、器材管理と点検			
6	スキンドайビング	プール講習 1: スキンドайビング実技 (シュノーケルクリア、マスククリア、潜泳、200m水面移動)			○
7	スクーバダイビング	プール講習 2: スクーバダイビング 1 (セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力)			○
8	スクーバダイビング	プール講習 3: スクーバダイビング 2 (バディプリージング、スイミングアセント)			○
9	スクーバダイビング	プール講習 4: スクーバダイビング 3 (器材脱着、各スキルの復習とチェック)			○
10	スクーバダイビング	プール講習 5: スクーバダイビング 4 (200m水面移動)			○
11	深度体験	プール講習 6: 深度体験と耳抜き、深度プールでのスキルチェック (学外実習) エントリーとエキジット			○
12	レギュレーター	海洋実習 1: スクーバダイビング 1 (セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力) (学外実習)			○
13	スクーバダイビング	海洋実習 2: スクーバダイビング 2 (バディプリージング、スイミングアセント) (学外実習)			○
14	スクーバダイビング	海洋実習 3: スクーバダイビング 3 (器材脱着) (学外実習)			○
15	潜水	海洋実習 4: 計画潜水: 30分程度のスクーバダイビング (学外実習)			○
教科書及び参考図書					
Dacs OW 教本 (実習費8万円程度に含まれる)					
準備学習・事後学習					
スクーバダイビングのライセンス取得を目指す授業である。ライセンスは2泊3日の海洋実習で4回海に潜水しないと取得できないので、日程や経費に関して十分な準備をしておくことが望ましい。50mの泳力があると安心して受講できるため水泳関係の授業の履修を勧める。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。					
成績評価の方法・基準					
実技・技能 50%、筆記試験 50%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	キャリアデザイン [Career Design Program]		2			
授業形態	担当教員名		ナンバリング			
講義・演習 アクティブ・ラーニング	小河原 佳子・三ツ目 彩菜・川井 明・田本 育代		NSM-S9138			
この授業に関する資格						
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連						
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)		健康づくりの実践的指導能力			
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得			
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力			
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力			
キーワード						
就職活動・就職試験・就業意識						
授業の目的と概要						
進路に関するインターネットでのアクセス方法 (ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など)、就職 (及び編入学、進学) 活動に必要な書類の作成、面接試験対策 (模擬個人・グループ面接) などを行い、進路決定する力を身につけることを目的とする。 自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業 (進路先またはキャリア) を探す方法を学ぶ。						
学習の到達目標						
社会人として自立できるよう職業に対する意識を高め、適した進路を選択し、決定するために必要な知識、技能を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	受講上の注意、授業内容と進行方法、心構え、評価方法について				○
2	就活に備えて (企業説明会・企業研究他)	就職活動に必要な PDCA について学ぶ				○
3	履歴書	就職活動情報収集 (企業説明会・採用状況他)				○
4	エントリーシート	週のテーマに関わらず、下記項目から、各自の希望を選び、受講又は作業、活動する				○
5	個人面接					○
6	グループ面接	①企業検索とエントリー (パソコン利用法とエントリー方法)				○
7	オンライン面接 (ZOOM)	②履歴書・エントリーシート対策				○
8	作文・小論文 編入学試験	③個人・グループ・オンライン面接対策				○
9	SPI3、一般常識・時事問題対策	④作文・小論文対策				○
10	ビジネスマナー	⑤筆記試験対策				○
11	業界研究セミナー	⑥ビジネスマナー (電話・メール・手紙のマナーなど)				○
12	企業説明会	⑦業界研究セミナー、企業説明会				○
13	就活スキルアップ	⑧スキルアップ・パソコン講習 (情報処理室)				○
14	書類作成	⑨就職活動の終了と内定後に備えて				○
15	まとめ、振り返り	(お礼・お詫び状の書き方と最終意思確認など) その他 (メイクアップ講座等)				○
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト その他、必要に応じて教材用のプリントを配布						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 2 時間) : 各自のテーマに関する章を読み、自身で必要と思う情報を集め、まとめる。 事後学習 (週 2 時間) : 中途半端で終わった場合にそのままにせず課題をしっかりと終わらせ、復習する。						
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法						
提出物を添削して返却する。						
成績評価の方法・基準						
授業ノートの提出物 (毎回の感想文、調べた資料を含む) 80% 提出物の内容 20%						
関連科目						
自己表現とキャリア、社会環境とキャリア						
受講上の注意						
企業説明会時の服装は、適宜指示があるので厳守する。						



# 教職に関する専門教育科目

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教職概論 [Introduction to Teacher Training]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	内藤 郁芳		国	NS-T2201	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラムマネジメントを含む。）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力	
	食、栄養科学の専門的知識			健康生活の知識と技術の修得	
	健康管理の指導技術の修得	○		実社会に役立つ能力	
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○		社会に貢献できる実践力	
キーワード					
教育の理念・教職観・教職務内容・教育課程					
授業の目的と概要					
教育の基礎的理解に関する科目として、教職の意義や教員の役割、職務内容について正しく理解し、学校現場において実践的に対応できる知識の修得を目指すとともに、求められる教師像をイメージし教職への意欲を高める。					
学習の到達目標					
1 教職の意義、教員の役割、職務内容について十分に理解して、伝えたり、レポートにまとめたりできる。 2 学校現場における組織や活動について理解し、自分が実際の場面でどのような行動をとるべきか説明できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	教育の理念、教職とは	刈込テジョン・教育の目的・教職の概念			
2	理想の教師像	教師になることの意味、理想の教師像			○
3	教員の役割 職務内容	学校教育法、学習指導、生徒指導 等			
4	教員の任用とサービス	教員の任用とは 教員の身分、職務上の義務、身分上の義務			
5	教員採用試験	教員採用試験の現状、各種試験内容、自己の試験対策の立案			
6	教育課程の意義	教育課程とは何か、どのような役割があるか、編成上の留意点 等			
7	良い授業とは	年間指導計画、単元計画、学習指導案			○
8	指導と評価の一体化	指導と評価、観点別評価、各種指導方法			○
9	学級経営	学校教育目標、学級目標			
10	校務分掌	校務分掌、教職員間の連携、共通理解			
11	学校組織の運営（チーム学校運営）	マネジメント機能、管理職			
12	これから求められる教師像	これからの時代の教師に求められる資質能力を身に付けるために			
13	場面指導	児童生徒の指導場面を想定してのロールプレイ			○
14	教員の心身の健康と安全	メンタルヘルス、勤務時間、会議時間、休暇制度			
15	まとめ・振り返り	ふりかえり 目標とする教師像の発表と講義のまとめ			○
教科書及び参考図書					
参考図書：成田喜一郎 監修 長瀬拓也 編著「教師になるには」一橋書店 2021年 新潟医療福祉大学教職実践研究会編「教職概論 ワークシートを用いた実践的理解」大学教育出版 2015年 川原茂雄 著「かわはら先生の教師入門 教師ブラック時代を生き抜くために」明石書店 2022年 ※ その他、講義中の配付プリント					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週2時間）：授業内容を復習するとともに、新聞、テレビなどで今回のテーマに関連したニュースや話題などを調べてまとめる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
各回のレポートについては、次回にコメント等を付し返却する。					
成績評価の方法・基準					
各回に課すレポートの内容 75% 全体総括のレポートの内容 25% として総合的に判断する。					
関連科目					
授業研究・教育原理・特別支援教育・教育相談・保健体育教育実習・栄養教育実習					
受講上の注意					
毎回必ず出席し、各回のテーマについてのレポートと全体総括のレポートを必ず提出すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教育原理 [Principles of Education]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T2202	
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校 2 種（保健体育）、栄養教諭 2 種） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ・「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む。					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
人間形成・近代教育・近代学校					
授業の目的と概要					
本科目の目的は、教育や学校の特徴と課題について、自身の考えを述べるようになることである。近代以降の教育と学校を、教育学では近代教育と近代学校と呼ぶ。これらは何故誕生し、どのような特徴や課題を有しているのか。教職を希望する学生は、これらの問いについて理解を深める必要がある。こうした問いを深めるために、本科目では「教育に関する歴史および思想についての基礎的な知識」と「教育に関する制度的および経営的事項について基本的な知識」について学習する。					
学習の到達目標					
教育や学校の歴史および現状についての学習を通して、教育や学校教育の特徴と課題を分析することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、教育の意義、教育学を学ぶ意義			
2	学校の歴史	学校の歴史、近代学校、学校教育の意義			○
3	西洋教育史 1	コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチ			
4	西洋教育史 2	フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ			
5	現代の学校教育の課題を考える 1	いじめ、不登校			○
6	現代の学校教育の課題を考える 2	モンスターベアレント、英語教育			○
7	現代の学校教育の課題を考える 3	道徳教育、SNS			○
8	教育制度の歴史と基本原理	上構型、下構型			
9	学校教育制度の概要	教育基本法、学校教育法			
10	学校経営の在り方 1	学校教育目標、学校づくり			○
11	学校経営の在り方 2	開かれた学校づくり、学校評価			○
12	チーム学校 1	同僚性、協働			○
13	チーム学校 2	学校と地域との協働			
14	学校安全	学校安全計画、危機管理			○
15	ふりかえり	総括			○
教科書及び参考図書					
参考図書：木村元ほか『教育学をつかむ』有斐閣、2019年、改訂版。 中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：指示されたキーワードについて調べる。 事後学習（週 2 時間）：講義内容に関して、分からなかった点については図書館等を利用して調べる。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。					
成績評価の方法・基準					
定期試験 70%、毎回課す小レポート 30%					
関連科目					
教育方法の理論と実践					
受講上の注意					
受講者には、「単位取得のための勉強」ではなく、「自身の教養を深めるための学び」を求める。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	発達と学習の心理学 [Psychology of Learning and Development]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	太田 千瑞			NS-T2203	
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生涯発達・ライフサイクル論・学習理論					
授業の目的と概要					
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、一人一人の児童・生徒に寄り添った指導を行うことを目指す。					
学習の到達目標					
1.発達段階における発達の特徴、発達課題について説明できる 2.発達段階、学習理論に基づいて児童生徒の行動の心理的背景について考察できる 3.問題行動や向社会的行動の生起頻度を変容させる方法を考えることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	発達と学習を学ぶ意義	生涯発達、発達心理学、学習心理学			
2	発達に関する諸理論	ライフサイクル理論、認知発達理論、心理社会的危機			
3	幼児期・学童期の発達	基本的信頼、勤勉性、学級集団			
4	青年期の発達① 青年期の特徴と課題	自我同一性、ジェンダー、ダイバシティ			○
5	青年期の発達② アイデンティティの確立過程	アイデンティティ・ステータス、モトリアム、キャリア発達			
6	親子・きょうだい関係とこころ	養育態度、愛着、相互作用説			
7	発達・学習に関する検査	Q-U検査、知能検査、学習評価			
8	欲求と動機	欲求階層説、自己決定理論、防衛機制			
9	レスポント条件づけ	生得的行動、習得的行動、条件反射			
10	オペラント条件づけ	三項随伴性、強化・弱化、プログラム学習			
11	さまざまな学習の形	評価条件づけ、見本合わせ課題、ルール支配行動			
12	応用行動分析	強化スケジュール、確率操作、随伴性ダイアグラム			○
13	行動変容法	行動療法、認知療法、認知行動療法			○
14	発達と学習の諸問題	発達障害、学習障害、カウンセリング			○
15	総合・まとめ	発達理論、学習理論			
教科書及び参考図書					
参考図書・参考資料等 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦 編『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房、小野浩一 著『行動の基礎』培風館、飯牟礼悦子・北風菜穂子・草柳和之・児玉敬一・杉田明弘 著『教職のための教育心理学と教育相談』大東文化大学教職課程センター					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：参考図書やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週2時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用するために、さらなる探究や調べ学習を行うこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
提出された課題などについてはフィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
授業における発問に対する回答回数や回答内容（ルーブリック評価）・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%					
関連科目					
教育方法の理論と実践 生徒・進路指導論 教育相談 等					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	特別支援教育 [special needs education]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	太田 千瑞		国	NS-T3204	
この授業に係る資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校二種・保健体育、栄養教諭二種） ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
特別支援教育の理念・ICF・特別支援教育の仕組みと制度・障害種ごとの特性と支援					
授業の目的と概要					
教職課程の科目として、特別支援教育に関する基礎的な内容を扱い、必要な知識を獲得するとともに、教員として障害のある子ども等に必要な支援や配慮を行えるようにする。					
学習の到達目標					
1. 特別支援教育の理念や現状について理解し、言葉や文章で相手に伝えることができる。 2. 特別支援教育の仕組みと制度、特別支援学校の目標等を理解し、説明したり、レポートにまとめたりできる。 3. 障害種ごとの特性を理解し、それに応じた必要な支援を理解し、説明したり、レポートにまとめたりできる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	特別支援教育の理念と歴史	障害のとらえ方として ICF や ICIDH を知り、特別支援教育に関する法的根拠について学ぶ。			
2	特別支援教育の仕組みと制度①	障害者の権利条約に至るまでの障害者施策に関わる国内外の動向や中央教育審議会報告等について知り、主な法律の内容や具体的な施策としてインクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、障害者差別解消法、就学基準等について学び考える。			○
3	特別支援教育の仕組みと制度②	特別支援教育の仕組みと制度として、個別的教育支援計画、個別の指導計画、校内委員会、センター的機能、特別支援教育コーディネーター、交流及び共同学習等について学ぶ。			
4	特別支援教育の仕組みと制度③	特別支援教育の仕組みと制度として、特別支援学校の学習指導要領等から特別支援学校の目標、教育課程の編成、準ずる教育、自立活動、特別支援学校の学級経営等について学ぶ。			
5	障害種ごとの特性と支援①	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由児の生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT 活用、ケース検討等について学ぶ。			
6	障害種ごとの特性と支援②	知的障害、病弱、重複障害、医療的ケア児の生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT 活用、ケース検討等について学ぶ。			
7	障害種ごとの特性と支援③	発達障害として、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害児の生活上学習上の困難さ、必要な支援、ICT 活用、ケース検討等について学ぶ。			
8	特別支援教育の今後の展望	共生社会の実現にむけて、特別支援教育の課題をまとめ、今後の展望について、議論し整理する。			○
教科書及び参考図書					
参考図書：特別支援教育の基礎・基本 新訂版―共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築―、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所、2015					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、現在どのような障害者施策が行われているか、学校生活を振り返ったり、参考書やインターネット等を活用したりして考えを整理して授業に臨む。 事後学習（週2時間）：授業の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
各回の課題や小テストについては、フィードバックとして、次回に返却し、課題や解答の解説を行う。					
成績評価の方法・基準					
授業参加の意欲・態度（発言回数、発問に対する誠意を持った回答、資料を活用するなどした質の高いレポート）50% 各回の課題や小テスト 50%					
関連科目					
教職概論、教育原理、授業研究、保健体育教育実習、栄養教育実習 他					
受講上の注意					
提示された課題に対し考えをまとめ発表できるようにしておく。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	道徳教育の理論と実践 [Moral Education and Teaching Methods]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T3205	
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種（保健体育）、栄養教諭2種） ・道徳の理論及び指導法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
特別の教科 道徳（道徳科） ・ 考える道徳 ・ 学習指導案					
授業の目的と概要					
<p>本科目の目的は、道徳科の目標や内容の要点を説明することができるようになること、指導計画を考案できるようになることである。日本の学校における道徳教育は、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」の二つから構成される。前者と比較した際、後者に求められる役割は何であるのか。この問いの追求は、道徳科の授業を構想し実践する上で必要不可欠である。この問いを深めるために、本科目では道徳科の目標や内容などについて学習する。</p>					
学習の到達目標					
「考える道徳」の要点をもとにしながら、道徳科の授業の指導計画を立案することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績判定の方法			
2	道徳教育の歴史	教育勅語、修身、徳目主義			
3	特別の教科 道徳	資料読解型の授業、考える道徳			
4	学習指導案 1	指導計画			○
5	学習指導案 2	発問、評価			○
6	学習指導案 3	学習指導案の作成			○
7	模擬授業 1	模擬授業、授業研究			○
8	模擬授業 2	模擬授業、授業研究			○
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：中学校学習指導要領、小学校学習指導要領（平成29年3月公示）          中学校学習指導要領解説 道徳編、小学校学習指導要領解説 道徳編（文部科学省）          ＊文部科学省ホームページ 中学校学習指導要領解説よりダウンロードすることができる。</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週2時間）：指示されたキーワードの意味を調べること。          事後学習（週2時間）：授業で分からなかった内容を調べる。学習指導案の作成に取り組むこと。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。					
成績評価の方法・基準					
定期試験 50%、学習指導案 30%、毎回課す小レポートの内容 20%					
関連科目					
教育方法の理論と実践					
受講上の注意					
受講者には、単位取得のためではなく、自身の教養を深めるために本科目の問いと内容を学んでほしい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	総合的な学習の時間指導法 [Teaching Methods for the Period for Integrated Studies]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3207	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・総合的な学習の時間の指導法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
総合的な学習の時間・探究活動・指導計画・評価					
授業の目的と概要					
総合的な学習の時間の意義を理解し、探究的な見方・考え方による横断的・総合的な学習とその方法について、実践的に学ぶ。実社会・実生活を踏まえた課題を決め、課題解決に向けて多角的な調査を行う為に、計画を立てて課題解決に取り組むことの重要性を理解した上で、総合的な学習の時間の指導計画の立案や評価に必要な知識・技能を身につけることを目指す。					
学習の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育むための指導計画が立てられる。</li> <li>・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えるための授業づくりができる。</li> <li>・総合的な学習の時間における具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価方法を説明できる。</li> </ul>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	学習指導要領	総合的な学習の時間の意義と役割			
2	総合的な学習の時間の位置づけ	総合的な学習の時間の目標及び内容の定めかた			
3	学習計画 指導計画	学習計画の立案と指導計画			○
4	学習計画 取り組みの事例	学習計画の具体的事例			○
5	アクティブ・ラーニング	主体的で対話的な学びについて			○
6	取り組みと評価	探求的な学習の過程と具体的手立て			
7	地域との連携	総合的な学習の時間の評価			
8	まとめ	授業のまとめ			
教科書及び参考図書					
参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』平成29年7月 参考図書：文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』平成29年7月 その他：必要に応じて配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：授業内容とキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回の話し合いに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週2時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎回配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。					
成績評価の方法・基準					
毎時間の提出物 60% レポート 40%					
関連科目					
受講上の注意					
教師として児童生徒の前に立つという自覚を持って参加すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	特別活動指導法 [Special Activities]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3206	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育、栄養教諭2種） ・特別活動の指導法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
特別活動・話し合い活動					
授業の目的と概要					
教員免許状取得に向けて、小学校及び中学校学習指導要領における特別活動の領域について、その特質・活動内容を学習しながら、学校教育全体における特別活動の意義について学ぶ。さらに、児童・生徒が集団や社会における役割と責任を自覚して、人間形成し自己実現して行くうえで必要となる教師の役割を十分に果たすための基礎的知識と具体的指導内容・方法を、実際例をあげながら学習し、実践する。					
学習の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育全体における特別活動の意義を理解して説明できる。</li> <li>・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点で捉えることができる。</li> <li>・学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付け実践できる。</li> </ul>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	学習指導要領	授業の進め方、特別活動の目標と内容			
2	特別活動の位置付け	特別活動と他の教科等との関連について			
3	学級活動、話し合い活動、合意形成	学級活動について 学級活動のねらい			○
4	児童会活動、生徒会活動	児童会活動、生徒会活動の特質とねらい			○
5	クラブ活動、学校行事	クラブ活動、学校行事それぞれの特質について			○
6	取り組みと評価	特別活動の指導の在り方について			
7	地域との連携	合特別活動における、家庭・地域、関係諸機関との連携について			
8	評価と改善活動	特別活動における取り組みの評価・改善活動			
教科書及び参考図書					
参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』平成29年7月 参考図書：文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』平成29年7月 その他：必要に応じて配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：授業内容とキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週2時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎回配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。					
成績評価の方法・基準					
毎時間の提出物・レポート 60% 筆記試験 40%					
関連科目					
受講上の注意					
教師として児童生徒の前に立つという自覚を持って参加すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教育方法の理論と実践 [Theory and Practice of Educational Method]		1		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
講義 アクティブ・ラーニング	村井 輝久		NS-T3208		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校 2 種（保健体育）、栄養教諭 2 種） ・教育の方法及び技術					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
授業づくり					
授業の目的と概要					
<p>本科目の目的は、授業づくりに関する視点の学習を通じて、受講者それぞれが考える「よりよい授業」をつくるための方法を説明することができるようになることである。授業づくりは、「よりよい授業」の実現を目指して行うものである。教職を希望する学生には、「よりよい授業とは何か？」という問いを追求しながら、「よりよい授業」をつくるための視点を身につけることが求められる。具体的には、教育目標の設定や教育評価などの視点である。本科目では、これら授業づくりの視点について学習する。</p>					
学習の到達目標					
「よりよい授業」をつくるための方法について、自身の考えを述べることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、成績判定の方法、授業づくりの視点			
2	教育目標	目標づくり、教育目標の分類学			○
3	カリキュラム編成	工学的アプローチ、羅生門的アプローチ			○
4	教育内容の意義と課題	教材研究			○
5	主体的・対話的で深い学び	知識の構造化、教科の本質			○
6	教育評価 1	絶対評価、相対評価、目標に準拠した評価			○
7	教育評価 2	診断的評価、形成的評価、総括的評価			○
8	まとめ	総括			○
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020 年。 中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988 年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週 2 時間）：指示されたキーワードの意味を調べること。 事後学習（週 2 時間）：授業の内容に関して分からなかったことを復習すること。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。					
成績評価の方法・基準					
最終レポート 60%、毎回課す小レポート 40%					
関連科目					
教育原理、道徳教育の理論と方法					
受講上の注意					
受講者には、「よりよい授業とは何か？」という問いを持って受講することを求める。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	ICT 活用の理論と実践 [Theory and practice of ICT utilization]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	村井 輝久・八板 将明			NS-T2209	
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種（保健体育）、栄養教諭2種） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
ICT 活用・授業づくり					
授業の目的と概要					
本科目では、教育における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解することを目指す。それとともに、本科目では、教育における情報通信技術の活用方法を学習するとともに、その技術を活用した授業や校務の在り方について立案できるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
教育における ICT 活用の意義と課題を考慮しながら、その技術を活用した授業や校務の在り方を立案することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション、現代社会における ICT の役割	ICT			
2	授業における ICT の活用 1	個別最適な学び、学習履歴、教育評価			○
3	授業における ICT の活用 2	協働的な学び、学習履歴、教育評価			○
4	特別支援における ICT の活用	視覚的な理解、入出力支援			○
5	校務における ICT の活用	校務の情報化、情報管理			○
6	学びを支える情報活用能力	情報活用能力、リテラシー			○
7	情報モラルの重要性	情報モラル、セキュリティ			○
8	ふりかえり	授業、授業づくり、ICT			○
教科書及び参考図書					
参考図書：文部科学省「教育の情報化に関する手引き―追補版―」令和2年6月。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指示されたキーワードの意味を調べること。 事後学習（週2時間）：授業内容に関して分からなかったことを復習すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学生に対するフィードバックは、オフिसアワー、または Google Classroom 等を通して行う。					
成績評価の方法・基準					
最終レポート 60%、授業課題 40%					
関連科目					
教育方法の理論と実践					
受講上の注意					
受講者には、「よりよい授業とは何か？」という問いを持って受講することを求める。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	生徒・進路指導論 [Student and Career Guidance]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	村井 輝久・内藤 郁芳			NS-T3210	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種（保健体育）、栄養教諭2種） ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
生徒指導・進路指導・人間関係づくり					
授業の目的と概要					
本講義は、生徒指導および進路指導の意義と課題、またそのあり方を学習する科目である。前者は個性の伸長や社会性の育成を目指すものであり、後者は子どもの進路選択やキャリア形成を促すものである。これらは、学習指導と並んで重要な教育機能を有している。そこで本講義では、生徒指導および進路指導の意義、目的、方法などについて自身の考えを説明することができるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
生徒指導と進路指導のよりよい在り方について、それらの意義と課題を考慮しながら、自身の考えを分かりやすく説明することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション(担当：村井、内藤)	授業の概要と進め方、成績判定の方法			
2	生徒指導のあり方(担当：村井)	児童生徒理解、学校的社会化			○
3	生徒指導の事例検討(担当：内藤)	体罰、懲戒			○
4	SNS利用の指導(担当：村井)	情報モラル、情報リテラシー			○
5	いじめ問題(担当：内藤)	いじめ			○
6	学校における集団生活(担当：村井)	望ましい人間関係づくり			○
7	キャリア教育および進路指導の理論(担当：村井)	基礎的・汎用的能力、キャリア・パスポート			○
8	進路指導のあり方(担当：内藤)	キャリア教育の課題、キャリア教育の事例検討			○
教科書及び参考図書					
参考図書：生徒指導提要（令和4年年12月 文部科学省）。 江川玟成編『生徒指導の理論と方法』三訂版、学芸図書、2010年。 その他：必要に応じて、プリントを配布する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：指示されたキーワードの意味を調べること。 事後学習（週2時間）：授業に関して分からなかったことを復習すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
学生に対するフィードバックは、オフィスアワー、または Google Classroom 等を通して行う。					
成績評価の方法・基準					
レポート課題 50%、授業課題 50%					
関連科目					
教育原理					
受講上の注意					
受講者には、授業中の課題や話し合いなどに積極的に取り組んでほしい。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	保健体育科教育法 [Teaching Theory & Methods Physical Education]		2		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
講義 アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・辻 将也		S-T3212		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校 2 種・保健体育） ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
保健体育・情報機器操作・指導案					
授業の目的と概要					
中学校の教育における「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導計画（案）の作成、保健体育授業の内容・方法を身につけ、実践できるようになることを目的とする。					
学習の到達目標					
学習指導要領を中心とした中学校の保健体育科教員に必要な知識を身につけ、適切に指導できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	体育分野 1 第 1 章 総則	総則			
2	体育分野 2 第 1 章 総則 保健体育の目標	総則 目標			
3	体育分野 3 第 1 学年及び第 2 学年 目標	体づくり運動、器械運動			
4	体育分野 4 第 1 学年及び第 2 学年	陸上競技、水泳、球技			
5	体育分野 5 第 1 学年及び第 2 学年	武道、ダンス、体育理論			
6	体育分野 6 第 3 学年 目標	体づくり運動、器械運動			
7	体育分野 7 第 3 学年	陸上競技、水泳、球技			
8	体育分野 8 第 3 学年	武道、ダンス、体育理論			
9	体育分野 9 内容の取扱い	体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳			
10	体育分野 10 内容の取扱い 情報機器・教材の活用法	球技、武道、ダンス、体育理論、情報機器操作、指導案			○
11	保健分野の目標・内容	健康な生活と疾病の予防			
12	保健分野の内容	心身の機能の発達と心の健康			
13	保健分野の内容及び取扱い	傷害の防止、健康と環境			
14	指導案作成 1	保健分野、指導案			○
15	指導案作成 2 情報機器・教材の活用法	保健分野、指導案、情報機器操作			○
教科書及び参考図書					
教科書：中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、中学体育実技、中学校保健体育					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 2 時間）：毎回授業の初めに前回授業の内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の方法・基準					
筆記テスト 80% 課題 20%					
関連科目					
受講上の注意					

授業科目区分	科目名 [ 英文名 ]		単位	N	S
教職専門科目	授業研究 [ Study of Class Teaching ]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	福島 邦男・川井 明・内藤 郁芳		国	S-T3213	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育） ・大学が独自に設定する科目					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
○	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
学習指導要領・学習指導案・模擬授業					
授業の目的と概要					
<p>体育授業を展開するための諸条件について実践的に探究する。模擬授業担当以外の学生は生徒役となって授業を分析、検討する。グループは教員側で割り振る（部活等で経験していないものの模擬授業を担当する）。模擬授業時は各種目の専門実技教員がサポートする。</p>					
学習の到達目標					
<p>学習指導案を作成することができる。模擬授業を実践することができる。模擬授業の反省会では自分の意見を持って参加することができる。体育の教材について理解し、授業実践に活かせる。</p>					
回	テーマ	授業内容			AL
1	学習指導要領と学習指導案	オリエンテーションと指導案作成の準備			
2	指導案作成 1	学年計画と単元計画			
3	指導案作成 2	本時のねらい 声かけと評価			
4	集団行動	集団行動の基本の確認と実践			○
5	体育分野領域 A 体づくり運動	体づくり運動の模擬授業			○
6	体育分野領域 B 体操器械運動	体操器械運動の模擬授業			○
7	体育分野領域 C 陸上競技 1	陸上競技の模擬授業（短距離・リレー）			○
8	体育分野領域 C 陸上競技 2	陸上競技の模擬授業（ハードル走）			○
9	体育分野領域 E 球技 1	球技の模擬授業 1（サッカー）			○
10	体育分野領域 E 球技 2	球技の模擬授業 2（バレーボール）			○
11	体育分野領域 E 球技 3	球技の模擬授業 3（バスケットボール）			○
12	体育分野領域 E 球技 4	球技の模擬授業 4（ハンドボール）			○
13	体育分野領域 F 武道	武道の模擬授業（剣道）			○
14	模擬授業の反省	反省会と今後の課題の検討 1			○
15	まとめ	教育実習へむけて			○
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 29 年 7 月  その他：適宜資料を配布する</p>					
準備学習・事後学習					
<p>準備学習（週 2 時間）：模擬授業実施のための準備を行う。また、自分の担当以外の模擬授業からも自分の授業に活かせる点を見つけ、実際に活かすことで授業研究全般について理解を深める。  事後学習（週 2 時間）：模擬授業後に内容を改めて検討し、改善策を明示する。模擬授業の指導案は保管しておき、改善していく。</p>					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。					
成績評価の方法・基準					
指導案 40% 模擬授業 40% 各回に課す小レポート 20%					
関連科目					
受講上の注意					
教師として児童生徒の前に立つという自覚を持って参加すること。					



授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教育相談 [School Counseling]		1		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	太田 千瑞			NS-T3211	
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校 2 種・保健体育、栄養教諭 2 種） ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
教育相談・生徒指導・カウンセリング					
授業の目的と概要					
教育相談は児童生徒の個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、一人一人の児童生徒を理解し、課題解決に向けた支援を行うための基礎的知識、実践的方法を身に付けることを目指す。					
学習の到達目標					
1.児童・生徒のこころの理解に教育相談の理論を活用できる。2.アセスメント技法とカウンセリングの基礎的技法を身につけ、児童生徒の理解や支援に役立てることができる。3.問題行動の背景を理解し、対処および予防のための具体的な方法を考えることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	教育相談を学ぶ意義とは	教育相談、生徒指導との違い、学校教育相談の利点と課題			
2	教育相談と心理学の関連性	精神分析、心理社会的発達理論、個人心理学、交流分析			
3	児童・生徒の理解	アセスメント、観察法、面接法、質問紙法、心理検査法			○
4	教育場面におけるカウンセリング	治療モデル、教育モデル、カウンセリングマインド、受容、傾聴			○
5	いじめの予防と対応	いじめの 4 層構造、ストレスマネジメント、ソーシャルサポート			
6	問題行動の種類と対応	反社会的行動、非社会的行動、ソーシャルスキル			
7	チームとしての学校	コンサルテーション、校務分掌、コミュニティ・スクール			
8	総合・まとめ	教育相談のまとめ			
教科書及び参考図書					
参考図書・参考資料等：文部科学省『生徒指導提要』教育図書、藤田哲也監修『絶対役立つ教育相談』ネルヴァ書房					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 2 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週 2 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
提出された課題などについてはフィードバックを行う。					
成績評価の方法・基準					
授業における発問に対する回答回数や回答内容（ルーブリック評価）・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%					
関連科目					
生徒・進路指導論 健康の心理学 発達と学習の心理学 等					
受講上の注意					
講義受講前に、『生徒指導提要』（文科省の HP に PDF が公開されています）に目を通して置くこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	食教育実践論 [School Nutrition Guidance]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-T3216	
この授業に関係する資格					
教員免許 (栄養教諭 2 種) ・栄養に係る教育に関する科目 (栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項、幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項、食生活に関する歴史的及び文化的事項、食に関する指導の方法に関する事項)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
食教育・教育的効果・栄養教諭					
授業の目的と概要					
栄養教諭に必要な基礎知識を習得するとともに、児童・生徒の食行動の現状と課題について把握し、適切な指導を行うための総合的な指導力を身につけることができるようになる。また、給食の時間や特別活動において各教科との関連性を踏まえた学習指導案を作成し、実際の授業に活かせることを目的とする。					
学習の到達目標					
食教育に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、教育の効果的評価方法を実践的に使うことができる。栄養教諭としての資質能力を身につけ、教育活動に応用することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	食教育の意義	栄養教育実習の意義と目的			
2	栄養教諭の職務	教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和			
3	児童・生徒の食教育	教科および特別活動との関わり			
4	法令・行政・諸制度	学級活動および総合的な学習の時間、給食時間等の関わりおよびその他教育活動との関わり			
5	児童・生徒に係る課題	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連			
6	食生活の歴史・文化	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい			
7・8	食に関する指導 1・2	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1・2			○
9	食に関する指導 3	指導計画案に基づいた教材作り			○
10	実習演習 1	教育実習の報告会参加・模擬授業			○
11~13	実習演習 2~4	模擬授業			○
14	実習演習 5	模擬授業・反省・問題点を踏まえての指導案作成・今後の課題の検討			○
15	まとめ	栄養教諭の位置付けと役割			
教科書及び参考図書					
参考図書：小学校学習指導要領解説 (家庭編、総合的な学習の時間編) 中学校学習指導要領解説 (技術・家庭編、総合的な学習の時間編) 食に関する指導の手引き 文部科学省					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 2 時間) : 資料をもとに指導案作成、媒体作成の準備をしておくこと。また、学習指導要領は事前に必ず一読しておくこと。 事後学習 (週 2 時間) : 栄養教育実習における研究授業を想定し、学習指導案作成及び模擬授業を実施する。 模擬授業での評価シートの内容を指導案構成に反映させる。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。					
成績評価の方法・基準					
筆記試験 50% 模擬授業 (評価シート含) 30% 指導案 20%					
関連科目					
栄養教育実習、教職実践演習					
受講上の注意					
栄養教諭に関わる科目です。指導案作成や模擬授業等積極的に参加し、教師を目指すための力が培われるよう臨むこと。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教職実践演習 (中学校) [Seminar on Teaching Practice]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 アクティブ・ラーニング	福島 邦男・川井 明・村井 輝久・内藤 郁芳		国	S-T5214	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許 (中学校 2 種・保健体育) ・教育実践に関する科目 (教職実践演習)					
学位授与方針 (ディプロマポリシー) との関連					
○	豊かな人間性 (広い視野、深い思考力)	○	健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
授業分析・教材研究・模擬授業					
授業の目的と概要					
実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、カリキュラム開発、教科指導、学級経営の方法等について議論を深める。					
学習の到達目標					
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④円滑な学級経営ができる、⑤カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の5つである。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	教育実習 ふりかえり			
2	学校運営 1	学級活動の運営方法			
3	学校運営 2	チーム学校に必要なスキル			
4	生徒指導	体罰をめぐる諸問題			
5	授業分析 教材研究 1	保健体育の授業分析と指導方法 (保健)			○
6	授業分析 教材研究 2	保健体育の授業分析と指導方法 (実技)			○
7	授業分析 教材研究 3	道徳教育における問いの立て方			○
8	授業分析 教材研究 4	特別活動における対話的主体的な学び			○
9	特別支援教育	学外講師による特別授業 1			
10	教員としての心構え	学外講師による特別授業 2			
11	単元計画	指導案作成			○
12	体育実技 発問 評価	模擬授業およびロールプレイ発表会 1			○
13	体育理論 発問 評価	模擬授業およびロールプレイ発表会 2			○
14	保健 発問 評価	模擬授業およびロールプレイ発表会 3			○
15	道徳 発問 評価	模擬授業およびロールプレイ発表会 4			○
教科書及び参考図書					
参考図書：特になし 必要な資料は適宜配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 0.5 時間) : 教育実習先での学びを反省すること、また学習指導案作成及び模擬授業の準備を行うこと。 事後学習 (週 0.5 時間) : 模擬授業を反省し、学習指導案の改善を試みること。					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする。					
成績評価の方法・基準					
レポート課題 40% 指導案 30% 模擬授業の発表 30%					
関連科目					
受講上の注意					
教師として児童生徒の前に立つという自覚を持って参加すること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	保健体育教育実習 [Teaching Practice of Physical Education]		5		
授業形態	担当教員名		ナンバリング		
実習 アクティブ・ラーニング	福島 邦男・村井 輝久・内藤 郁芳		実	S-T9215	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（中学校2種・保健体育）、レクリエーション・インストラクター ・教育実践に関する科目（事前及び事後の指導、教育実習）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）		健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
教育実習					
授業の目的と概要					
中学校において原則3週間の教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導では、教育実習の心構え、学校制度の理解、授業における生徒の指導方法、生徒に接する基本的な態度や技術をしっかり身につける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。					
学習の到達目標					
学校現場において教育実習を遂行できる。学校における具体的な指導方法や指導技術を身につけ、実践できる。今後の課題を明らかにできる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	授業概要 教育実習について	教育実習の内容、及び教育実習の意義と目的			
2	中学校の組織	学校組織の理解			
3	中学校の実態	中学校の実態と教育実習生の心構え			
4・5	授業見学	中学校の授業参観			○
6	教材研究	教材と授業、学習指導要領			○
7	計画を立てる	授業計画、単元計画の立案			○
8～10	学習指導案の作成	指導計画の立案、指導案作成			○
11～72	教育実習	中学校における教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）			○
73	実習のふりかえり	討論			○
74・75	教職に就くには	今後の課題の検討			
教科書及び参考図書					
教科書：教育実習の手引き（初回の授業内で配布する） その他：必要に応じて資料を配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。 事後学習：毎回行った内容を授業後に整理すること。 教育実習後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出すること。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする。					
成績評価の方法・基準					
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容、および提出物など 50%					
関連科目					
教職科目、実技科目					
受講上の注意					
教師として児童生徒の前に立つという自覚を持って参加すること。 教育実習の履修にあたっては、1年次の教職科目および関連科目の単位を全て履修していること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	教職実践演習（栄養教諭） [Seminar on Teaching Practice]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
演習 アクティブ・ラーニング	小坂 由美子 ・ 村井 輝久			N-T5153	
この授業に関する資格					
教員免許（栄養教諭2種） ・教育実践に関する科目（教職実践演習）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
教育心理学 ・ 栄養教育 ・ 学校教育					
授業の目的と概要					
実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、学校栄養教育の方法、栄養教育と各教科内容との関連等について議論を深める。					
学習の到達目標					
食教育に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、教育の効果的評価方法を実践的に使うことができる。教育実習を通して学んだ栄養教諭としての専門能力を教育活動に応用することができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	オリエンテーション	ガイダンス			
2～5	教育実習振り返り1～4	教育実習報告発表			○
6・7	授業研究1・2	指導案作成			○
8・9	授業研究3・4	指導案作成・媒体作り			○
10～13	実習演習1～4	模擬授業			○
14	教職特別授業	教員という仕事の現状			○
15	教職特別授業	初任の心構え			○
教科書及び参考図書					
参考図書：小学校学習指導要領解説（家庭編、総合的な学習の時間編） 中学校学習指導要領解説（技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：教育実習を踏まえて指導案の再構成を行う。指導案作成、媒体作成の準備をしておくこと。また、学習指導要領は事前に必ず一読しておくこと。 事後学習（週2時間）：この演習では、それぞれの担当教員の専門分野に関する講義を踏まえて、各回でレポートを課す。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。 模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。					
成績評価の方法・基準					
模擬授業 50% レポート課題 30% 評価シート 20%					
関連科目					
栄養教育実習					
受講上の注意					
教育実習の振り返りを行い、より良い教師に向けての活動を積極的に行うようにすること。					

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S
教職専門科目	栄養教育実習 [Teaching Practice of Nutritional Education]		2		
授業形態	担当教員名			ナンバリング	
講義・演習 アクティブ・ラーニング	小板 由美子 ・ 村井 輝久			N-T9155	
この授業に関係する資格					
教員免許（栄養教諭2種） ・教育実践に関する科目（事前及び事後の指導、栄養教育実習）					
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連					
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）	○	健康づくりの実践的指導能力		
○	食、栄養科学の専門的知識	○	健康生活の知識と技術の修得		
○	健康管理の指導技術の修得	○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識	○	社会に貢献できる実践力		
キーワード					
教育実習 ・ 栄養教育 ・ 学校教育					
授業の目的と概要					
学校給食を実施している小・中学校において、1週間の栄養教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導においては教育実習の心構えや児童生徒に接するための基本的態度、技術を身につけることを目的とする。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題について検討する。					
学習の到達目標					
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることができる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	事前指導 1	栄養教育実習の意義と目的			○
2	事前指導 2	教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和			○
3	事前指導 3	教科および特別活動との関わり			○
4	事前指導 4	学級活動および総合的な学習の時間等への関わり、給食時間等の関わり、およびその他教育活動との関わり			○
5	事前指導 5	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連			○
6	事前指導 6	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい			○
7・8	事前指導 7	栄養教育実習の課題別指導計画の立案			○
9～11	事前指導 8	指導計画案に基づいた指導案作成・媒体作り			○
12～13	事前指導 9	指導案作成・媒体作り			○
14	事前指導 10	模擬授業			○
15～36	教育実習	小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）			○
37	事後指導 1	栄養教育実習を振り返っての反省			○
38	事後指導 2	反省・問題点を踏まえての今後の課題の検討			○
39・40	まとめ・報告会	レポート作成および教育実習の報告会			○
教科書及び参考図書					
参考図書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布） 小学校・中学校学習指導要領解説（家庭編、技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 食に関する指導の手引き 文部科学省					
準備学習・事後学習					
準備学習（週2時間）：教育実習までに、実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れ実習に臨むこと。 事後学習（週2時間）：教育実習終了後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法					
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめて提出。添削後グループディスカッションを行う。 模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。					
成績評価の方法・基準					
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容および提出物など 50%					
関連科目					
食教育実践論					
受講上の注意					
より良い実践となるように事前学習、準備をしっかりと行い教育実習に臨むこと。					